

ある 市債額

八年度(十一月十日現在)に於ける市債額は二十七萬二千五百三十三圓に達してゐる前年

納税組合

多である、求職者は女中が約五割を占めてゐる、又少年部では商業が多い

職業紹介所

昭和七年に於ける千葉市職業紹介所の成績は

Table with columns for location (e.g., 西院要町, 蓮池料理店), name, and numerical values. Includes sub-sections like '行政區別世帯人口' and '市場'.

市疑獄事件

千葉市政の一大汚點千葉市會の濫職事件は司直の活動に依り俄然摘發された事件の内容

銚子市

銚子市の概要

銚子市は千葉縣の東端に突出する所謂銚子半島の大部分を占め、東は直ちに太平洋に面し、北は利根川を隔て、茨城縣鹿島郡波崎町と相對す。

謂産業都市としての基礎に大いに固められ内外より其の發展を囑目されるに至れり。交通は明治七年利根川に

あり 市政の概要

八年二月十一日極東の産業都市銚子に市制が實施されそれと同時に水郷大利根に添ふて北總の天地をつなぐ佐松線が開通し銚子市は誕生と共に明るい前途に恵まれた、次いで市會議員の選舉があり市長問題に及んだが仲々まとまらず濱口氏を推せど濱口氏は辭し遂に岡田知事に人選を依頼したので知事は經濟更生運動に手足となつて働いた功績者地方課長川村芳次氏を推薦し圓滿に決定を見た銚子市長としての川村氏はお手のもの地方自治を實地で行き新興銚子市は目下圓滿市政の運行を見らるる

現 況

合併は銚子、本銚子、西銚子

豊浦の三町一村に依つて實現し其の結果八年十一月一日現在の靜態は

現在戸數	八、九二四
現在人口	四三、五七五
男	二一、四八七
女	二二、〇八八
本籍人口	四六、四二二
男	二二、七四九
女	一三、六七三

で動態を見ると流右新興都市らしく出生が多い

出生	男 八七三 女 九五
死亡	男 五五九 女 四七五
婚姻	一七三 三三三
離婚	三三 三五
死産	四六 〇

自動車 六九
馬車 二二三
荷車 一、一〇五

自轉車	三、〇一八
人力車	一五
蒸汽船	一二
發動機船	二二六
小廻船	八九
遊船	八

縣稅	三圓七〇錢
市稅	三圓〇六錢
計	一圓〇八錢

で千葉市よりも稍負擔が多いが之は大産業があるのに依り一般市民の負擔は却つて千葉市よりは少ない

租 稅

醬油王國であると共に石材鹽業等の生産業に恵まれ國稅は千葉市の比ではない。昭和八年の調査額を示せば	
國稅	一五八、三九五
縣稅	一六一、二二七
市稅	一六二、六五四
計	四八二、二七六

で又一戸當りで見ると

國稅	一七圓八六錢
縣稅	一八圓〇六錢
市稅	一八圓二二錢
計	五四圓一四錢

又一人當りの負擔額を見ると 三圓六四錢

生産方面

生産價額	二、五二、九七三
農 産	三、八、九三三
畜 産	九、三三三
林 産	三、七〇一
水 産	二、三三、四〇〇
工 産	八、七二、五九五
飲食料品	七、〇六、六〇九
雜工產品	一、五九、四六三
織 物	五、八五二
染 物	二、六七二

△小學校教育 教育關係

七、岡本善夫、宮内安藏
根本松太郎、篠崎喜太郎

荷札は
甲子印刷所へ
千葉市梅屋敷

縣内日刊新聞社一覽

新聞紙名	創刊年月	發行所	發行人及社長	主筆及編輯長
千葉縣民新聞	明三六、四、三	千葉市	五十嵐喜久	河野彦人
房總日々新聞	大一一、一、一	同	伊藤隆忠	村山謙三
日刊千葉	昭三、二、一一	同	大立目直武	柵橋豐彦
千葉日々新聞	同三、三、一七	同	沼田市太郎	小暮亮
房總新聞	同三、一、一	同	大澤 中	小林魯江
房總新聞	同三、一、二〇	同	菅谷貞太郎	小柴 博
房洲新聞	同五、三、三	館山北條	押元治郎	同
日刊房洲	同六、二、一一	同	瀧口亮三郎	同
千葉日報	同八、九、一	千葉市	池田勝隆	内山清美
夕刊千葉	同八、九、二〇	野田町	柴崎弦夫	同
房總毎日新聞	同八、一〇、一	千葉市	多田 勇	同
日刊魁新聞	同八、一〇、一五	銚子市	明石清三	同

市會社議員名簿

大里庄治郎、今津徳兵衛、加瀬道之助、明石傳七、宮本茂、酒井周治、渡邊賢造、笹本長吉、飯田悦二、大岩長松、篠塚福太郎、鎌倉國松、海保仙吉、石上新藤、吉原隆治、新川米吉、櫻井米吉、青野慎助、高木萬太郎、椎名隆、床枝吏三、樋口忠兵衛、加瀬龍藏、田邊五郎松、土手伊平、辻野傳

學校數

六、七二四
一三六
一二九

兒童數

七、

學級數

△實業補習學校は校數四教員男二八女三で生徒は二〇〇人で女が八一人居る青年訓練所は生徒四八五人指導員四四で出席歩合は七九〇〇である

縣管水道計畫概況

一、給水區域
千葉市、松戸町、市川町、八幡町、中山町、葛飾町、船橋町、津田沼町、幕張町、檢見川町、行徳町、南行徳村、浦安町（一市十二ヶ町村）

二、水源
（イ）千葉市附近 鑿井
（ロ）東葛飾郡松戸町地先江戸川河水

三、計畫給水人口（昭和二十五年を想定す）
豫想總人口 三三、三〇〇人
内 千葉市 九、三〇〇人
十二ヶ町村 二四、〇〇〇人
計畫給水人口 二五、〇〇〇人
内 千葉市 七、〇〇〇人
十二ヶ町村 一八、〇〇〇人

四、給水量
一人一日平均 一〇〇〇立
一人一日最大 一五〇〇立
一日最大給水量 千葉市一〇、五〇〇立方メートル
十二ヶ町村 二七、〇〇〇立方メートル

五、工事及施行地
水源
（イ）千葉市附近に於て鑿井を設け地下水を揚水す
（ロ）松戸町地先江戸川に取水塔を設け河水を取入る
（イ）千葉水源池と同一構内に急速濾過装置、唧筒室を設置す
（ロ）江戸川水源池に接し松戸浄水場構内に沈澱池、濾過池、配水池、唧筒室を設置す

千葉水源池より之を揚水す（ロ）松戸浄水場構内に設く送水管
千葉水源池より都村地内に設くる配水池に達す

配水管
（イ）千葉水源系統のものは都村地内配水池を出て千葉市内に分布して敷設す其幹線の末端は江戸川水源系統の幹線に連絡す
鐵管内徑四五〇耗乃至七五耗なり
（ロ）江戸川水源系統のものは其幹線は松戸浄水場内唧筒場より出て松戸町、市川町、八幡町、船橋町等を経て檢見川町に達し、向八幡町にて分岐し行徳町を経て浦安町に達す
幹線より分岐して給水區域内に支管を敷設す

鐵管内徑八〇〇耗乃至七五耗なり
鐵管線中には制水弁、排氣弁、排泥弁、消火栓等を適宜配備す

六、工事期限及通水時期
起工 昭和八年度
竣工 昭和十年度
工事期間 三ヶ年
通水 昭和九年度より一部開始

七、水道布設工事費及繼續年
期支出割
金參百五拾萬圓 水道布設工事費總額
内 金八拾萬圓昭和八年度支出額
金百參拾五萬圓 昭和九年度支出額
金百參拾五萬圓 昭和十年度支出額

昭八年度 昭九年度 昭十年度
七四、五〇〇 一、三三、七〇〇 一、三三、八〇〇
五八、七〇〇 一一、七〇〇 一〇、六〇〇

豫備費 七〇、〇〇〇
計 三、五〇〇、〇〇〇
内 譯 其ノ二 一、六〇〇、〇〇〇
一、工事費 三、一五〇、〇〇〇圓
種別 金額 摘要

水源費 八〇、〇〇〇圓 江戸川取水塔、千葉鑿井、揚水設備費
浄水費 七二、〇〇〇圓 沈澱池、濾過池、構内工事費
配水費 二、〇八四、〇〇〇圓 ポンプ、場配水池、送水管、配水管用地補償、検査費
設備費 二〇〇、〇〇〇圓 建築、電話、器具機械費
雑工事費 五〇、〇〇〇圓 雑工事
雑費 五〇、〇〇〇圓 測量、製圖、運搬費
計 三、一五〇、〇〇〇圓

二、事務費 二八〇、〇〇〇圓
種別 金額 摘要

俸給 一三三、四〇〇圓 顧問一、主事一、技師四、技手十二、書記六、雇十一、工手廿人旅費、手當、賞與、諸備給、備品、消耗品、贈、通信、運搬、圖書印刷、被服、雜費

雑給雜費 一四、五五〇圓
計 二八〇、〇〇〇圓

三、豫備費 七〇、〇〇〇圓
八、水道事業收支計算
一、收入
（イ）國庫補助金 昭和
總額八十七萬五千圓
昭和
八年度より昭和三十一年度に亘る廿五ヶ年間に交附せらるゝものとす
而して工事期間即昭和八年

度より十年度に至る三ヶ年間は失業救済事業として各年度二萬圓宛補助を受けるものとす
（ロ）縣債
水道布設費總額三百五拾萬圓を全部起債によつて支辨することとし其の額左の如し
昭和八年度 七十九萬五千圓
昭和九年度 百三十五萬五千圓
昭和十年度 百三十五萬圓
（ハ）水道使用料
給水人口平均一人一ヶ年の収入參圓三十錢と見込む
給水人口は總人口の一割より増加して通水開始後十八ヶ年目に七割五分即ち總人口三十四萬人に對して二十五萬人の給水を見込む
（ニ）雜收入
主として起債の預金利子にして八年度に利率年三分、三ヶ月分、九年度及十年度は利率年三分、一ヶ年分の利息を見込む、給水開始後は使用料収入の預金利息と

して其の百分の一を見込む
其他手数料雜收入を包含す
（ホ）給水工事収入
總額五十七萬圓、給水工事一件につき平均十五圓（平均二十五圓の六割）を需要者より納入するものと見込む、而して給水戸數の七割を専用、三割を共用と見做す、即ち給水總戸數に對して七割六分の給水工事件數となる昭和九年度より廿六年度に至る十八ヶ年間に三萬八千件を施工する見込
尙給水工事費は普及獎勵の爲昭和九年度、十年度、十一年度中に取付くる者に限り一件平均七圓五十錢（平均廿五圓の三割）まで取付料を低減し十二年度以降は一件平均十五圓以上の相當高率の料金を納入せしむるものとす
（ヘ）特殊縣債
各年度に於て收支の均衡を得る爲めの起債にして普通債利子の補給、給水工事費

の補給及量水器購入費に充當するものとす

二、支出

(イ) 布設工事費總額三百五十萬圓

昭和八年度 八十萬圓
昭和九年度 百三十五萬圓
昭和十年度 百三十五萬圓

(ロ) 縣債償還

借入たる資金は夫々三ヶ年間据置き二十ヶ年平均償還するものとす

即最初の借入より廿五ヶ年目に元利一切償還を完了するものとす、利率は年五分五厘とす

但し借入後二十ヶ年目以降は收支に於て相當の剩餘金を生ずるを以て三ヶ年乃至四ヶ年償還することを得

(ハ) 特殊縣債元金償還

總額百二十二萬八百三圓昭和二十年より昭和廿七年に至る八ヶ年に償還するものとす

(ニ) 特殊縣債の利子

利率年五分五厘借入の年より支拂ふものとす

(ホ) 經常費

給水人口一人につき一ヶ年一圓五十錢(人口五萬未満、昭和九、十年度)
一圓二十錢(人口五萬以上、昭和十一年度以降)
昭和二十六年年度以降年額三十萬圓

(ヘ) 給水工事

總額九十五萬圓一件につき平均二十五圓三萬八千件但し需用者の納入額は取付の年度により増減すること収入の部に記載せる通り

(ト) 量水器費

總額五十七萬圓給水工事一件につき一個を取付くるものとして一個につき十五圓の見込

(チ) 積立金(剩餘金)

昭和廿七年度より漸次増加し昭和三十二年より年額五十三萬三千二百五十圓に達す

縣營上水道布設の利益

本縣に於て上水道事業を經營せむとする江戸川沿岸地方即ち千葉市外十二ヶ町村人口は二十萬弱にして輒近大東京の膨脹は地理的關係上著しき影響を受け遂年發展して底止する所を知らざる趨勢を迎れり之が實情に對應する爲諸種の施設を必要とするも就中上水道の布設は本縣産業振興と文化の進展上最も急務にして然も各市町村個々に於て經營するか又は民營となすよりも公共的事業の性質と工費經濟上の見地より寧ろ統一して縣營事業を適當なりとする所以なり

凡そ事業の達成は起業の堅實如何に因るものなるべしと雖も主として縣民と需要供給の關係に立てる本事業の如きは起業の精神を理解せしむると共に各自が享くべき利益を明かにし以て上水道利用を誘

致し給水普及率の昂上を計り収入を確實ならしむるは縣政上の安固を期する所以にして進んで料金の低減を策するは本事業遂行の要諦なるを以て關係市町村民に本事業の趣旨を徹底せしむるは極めて緊要なりと信す

一、衛生上の利益

露に千葉市外十二ヶ町村に於て調査せる井戸總數一萬八千七百四箇中飲料に適するは七千三百二、飲料に適せざるは一萬九百八十二にして總數の六割は飲料不適に屬す從て傳染病は累年増加し就中人口増加率比較的大なる千葉及市川町を例示せば

千葉市	昭和五年	昭和六年	昭和七年
市川町	三三	一四五	一七五

にして年々傳染病者は累加し然も上水道布設區域たる一市十二ヶ町村に於ける昭和二年十月より同六年十月に至る傳

染病死亡者は一年平均三百四十九人の多きに及び、而して最近八王子市の實績に依れば同市が上水道布設前に比し約五割の傳染病患者を減せるに鑑み如何に飲料水の不良が衛生上に影響あるやを知るに足るべし

一、火災減少の利益

千葉市外十二ヶ町村の戸數三萬四千九百餘にして其の火災損害額昭和六年五萬二千七百七十二圓、同七年三萬九千一圓、同八年二十四萬五千二百二十三圓を算し、然も年々増加を辿りつゝあるのみならず本年に於て既に前二ヶ年の被害高を突破せり之等は主として消火用給水不完全なるに原因し既に八王子市の實際は上水道消火利用の爲火災損害年額昭和五年度六十八萬圓同六年度四十二萬圓同七年度十一萬圓にして遂次損害額を減少せるに鑑み上水道布設が火災防止上至大の功果あり

るは明白なりとす

一、火災保險料の軽減

上水道が火災損害減少に効果大なるは前項に述べたるも之が爲延て火災保險料を軽減せしむるは各地の事例之を證して餘りあり既に静岡市に於ては火災保險契約總額三千十萬七千圓(昭和六年三月調査)此保險料二十二萬三千二百圓なりしか偶々上水道布設により二割を低減し年額約四萬圓の利益を得るに至れり從て千葉市外十二ヶ町村の保險契約總額五千萬圓此の保險料金四拾萬圓なるが故に上水道布設の爲約四分の一の低減を見らば年額十萬圓の利益を得べし

一、人口の増加及工場設置の誘致

上水道布設の結果が衛生上及火災損害低減上極めて有効なるは前述せる如くなるも單り物質上の利益のみならず自然生活の安全は一層

人口の増加を誘致し且給水設備の完全は工場設置を促進すると共に地價の昂騰を來すべきや明にして土地の發展は愈々本縣多年の懸案たる鐵道電化實現の先驅を爲すに至るべし

一、上水道料金

縣營上水道料金は一戸一ヶ月一圓三十錢(十立方メートル)の豫定にして東京市上水道料金に比し稍や高價なるが如きも翻て全國の例に徴せば低額なり之を現在各戸に引用せる電燈料金に對比せば一戸定額燈十燭光二燈と見做し此の料金一燈七十二錢(内六十七錢定額五錢布線損料)二燈分一ヶ月一圓四十四錢となり上水道料金一ヶ月分に於て十四錢低し而して料金は事業經營上の安固を計りたる採算及率昂上せは自然收入の餘裕を來すべく斯る場合は公營事業の特質上適當の時期

に於て料金の軽減を計り得べし

一、水道布設による租稅力増加

水道布設の爲住宅の激増、工業の勃興の爲人口増加率が著しく増加することは既往の實績に徴し又現下の情勢に鑑みて容易に想像し得るところなり。我が江戸川沿岸地方に於ても既往人口増加率千分の三十二が千分の五十に増加することを豫想することは極めて自然の推定なるも此割合を以て家屋稅及不動産取得稅を採り内輪に見積る時は初年度に於て年額約十五萬圓、十年後には年額約六十萬圓の租稅力を生ずる譯なるべし

縣下名所舊蹟遊覽地

市川千葉間

眞間山

山上の弘法寺は延暦二十四年弘法大師の創立に成り、本尊は釋迦如來をまつてゐる。寺内は鬱蒼たる樹木、傍の遍覽亭からは武總連山を望み、脚下には江戸川の清流が漂つてゐる。里見弘次、小笠原貞頼の墓、夜泣石鐘懸の松がある。山への登口に日本初まつて以來の美しい清い女性で有名な手古奈鑿堂が安産の守神として賽客が多い。又附近には眞間の井、眞間の繼橋眞間の入江、安國の晩鐘、鐘ヶ淵大鼓塚の古蹟に富む。

國府臺

日本武尊御東征の歸路一羽の鴻が江戸川を瀬踏みし無事渡らせたといふ古事に名高い。

北條里見兩氏の古戰場、國府臺城跡はいまは野戰重砲兵聯隊、野砲重兵大隊となつてゐる。里見八犬傳の遺跡、里見公園があり、江戸川清流を俯瞰し春は櫻、夏はボート遊び秋は紅葉に散策に好適である。

市川競馬 是驛から近い。梨いちご、浦安の海苔

下總中山

中山法華經寺 日常上人開基以來六百五十餘年を経た日蓮宗大本山の一つで關東屈指の名刹である。文應元年日蓮上人が百日說法をしたと傳へられ寺内にある絹本著色十六羅漢像八曲屏(趙橋筆)の一又は國寶で五重の塔、法華堂四足門は特別保護建造物に指定されてゐる。又院内には人情に富む泣き銀杏や櫻樹が多く春の散策には好適である。毎

年四月十五日から十八日迄を千部會、十一月十五日から十八日迄を御會式を稱して盛んな法會が営まれる。

中山競馬場 東洋一を誇る宏莊なるスタンドと優雅な音楽堂を持ち、春秋二期の競馬は全國のファンを熱狂させる(農林省公認日本の大競馬の一)

八幡不知數 古の秘密境で天保年間平貞盛が將門討伐の折「此の地は八門遁甲の陣にして死門の一を茲に遺す。後世人跡を入るゝ勿れ」と告げ又水戸光圀公も應神に逢つたと傳えられてゐる。近くの葛飾八幡神社は縣社。

其の他原木山妙行寺(驛から十八町)龍經山妙正寺(二十町)劍豪宮本武藏の墓のある徳願寺(一里等古蹟が多く又八幡町の千本公孫樹は根元の周圍から多くの枝幹が出て目通り三十六尺に達する巨木で天然記念物に指定されてゐる)名物◇ 梅やうかん(十錢)

大根切干、こんにやく、梨

御瀧・動尊

は八榮金杉にあつて二月十八日が大祭、三咲の櫻は古來櫻の名所として知られ有名な海軍無線電信所は驛から北十八町の地にある狩獵地 附近は鳩、雉子、千鳥、鴨の好獵地である。

三田濱樂園(五町)潮干狩、海水浴場 遊戯場の設備が整つてゐる。又海岸一帯は鯛小鯛、鰯、かれひ、せいご(自四月至十一月)が採れる。

名物◇ 貝類のつくだ煮、大根切干

津田沼

谷車遊園地 袖ヶ浦に臨み潮干狩、海水浴場遊覽地とし

て諸種の設備が整ひ、阪妻關東撮影所もあり一日の清遊地に適してゐる。

習志野原 秋栗拾ひや茸狩の好適地、二宮神社伊藤飛行場等がある。海岸一帯は遠淺で海水浴に適してゐる。

名物◇ 西洋松茸、貝魚佃煮、びわ罐詰、玄米せんべい

眞幕張

昆陽神社 甘藷の試植者として有名な青木昆陽を祭つた享保二十年現在の馬加の地に甘藷を試植した全國的甘藷の先進地で現在年産五千七百十五萬貫五百三十萬圓といふ。女夫梅 長胤寺の老幹の大枝垂梅で花は必ず二輪離れず開くといふ。

海水浴場 (三町)遠淺の海で潮干狩にも良い。

名物◇ 甘藷、西瓜、赤貝

海水浴場としての稻毛は東京からの日歸り遊覽地として屈指の場所夏の世界が同町を盛り上げて居る。

淺間神社 木花咲郁姫が祭神で、安産及小兒の守護神として毎年七月十五日の大祭は有名である。大山と稱する丘岡にあつて海を俯瞰する絶景地である。

海水浴、潮干狩 遠淺で海中ではアサリ、ハマグリ等が採取出來、潮干狩、海水浴場として設備がととのつてゐる

逓信省無線電信所は東洋一の設備、武石城址、馬加城址、鷺沼城址等の名勝舊蹟地及び妙見神社(横橋)には名木からかさ松(九十尺)がある

名物◇ ハマグリ一網(一升入)十五錢より、アサリ(右同)

千葉市

千葉氏八百年の居城跡で千葉縣廳の所在地として縣の中心をなしてゐる土地は起伏が少なく廣潤で市街を貫流する都川は西南の東京灣にそそぎ氣候に激變がない。既に都市計畫が實施され大千葉市建設への第一歩をふみ出し最近はや

大東京の緑地帯に編入され近く電化水道等の文化的施設も實現することになつて居り保健衛生の立場其の他から見ても所謂「住よき都」又は「永住の土地」であると共に又學都でもある。縣廳、圖書館、等新築中

潮干狩と海水浴場 初夏の陽光の下にオゾーン豊かな大氣を満喫しながらアサリ、ハマグリ等の採取(市漁業組合の貝類養殖場で入場料十錢で一升二合入の網袋が交付される)や貝拾ひや婦人子供連れ

の潮干狩に好適である。海水浴場は東京灣の袖ヶ浦一帯、遠淺で波靜かな海岸で無料脱衣所其の他の浴場の設備は千葉、潮干狩と同)本千葉の二ヶ所で婦女子にも危險はなく今日では湘南地方の海水浴場を壓して都人士の來遊する者が多く帝都に隣接してゐるため日歸りの遊覽地として好適である。又「キス」釣で知られる外採取される貝類は珍味

でアサリ汁、焼ハマグリ、袖ヶ浦味噌等は特に美味である

緑地帯 登戸、黒砂の里餘に互る海岸一帯の丘陵は松林地として又綿打池吾妻臺、穴川等は住宅地として良く殊に海岸一帯の丘陵地は「富士の靈峰を軒近く賞し、點在する漁船を指呼の間に眺め、所謂山水の翠を一眸の間に收め得る」一景勝地である。地價は京

成新千葉千葉海岸濱海岸附近分譲地は整理した關係で坪二十圓内外といふが山林地は四五圓乃至二三圓程度貸地は坪九錢乃至四錢程度である。

千葉神社 徳川時代には妙見寺と呼ばれた。天仰中立命を相殿に經津主命、日本武尊を合祀してゐる。境内にある招魂社は毎年八月十六日から二十二日迄大祭がある。俗に「だらだら祭」と呼んでゐる。猪の鼻臺 永承年間に上總之介忠常の子常將が下總權介に任ぜられ千葉氏と名乗り其の子常重が此處に城址を築い

て千葉城と言つた。坂の下に
お茶の水といふ古井戸がある
往時千葉氏の茶の湯に供せら
れたと言ひ傳へられ今に清水
をたゝえてゐる。臺上には櫻
樹が多く春は数箇のボンボリ
に夜景をしたつて散策者が多
く、全市を一望に遠く富嶽を
眺められる。警察官殉職碑が
ある。

千葉寺 千葉美ひで有名な
坂東二十九番の札所で眞言宗
高野實性院の末派海上山觀喜
院青蓮千葉寺といふ。往時は
聖武天皇の勅額所だつた事も
あり、現在の堂宇は建久三年
頼朝の命で平常胤が再建した
境内には戻り鐘がある。高サ
一丈周圍三丈八尺の銀杏は天
然記念物に指定され、櫻樹も
多い。

千葉醫科大學 高臺にあり
附屬病院と共に千葉市の一名
物である。校内は傳説に富む
校舎は宏壯、最近東洋一の稱
がある附屬病舎が新築中だ。
同校は明治七年二井祖の首唱
で千葉、登戸寒川の有志から
金一千二百餘圓を醸金して共
立病院を設けたものが初めて
院長は縣の屬官が當つた。

千葉公園 縣廳舎裏の庭園
で羽衣池畔には名木羽衣松(一
現在は新しく植えたもの)が
ある。君持橋(寒川片町)千葉
家の菩提所大日寺、(千葉驛
から十丁)等名勝古蹟が多い

房總線に沿ふて

蘇 我

大巖寺 龍澤山と號し、關
東十八壇林の一淨土宗智恩院
の末派、名僧道譽の開基と傳
えられてゐる。寺内に天國の寶
劍及祐天上人血の衣が寺寶と
されてゐる。境内は廣く禁獵
地のため禽鳥に樹木は年々枯
死し魚が降るといふ程鵜が多
い。山門前の不鳴の池にすむ
蛙は鳴かぬとの事。高さ二十
一尺のひささきの老樹、名木
名譽樹等がある。
足利義明の小弓御所南北二城
趾がある。北生實、長山、柏
崎の城壘跡もあり、原、里見
兩氏の生實古戰場、僧日泰の
墓、嶺臺(生實)本行寺(濱野)
郷社蘇我神社、森川氏累代の
墓、北生實重俊院、縣立生實學
校等がある

◇寶立潮干狩 驛から一町
の狩岸が好適地

家政女學校 縣農會の經營
で農村子女の實科女學校とし
て著々實績をあげてゐる。實
習體驗を尊重、學術指導と共
に人格教育に重きを置き、學
費の少額期間の短期、内容の
充實を三大特色してゐる。

◇名物◇ 干海苔、甘諸濃粉

濱 野

寶立潮干狩(驛から三町)波靜
かな遠淺の海。狩獵地(海岸
附近)鴨、鳴(山間附近)雉
子、兎の好獵地である。

八幡宿

八幡海岸(驛から四町)内灣の
波靜かな婦女子に適する海水
浴場で納涼臺の設備もある。
潮干狩寶立漁業にも適する(一
寶立料金二十圓、二十人乗)
船頭付)五圓時期五、六月)
飯香岡八幡宮 總社八幡宮
と稱し日本三岡八幡宮の一つ
である。譽田別尊(中殿)息長
帶姫尊(左殿)玉依姫尊(右殿)
猿田彦命(前殿)日本武尊、足

仲彦命、經津主命天穗日命、
日筒男命事代生命の八體をま
つり境内は二千五百坪の廣さ
で大銀杏は本社建立の際勅使
櫻町郷の手植と傳へられ根本
から二本に岐れ高さ七尺周圍
三丈五尺に及び樹下の碑に
君がため今日植えそへし銀
杏木に幾世へんとも神やど
るらむ

ときざまれてゐる。無量寺に
は千葉康胤の古墳がある。
狩獵地 附近にうづら、小鳥
兎等

五 井

五井の鼻 源を清澄山と筒
森山谷に發する養老川の河口
で永年の流砂が遠く海中に突
出し、砂上には老松が繁茂し
てあだかも天の橋立の如き感
がある。波は靜かで海水浴に
も適し風光の地である。
五井海岸海水浴や寶立に適し
てゐる。松平家信の墓村上城

址がある。寶立(料金五六月
三十圓、七月以後二十圓、二
十五人乗舟(船頭一名)付申込
は大島屋 壽司屋等藝妓一名
五圓酌婦二名二圓)
◇名物◇ ハマグリ、アサリ
海苔羊かん(十錢)

姉ヶ崎

このあたりから海水浴場とし
て内灣の眞面目が出てゐる。
特に變つた事は町の人々は迎
春の門松の代りに神を用えて
ゐる。
一あゝ待つはつらし一と歸り
來ぬ君を待ちこがれて怨み給
ふたといふ、姉ヶ崎神をまつ
る意味があるが不思議にも同
地には松は生育しないといふ
神秘さを含んでゐる。

姉ヶ崎神社 町の東端明神
山丘陵の頂上にあつて日本武
尊東夷征伐の際島穴神社(二
十六丁)と共に建創されたも
ので毎年七月二十日の大祭は
賑ふ境内は廣大で老杉鬱蒼と
して仙境をなしてゐる。
義僕市兵衛の墓 妙經寺境

内にある、山谷靈光寺等があ
る。
海水浴場遠淺で波靜かな海、
眞砂と杉並木に婦人や子供の
清遊地として適してゐる。

葉

坂戸神社 人身供御の神社
として有名で祭神は天手力雄
命天兒屋根命、天太玉命を合
祀し創建年月は詳かでない。
沃富神社 天慶年間平將門
叛亂の際綏清天皇が勅敵降伏
を祈願して太刀一口を納めた
と傳えられ現在太刀は神殿に
奉安されてゐる。祭神は倉稻
魂命、大己貴命、小彦名命が
合祀され近郊八ヶ村の鎮守と
されてゐる。

海水浴場 隣村金田海岸と
浦つゞきで内灣特有に波靜か
で婦女子の海水浴に好適であ
る又附近は寶立(六町)に適し
漁獲の多いので有名である。
(寶立費用：船頭付遊覽船十
五圓乃至四十圓、時期は四、
五、六月頃好適)
狩獵地 附近の海岸には鴨

鳴が多い。
奈良輪に弘文天皇々子の古墳
日本武尊が橘姫の亡骸を葬つ
たと言はれる丸山古墳(根形
村三里)等がある。

木更津

君津郡の中心地で切られ與三
郎と證城寺狸ばやしで有名で
ある往時日本武尊が東夷征討
の際相模の走水から上總を渡
り給ふとき颶風が起り舟を進
める事が出来なかつた。この
時龍姫は海神の怒りを靜めん
と入水したため風もおさまり
尊は無事上總へ渡る事が出来
た。尊はこの地を去らせ給は
ず君不去と名づけ今日の木更
津に轉化したものである。上
古け馬來田國造の管轄地で中
古千葉廣常の代は鎌倉幕府に
文明以來は里見氏、天正十八
年徳川將軍の直轄になり、明
治四年廢藩置縣に木更津縣の
縣廳の所在地となつた本年四
月眞舟村を合併して大木更津

への第一歩を踏み縣營二十八萬圓の築港と近く完成する木原線の全通と都市計畫とに將來の發展性に富む。

海水浴場(三町)遠浅ない、海だ貝拾、船遊び、實立に適してゐる。夏期には町役場商工會、青年團等が避暑客の便宜を圖つてゐる。この外、あぐり網、うな網、あじ釣り等によい實立(料金十圓、船賃(船頭付)五人乗四圓二十錢)畔戸海岸、小横川から南木更津に連る沿灣の地、こゝから望まれる富士は畔戸富士として推賞されてゐる。

葎ヶ作の貝塚、清川村祇園にあつて附近一帯は貝殻、塚に今も尙古代の土器、名斧、石簇の類が發掘される。切られ與三郎の墓(三町)光明寺の境内にある。與三郎とおなじみのこゝも安の墓も近くにある。この外義高與平治の墓戀の森、長樂寺、蓮田と狸はやしで有名な證城寺等がある。矢那高藏寺、眞言宗坂東三

十番の靈所で平野山と號してゐる。推古天皇の御代猪野長官が祈願の結果子をもうけ其の子は後に藤原鎌足になつたと傳へられてゐる(鎌足村にある)。

木更津八景、鳥井崎歸帆、峰樂師の青嵐、畔戸の落雁、戀の森、墓雪、善光寺の晚鐘、祥雲寺の秋の月、矢那川の夜雨、長樂寺の夕照。

狩獵地、小横川沿岸及び久留里附近へかけて山鳥、鴨の好獵地である。

◇名物◇ 干海苔、海苔羊かん、蓮羊かん、アサリつくだ煮、磯羊かん、ハマグリみる貝、平貝、馬鹿貝、横櫛煎餅、たぬき甘酒、たぬき煎餅、狸饅頭、たぬきの木彫。

△周 西

海岸線は周西から九重まで要塞地帯には入つて居るので寫眞撮映等が禁じられてゐる。人見妙見神社、平将門の創建で天神中主尊を祭神としてゐる。

望み、富士の靈峰も遙かに望まれる。遠浅で波静か、無料脱衣所休憩所遊戯所等の設備も整つてゐる。

湊川、一名天神村とも呼ぶ中流に鮎釣の好適地があり大きな白魚がとれる。

湊薬師、醫王山東明寺に在り行基作の薬師如来と運慶作の十二神を安置してゐる。

天神山、郷社八雲神社、犬吠臺は土地の名勝、環村大和田興源寺には數年前まで高さ九十六尺の樟の名木があつた天神山には梨澤不動瀧と呼ぶ直下二十尺幅十二尺の瀧がある。又附近は茸の名産地である。

狩獵地として山地は小鳥、鳩兎に好適である。

◇名物◇ 柿、栗、白魚の天ぷら

△青 堀

青堀鑛泉、アルカリ性弱鹽類の暗褐色無臭のラヂウム及沃度プロムを含む鑛泉で神經質、胃腸病、婦人病慢性皮膚病等に特効がある。喜樂館、靜養園では驛から無料で送迎自動車を運轉してゐる。

青堀鑛泉、アルカリ性弱鹽類の暗褐色無臭のラヂウム及沃度プロムを含む鑛泉で神經質、胃腸病、婦人病慢性皮膚病等に特効がある。喜樂館、靜養園では驛から無料で送迎自動車を運轉してゐる。

青堀鑛泉、アルカリ性弱鹽類の暗褐色無臭のラヂウム及沃度プロムを含む鑛泉で神經質、胃腸病、婦人病慢性皮膚病等に特効がある。喜樂館、靜養園では驛から無料で送迎自動車を運轉してゐる。

青堀鑛泉、アルカリ性弱鹽類の暗褐色無臭のラヂウム及沃度プロムを含む鑛泉で神經質、胃腸病、婦人病慢性皮膚病等に特効がある。喜樂館、靜養園では驛から無料で送迎自動車を運轉してゐる。

◎大 貫

大貫海水浴場、弓形の長汀が約一里あまり布引ヶ濱の名がある。理想的な海水浴場として好評があり町當局では種々遊覽客の便をはかつてゐる。辨天山古墳は眞福寺、平兵衛の曲り松、磯根崎、辨天塚、奥庭公園等がある。又二町餘の附近にきのこ狩の適地がある。

鹿野山、海技千二百尺房總三山の一で頂上の眺望は關東第一と言はれてゐる。頂上の琳聖院神野寺は聖徳太子の開基で關東屈指の構造、表門は左甚五郎の作と傳へられ特別保護建物になつてゐる。又寺寶として甚五郎作の白蛇もある。神野寺の東方僅かに白鳥神社がある。日本武尊を祭り境内は千餘坪の芝生で脚下は九十九谷の奇觀、内灣の眺望と相まつて美觀の限りである。鬼山、湊町の一部で春は櫻秋は紅葉、初茸狩に好適である。

新舞子海水浴場、瀬戸内海の舞子の濱に似て白砂青松、風光にとむ設備萬端整つてゐる。

◇名物◇ 苺羊かん(一〇錢)栗羊かん(一〇錢)羊かん(一〇錢)栗羊かん(一〇錢)

△上 總 湊

海水浴場、風光に富む海濱で對岸伊豆半嶋を指呼の間に

望み、富士の靈峰も遙かに望まれる。遠浅で波静か、無料脱衣所休憩所遊戯所等の設備も整つてゐる。

湊川、一名天神村とも呼ぶ中流に鮎釣の好適地があり大きな白魚がとれる。

湊薬師、醫王山東明寺に在り行基作の薬師如来と運慶作の十二神を安置してゐる。

天神山、郷社八雲神社、犬吠臺は土地の名勝、環村大和田興源寺には數年前まで高さ九十六尺の樟の名木があつた天神山には梨澤不動瀧と呼ぶ直下二十尺幅十二尺の瀧がある。又附近は茸の名産地である。

狩獵地として山地は小鳥、鳩兎に好適である。

◇名物◇ 柿、栗、白魚の天ぷら

海水浴場、水が清く風光に富んでゐる。

△竹 岡

黄金井戸、岩窟の中に石の辨財天があり、周圍四坪は深

△濱 金 谷

サ一尺五寸の池で二月下旬から五月上旬迄黄金色の水藻が發生する。(三好理學博士の調査に依れば「クロムリーナロサ一フイー」といふ原生藻類で分生生殖をなすとの事)

竹ヶ岡陣屋跡、文化八年松平定信が幕命で海上防備の爲砲臺を築き陣屋を置いたところである。

造海城址、眞里谷村波の居城址で文明年間里見氏が攻めた際容易に陥らず、城主丹波氏が「此の地の新詠百首をよめば降参する」と申出で、里見氏をへこましたといふ古話に名高い。

石材の産出地で房總の名山鋸山を背に三浦半嶋を控え、登山に海水浴に好適地である郷社金谷神社は洞窟に祭られ祭神は海上から引上げた釜の蓋といふ。

◇名物◇ 百合羊羹(一〇)二〇)びわ羊羹(一〇)一〇)

△保 田

海水浴場、海上一里の間に五ヶ所の海水浴場があり前方に浮島が浮び背後に鋸山の奇巖を負ふ準備萬端整つてゐる。

鋸山、海技千八百八十尺、安房上總の國境をなし奇岩怪石山骨露出し腹部から上は分れに鋸の齒の如く數峰になり、眼下に風光明媚な海を見下し一幅の繪巻物の觀がある。山の中腹に曹洞宗日本寺があり境内には源頼朝が植たといふ八百年を経る高さ十六尺の大蘇鐵がある。外頂上までには公園、瀑布、五百羅漢等がある。山頂の十州一覽臺がらほ關東十三州を一眸のうちに収め風光絶佳である。

妙本寺、日郷上人の開基、日蓮上人眞筆の曼陀羅を本尊に寺寶が多い。

春風や鋸山を碎く音、子規寒月や鋸岩のあからさま燕

村
 ◇名物◇ ピワ羊羹(一〇一
 一五)梅羊羹(一五錢)ピワ罐
 詰(六〇一三〇)干ひじき(一
 一五)一五(二〇)羅漢羊羹、貝
 細工、水仙の花

△勝 山

勝山海岸 前方に浮島大法
 華、小法華の三島があり、静
 かな海で海水浴には絶好の場
 所である。

勝山公園 龍島海岸から海
 上に突出した小山上にあつ
 て眺望が良い。近くに景行天
 皇の行在所といふ三島が眺め
 られ、源頼朝が旗立てたとい
 ふ幡立山も近く、百人一首で
 名高い田子の浦(六町下佐久
 間)が富嶽を雲表にそびえさ
 せてゐる。浮島は海上十町の
 地點にあつて周囲七町竹樹の
 繁茂した島である。牛乳は四
 萬二千石七十三萬圓の主産地
 で一日の煉乳四千石に達して
 ゐる

△岩 船

◇名物 牛乳、ミルク、パ
 タ

富山 八犬傳で有名な伏姫
 の岩窟がある海拔一千百三十
 尺眺望頗るよい

高崎鑛泉 アルカリ性の鑛
 泉で神経痛、皮膚病、婦人病
 に特効がある

△富 浦

海水浴場 七ヶ所延長一里
 及び設備が整つてゐる。左手
 には大房岬が鏡ヶ浦の一角を
 なし、遙に富士や三浦半島が
 望まれる。

浦 浮動木等の運動施
 設もあり脱衣所洗身所等の設
 備も整つてゐる。

妙福寺 成就山と號し南無
 谷にある。文永元年蓮上人
 が小松原の難をのがれ風濤の
 ため泉澤權太郎の家に滞在中
 老母に妙福の法號を與へ、後

己れの肖像を模刻して贈られ
 たのを安置、一堂を建立して
 母の稱號を以て寺號をしたと
 傳へられてゐる。

釋迦寺 寛文十年里見義康
 法華經に歸依しこゝに祖先傳
 來の立像釋尊を安置した。

△富 浦 學校

富浦海濱學校 (日本赤十
 字社千葉支部附屬) 宇多良に
 あり開校以來九年の日子を經
 て居る。

日赤千葉支部が義務教育年限
 中の虚弱兒童を收容し其の體
 質改善健康増進を圖ると共に
 尋常小學校の教科課程授をけ
 るといふ全國的のもので一年
 を四期に分ち三ヶ月を收容期
 間として六十名宛で今日まで
 に二百五十七人の虚弱兒童
 養護の使命を果して來てゐる
 入學者は全部寄宿舎に收容。
 經費は一ヶ月十五圓である。

里見公園 は鏡ヶ浦、東京
 灣を一望におさめ櫻の名所、
 又逢島(三三)は裸島で松十數
 本あり奇景を呈してゐる

◇名物◇ ピワやうかん(一〇
 一五、二〇)びわ罐詰(三五
 一六五)ピワ、鹽干魚、魚見

△形古船形

那古觀音 那古山の中腹に
 南面してゐる。補陀山千葉院
 那古寺と稱し安房五大寺の一
 坂東三十三番納めになつてゐ
 る。養老元年天正天皇病あら
 せられた際、行基勅を奉じ海
 中から珍木を得て千手觀音の
 像をさざみ奉納したところ忽
 ち呼應したといふ。參拜客が
 多い。頂上に紫式部の墓があ
 る

船形崖の觀音 北堂山の中
 腹崖上數十尺の高い所にある
 船形山普門院大福寺と稱して
 眞言宗新義派である。慈覺大
 師の創建で本尊は僧行基が自
 然岩に彫刻した一面觀世音で
 ある。

鏡ヶ浦 附近一帯の海岸で

那古(八丁)船形(三丁)兩海水
 浴場がある。前方には沖の島
 鷹の島が見える。

船形城址 (新山)諏訪神社
 (堂下)西行寺、平岡陣屋跡、
 切山公園那古寺等がある。
 ◇名物◇ ピワやうかん(一〇
 一五、二〇)ピワ罐詰(三五
 びわせんべい(三〇、五〇)
 ひじき(一五)梨、桃

△北 條

白く輝く燈臺、青く光る海、
 遠く連る松林丘につゞく落、
 黒髪海女、南房の中心地北
 條はまた恵まれたユートピア
 である最近館山町と合併し館
 山北條町が新しく第一歩を印
 した。縣下最初の省營バスが
 こゝを起點に南房の樂天地を
 走る。

鏡ヶ浦海水浴場 (四町)遠
 淺の波靜かな海、緑に包まれ
 た沖の島、鷹の島を抱き遙か
 に富嶽を望み理想的な海水浴
 場である。
 町の脱衣場や各旅館の休憩所
 貸ボート、ヨット等もある。

夕映も有名で散策地として好
 適である。

鷹の島 (十六町徒歩十分
 海上十五分モーターボートで二
 十五錢)面積四萬坪、島中に
 辨天祠、水産試験場、館山藩
 の砲臺の跡鶴谷八幡宮等があ
 る。

◇名物◇ ひじき(白欠二〇
 錢)びわ(一箱四〇錢)びわよ
 うかん(十錢)びわ罐詰(三五
 錢)

△九 重

周西からこゝまで要塞地帯で
 ある。白土の産地を附近にひ
 かえてゐる。

△千 倉

千倉は外房のつばなだ漁
 港として、省營バスの終點と
 して最近メキ／＼と飛躍をつ
 けてゐる。

海水浴場 北濱、白館忽戸
 の各所に分れ設備も行届いて
 ゐる。外房の荒波が岸を洗ひ
 女の様な内灣から急にひらけ

た外房の風景は雄大である。
 千倉鑛泉 食鹽性鹽類泉で
 皮膚病、消化器病、婦人病に
 特効がある。

魚見崎公園 は忽戸の岬角に
 ある大自然をとり入れた景勝
 地。

◇名物◇ サンマの開き

白子海岸 (五町)海水浴場
 としてはまだ處女地であるが
 風光の良い事に將來を約束さ
 れてゐる松原は延長一里にも
 達し海岸線は白砂青松である
 春先から夏にかけて潮干狩に
 適し漁獲物も内灣と趣を異に
 してサザエ、アワビ、エビタ
 コ等がとれる、梅ヶ岡遠見臺
 跡には漁船の標識燈があり峰
 山公園には櫻樹が多く海岸を
 一望に得られる。

△千 歳

石堂寺 長安山東光院と號

し神龜三年聖武天皇の勅諭に
 係り天臺宗、本尊は僧行基作
 の十一面觀世音で國寶となつ
 てゐる本堂は特別保護建造物
 で運慶の仁王や本邦美術史上
 珍品とされてゐる阿育王塔(五
 輪塔)がある

安樂寺 には丸氏歴代の墓
 石堂寺の川向ひに莫神越神社
 がある淺間山は天ノ橋立に似
 て眺望に富んでもゐる。

海水浴場 (十二町)避暑地
 として好適である

◇名物◇ 橋やうかん、たひ
 せんべい、さゞえ罐詰

△和田 浦

海水浴場(三町)奇岸に富み眺
 め良く磯遊びに好適である。
 遊覽地としては大久保公園、
 黒瀧、向西坊、入定窟、龍ヶ
 崎龍宮等がある

◇名物◇ さゞえ、あはび、
 生花

△江 見

海水浴場(三丁)泳いで行くの
 に頃合の距離に小さな島が散

在し附近の風光は良い。温泉 未だ世間に知られてゐないが皮膚病に特効がある青松で堂がめぐらされた風光地蔵屋の観音は眺望が良い驛の背後に立つ高丘の頂上には八幡宮があり蛇山公園(八丁)は散策地に適してゐる

△太 海

海水浴場 左に小湊、勝浦方面の岬を眺められ右手に傳説で有名な仁右衛門島がある 仁右衛門島 傳説に名高い波太島とも稱し海岸から一町餘面積六千三百坪土砂は少なく概ね巖石で平野仁右衛門が居住してゐる、治承四年源頼朝が石橋山の戦ひにやぶれて安房へのがれたとき、仁右衛門に此の島へかくまつてもらつた。その禮に頼朝からこの島を與へられたといふ。内には頼朝のかくれたといふ崖やキヤラの珍といふのも傳へられ日蓮の古蹟もあり他で見られぬ

△鴨 川

海水浴場 三ヶ所にある。何れも設備萬端行届いてゐる海岸には辨天島、海鹿島が初め小島が散在し太平洋の波濤が碎けて壯快である。背後の小高い丘に観音堂があり眺望がよい。又同海岸は地曳綱が名物に数えられてゐる。小松原鏡忍寺 東條村小松原にあつて日蓮聖人が異宗の地頭東條景信の要撃に逢ひ毒矢のため額を傷つけ同行の忍鏡坊、危急を救はんとしてか

△天 津

清澄山 房總三山の一つで海拔千三百尺日蓮聖人の建宗の靈地である。山頂の千光山青澄寺は新義眞言宗智山派の

古刹で日蓮十二歳で入山徒弟したと傳えられ本尊虚空蔵菩薩は日本三虚空蔵の一つで左甚五郎の作と言はれる。周圍五十七尺五寸、高さ百六十尺の巨杉は天然記念物に指定され、此の外百四十四尺と百三十五尺のものがある。又百二十尺の牡丹杉八十尺の樟木等がある。旭の森(境内)は日蓮が始めて「南無妙法蓮華經」の題目を感得した場所日蓮の立像がある。全山の高峰四ヶ所に設けられた展望臺からは房總三州が一望にあつめられる絶景の地で又星の井戸は約千二百年前開祖不思議法師が発見したものと言はれ奇蹟的湧水が筑波嶺のみなに川の匹敵本尊の供水にされてゐる。この外シイタケ栽培地、野獸苑(農大演習林)雅兒の瀧等がある。

樹が多い。日澄寺、神明神社黒鯛の浦は渡船で二丁あまり黒鯛が群集して壯觀を呈してゐる

△小 湊

日本が生める一代の聖僧日蓮上人誕生の地である。以來七百年法華經の香が立上り誕生寺には參詣客がきびすを接してゐる。小湊山誕生寺 日蓮上人降誕の地又再生の地を記念すべく建治二年聖人の高弟日家上人に依つて開祖されたもの(又一説には興津城主佐久間重貞の建立ともいふ)日蓮宗一致派の大本山で七堂伽藍は宏壯境内は五千四百四坪境内には相馬大作の筆堂光陰寄進になる運慶作の佛像等實物が多い

△興 津

海水浴場 三面を小高い山に囲まれた灣内にあつて水は

を叩いて餌をやると無数の鯛が躍り上り壯觀である。鯛は天然保存物として禁漁されてゐるこゝは蓮華誕生泉と共に聖人誕生の際の三奇蹟とされてゐる。おせんころがし 興津から小湊へ通ずる途中にある斷崖で傳説の難所である。今では新道が出来たので太平洋に面して立つ難所は絶景として残つてゐる

清く遠浅で婦女子の海水浴に適してゐる。妙覺寺 廣榮山と稱し日蓮上人の同宗最初の開山であるこの外興津城趾、吉尾城趾洞窟(桃山時代の穴居御符、水井戸、楠の名木、臥龍の松など見るべきものがある。大臣村 (鶴原)と言はれるほど名士の別荘が多く沃度會社は守屋にある。◇名物◇ 興津人形(三五) さざえ(一貫目三五錢)あはび(二貫目四、五〇錢)とこぶし(一貫目二、〇〇)伊勢海老(一貫目五、〇〇)海老羊羹 海老煎餅、あはび羊羹、貝の花

△鶴 原

理想郷 理想的風致に富み附近海岸は奇礁點々し別荘地として近年都人士の往來が多

△勝 浦

海水浴場 三日月灣と言ひ

遠浅で婦女子にも安全である 遠見岬神社 海水浴場から僅か遠見岬の丘上にあり神武天皇の御代に御東征あらせられた天富命を祀つてゐる。高臺で勝浦灣を初め四圍の眺望に富んでゐる。八幡岬 町の南方で海中に突出し斷崖百二十丈、舊勝浦城趾で八幡神社がある。岬の南端に割り落した直下十數丈の嶮崖がある。徳川三家水戸紀州兩家の祖瀨房、頼宣兩公の御生母お萬の方が十四歳の時落城した際落ち延びたと傳へられ「お萬の布晒」と呼ばれてゐるお萬の銅像が建つてゐる海老塚 (出水區)は元祿大つなみの哀話をつたへ高照寺には乳銀香が珍奇をそより勝浦燈臺は(豊房)太平洋にその閃光を輝かせてゐる

◇名物◇ あはび、さざえ(一貫目三〇)海老、磯の香よろかん鯛せんべい(二五)四〇)鯛ようかん(一〇)一五)

あはびようかん(二〇)味噌(二五)四〇)たひ粕漬(五〇一八〇)木彫人形(三五)

△御宿

海水浴場 山を背に網代灣に臨み波静かに起伏して砂丘に恵まれた海水浴場だ。灣の名は最明寺時頼の命名で夕影の松がある。

岸和田巖頭 日西墨三國交通發祥記念碑がある。附近は白砂青松の海水浴場でもある。

△浪花

狩獵地 (小澤附近)雉子、兎の好獵地である。漁場!有數の大漁場で岸和田區の如きは一市街を形成してゐる。

△大原

海水浴場 北條と共に房總の二大海水浴場の稱がある。小濱海岸と鹽田川とで左に太東岬が突出し右は磯傳ひに八幡岬に近い。雄大な太平洋の波、白い砂、青い松、群れる人魚。附近では毎日のやうに

地曳網を引いてゐる。近くの東海村海岸も海水浴に適してゐる。

八幡岬 斷崖絶壁で海中に突出し太東岬と相對し風光雄大であるみさき頭に八幡神社背面に小濱城址、附近に雀島の奇勝がある。

照願寺 昆沙幢山と號し眞宗本派願寺の末寺である、所藏の繪畫紙本芳色親鸞上人四卷は國寶で毎月八月十一日の虫干には一般に觀覽させる特別保護建造物の波切不動大照寺も附近にある。

狩獵地 (二里)東村附近は雉子、山鳥、鴨等の好獵地である。

◇名物◇ 若布の砂糖漬、若布羊かん、鯛やうかん、さよえ、粕漬松魚せんべい、海老せんべい、鯉節、鹽干

△三門

觀光として別段ないが白土採取事業は有名である。土木界の巨匠大野木助翁もこの土地の出身者である。

△長者町

海水浴場 左手に九十九里濱を區切る太東岬、右手は大原の小濱海岸に包まれた絶好の海水浴場である。附近は沙魚釣の好適地で七月中旬から十二月にかけて太公望連が入り込む。海岸は別荘地として有名である。

清水觀音 清水山にあり坂東三十二番の札所として參詣客が絶えない。

天満宮 菅原道實を祀る。附近に井澤不動尊、源頼朝兎掛の松等がある。

狩獵地 小高澤(廿丁)中根村(西三十五町)附近は鴨、雉子、鳩、兎等の好獵地である。

△太東

飯繩不動尊 比叡山延曆寺の末寺、本尊は海中から出現した不動尊だといふ。太東岬 九十九里濱の起點で太平洋に數町突出してゐる懸崖絶壁百四十尺に及び太平洋の怒濤が岩をかむ壯絶さ!沖の先數十間のところに大島

が点在し常にみさきが群れてゐるところからみさき島とも言はれる。

海濱植物 太東に約一町歩ほどハマハタザホ、トベラ、ハマダルマ、ハマエンドウ、ハマボウフウ等の海濱植物が發生してゐる。天然記念海濱植物として保護されてゐる。

太東七不思議 鳴山。末無川。双股藤、吞笛、筆草、片案盧、太東の旦那

太東海岸 は鮑の名産地として知られる。

◇名物◇ 網田梨、桃、海老小魚

△東浪見

釣ヶ崎 最南端の海岸で附近の鳴山は高サ十數丈あり波濤反響して常に風雨の様な音がするのでおとづれ山とも言ふ。眺望絶佳、毎年秋玉前神社の祭禮に十二社の御輿が渡御する時はきまつて東風が吹く迎東風とも言つてゐる。海水浴場 松原を通りぬけると白い砂にたはむれる美し

い海がある。

軍荼利明王 石階二百餘の高臺で頂上からは太平洋を一望にし得る寺寶には三石一斗入りの大茶釜と十二貫目の大金火箸がある。

△一宮

松は茂り砂白き一宮町は學界政界諸名士の別荘地として有名である。

海水浴場 九十九里濱の風光にとけ込める海岸である。一の宮川驛 附近から川を下ると七分で海岸に達するし、こひと附近御料林には珍奇な肉食植物が繁茂してゐる。舟をうかへ夕涼みには絶好。ハゼ、イナ、イシモチ、ボラ等が太公望を喜ばせる。

玉前神社 海神玉依神社を祀る國幣中社で毎年四月及び九月十三日大祭がある。秋は十二社祭が行はれる。

一宮學園 財團兒童愛護會の經營で虚弱兒童を收容し現在百五十名を收容してゐる。狩獵地 土陸村(西南一里

半)雉子、鳩、東浪見(東南一里)かも、鳴の好獵地である。

◇名物◇ 梨羊かん(一五錢)海苔羊かん(二五錢)さゞ浪(一五錢)一宮川の蜆、鱒、びんぶ、西瓜、胡瓜、茄子、九十九里餅煎

△茂原

南總鐵道の起點で數年前發見した天然ガスで町は燃料燈火に供してゐる。

藻原寺 日蓮宗四刹六門の一寶物五十餘を所藏してゐる堂宇宏壯の東身延の稱がある。附近に鷺山寺がある。狩獵地 附近沼地は鳴の好獵地である。

△本納

橋神社 日本武尊が御東征の際相模から上總に渡らうとして海上で颯風に遭つた時尊に代りて海中に身を投ぜられた弟橋姫を祀つたもの。本納城址 近くに十人塚がある。荻生徂徠の墓は萩澤に

ある

南白龜川 下流はハゼ、ボラ、鯉釣りに好適である。海水浴場 「白濁」少し遠いが遠浅で静かない、海である南白龜海水浴場(三重)は南白龜川の河口で釣、投網、地曳網や舟遊びに好適である。

◇名物◇

橋羊羹、白濁西瓜メロン、海産加工品

△大網

宮谷八幡宮 祭神は豊田別命、文明年間酒井定隆土氣城を築くにあたり鬼門鎮護の爲め折戸から遷されたものである。境内は樹木多く九十九里を俯瞰し宮谷公園の稱がある。附近に本國寺がある。

雄蛇ヶ池 は東金から近い九十九里海岸、白里海水浴場まで二里半あるが家族連れ避暑地として好適である。

◇名物◇

宮谷餅(二〇錢)

△土氣

本壽寺 七里、華の稱ある法華宗、境内に櫻、松等が多い。土氣城址「十一町」酒井越

平守の城址、南方に寶寺山善勝寺がある。境内一面數十丈の絶壁が屏風を立てたやうである。大和村(一里七町)の赤人塚は歌人山邊赤人の墓があるといふが眞疑は不詳である。

狩獵地 附近は鳩、山鳥、雉、兎の好獵地である。

△譽田

狩獵地 此の邊一帯は雉子山鳥、鳩、兎の好獵地である。茸狩 秋の栗拾ひ茸狩の好適地である。

千葉銚子間

△四ツ街道

軍隊で持つてゐる旭村、陸軍のバイロットを養成する下志津飛行學校、陸軍野砲兵學校、野戰砲兵聯隊、陸軍衛戍病院があり六方野の練兵場から下志津原がここまで廣がつてゐる。狩獵地 字那谷内山へ一里半、長沼、横橋へ一里、川野邊へ三十丁雉子、山鳥等「六

方野二十五町、鶉鴨等がとれるので名高い。

△佐 倉

徳川末期に於て幕閣首相の印綬を帯び乾坤一轉の機運に際會して絶世の眼識と千古の卓見とにより開國の緊切と通商の利益を唱論した房總が生

を巡らされてゐる。外海隣寺堀田正睦の墓(佐倉甚大寺)等がある。

める大政治家堀田正睦氏の舊城下で現在では史的回顧のなつかしい町となつてゐる歩兵五十七聯隊がある。

△八 街

粉名屋の娘 おいとこ節の白升粉名屋で美女お小夜の物語りを忍ぶにふさわしい石臼を初め遺物が多い。

源村 明治四十三年我邦三模範村の一として内務省から推奨された。

△日 向

麻賀多神社 町の入口にあつて稚産愛命を祀り毎年十月十五日に大祭を行ふ。

成東 波切不動の麓にあり含鐵炭酸食鹽泉の微黄色で弱アルカリ性の反應を呈し胃腸病、リュウマチス、痔疾子宮病、神経痛、貧血などに特效がある。又飲用すると食欲を増す。

鹿島山 鹿島川にのぞんで眺望よく、城趾歩兵五十七聯隊の兵營は面積十八萬五百餘坪で牙城、二城、三城が空堀

波切不動 丘腹にあり僧行基が附近海岸の荒れるのを救ふため尊像を刻み安置したものと傳えられ漁民の信仰が厚い。高臺からは九十九里濱の白砂青松がのぞまれ又關東稻荷山の茸食狩虫植物の探賞等に良い。

跡。伊能忠敬翁の生家がある。

肉食植物 同町宇島宇畑田地先にいしもちさう、もうせんごけ、みゝかきぐさ等の肉

△横 芝

八田金比羅神社 大國主命を祭神として後醍醐天皇の御代に讃岐國琴平神宮から奉遷したものである。附近に坂田城趾。伊能忠敬翁の生家がある。

附近には矢指川、矢指浦、矢指八幡等がある。木曾義仲の墓 往時旭將軍りもこゝにあるといふ、墓は水田の間にある。

狩獵地 (坂田沼十三町、宮川沼十八丁、海老川沼十二丁) 附近は鳴、ひよどり等の好獲地

干潟八萬石、青果物の生産地!

◇名物◇ 栗山川の鯉、鳥喰

干潟八萬石、青果物の生産地!

◇名物◇ 栗山川の鯉、鳥喰

◇名物◇ 西瓜、南瓜

△八日市場

匠瑛城趾 孤立して高サ五丈餘、平常兼の第四子常廣の居城跡、近くに夫婦和合の神として名高い熊野神社がある

旭 町 九十九里濱 白砂青松などらかにめぐる渚、九十九里濱は飯岡町の東南龜王崎から上總の大東岬に及び大砂漠の稱がある。名の起りは昔源義家がこの渚の廣さを計るため一里毎に矢を立てたところ九十九本あつたとところから名付け

日朗上人の誕生の地日朗寺 (一里五丁)を始め内裏塚(野田村野手)堀川古墳(榮村堀川)椿城跡(椿海村椿)飯倉

大原幽學の墓 中和村にあつて性學の教祖幽學が安武五年自双したところである。狩獵地 干潟八萬石附近は

食植物が群生してゐる(保護植物) ◇名物◇ 鑛泉せんべい、小倉ようかん、鹽釜

△松 尾

芝山仁王尊 長野の善光寺東京の淺草寺と共に我國天臺宗の三大名刹として有名で本尊は慈覺大師の作十一面觀世音で山門には芝山仁王の密跡金剛尊がある。又昆首魔大の靈像は高さ六尺二寸で昔印度で作つたと言はれ殺然として立つて熟視する事が出来ないと言はれる。毎年舊一月及七月の十八日祭典を行ふ。

山中城址 大臺城趾(大臺)武藏國造の墳(松尾町)等の古蹟があり又縁海村小松に發する木戸川、栗山川等からナマズ、コヒ等が漁れる。 狩獵地 鶉鴨等の好獵地

△飯 岡

海水浴場 三面岩礁にかこまれた灣で風浪のおそれなく海水浴に好適である。

岩井瀧不動 眞言宗京都智積院の末派で仙山龍福寺と稱する四十七瀧あり、獨鈷の瀧ふうてん病に特效がある。

東大社 景行天皇が、日本武尊の偉業をのぼせ此の地に七日間行宮したまひて本社を創建したもので祭神は玉依姫命相殿に草葺不合尊をまへり橘村八尾山にある波濤鎮靜の神として名高い。

鐵牛禪師の碑 東條村小南の干潟城山にある。名高い俠客助五郎の墓(五町)は郊外光臺寺に又玉前神社は東方丘陵の中腹にある ◇名物◇ 鎌倉あびやうかん

鴨、鶉の好獵地である。

松魚節

△猿田

猿田神社 猿田彦命は祭神
相殿に天細女命、菓理姫命を
合祀してゐる。垂仁天皇二十
五年鎮座し源頼朝をはじめ歴
代の領主が皆尊敬し神寶を奉
獻する等一時は壯麗華嚴をき
わめたが永縁年中兵變に罹り
舊記を焼失したと傳へられる
小兒の守護神として毎年十一
月二十五日の大祭はにぎはふ
網戸山 推柴村野尻岬にあ
る樂壽山と云ひ松林四方をか
こみ溪流西を流れてゐる。分
久の頃開拓し花時は遊客が多
し。

宮の稱がある。宇佐島産大神
を祭神とし境内には老松が鬱
蒼として毎年舊六月八月十五
日の大祭は數十座の神輿が揃
つて二里餘を距れる外川濱に
お濱下りをす。光景は壯觀で
ある。

ほととぎす銚子は國のとつば
つれ

阪東太郎が悠々と流れ太平洋
の波濤が岸をかみ一葦帯水ア
メリカに通じてゐる。昭和八
年二月十一日銚子、本銚子、
西銚子、豊里の四ヶ町村を合
併して銚子市が生れた。佐原
から通ずる松岸も線全通し觀
光に産業交通に一大躍進都市
として約束づけられてゐる銚
子磯めぐりも旅の一興である

で最もアメリカに近い太平洋
の波濤にあらひけづられ突ッ
端犬吠岬は三原山出現前まで
の心中の場所として数多い情
話を残してゐる。岬上から海
を見下すと岩に碎ける波頭が
しぶきと散つて爽快の上も
ない。石材を産し石切の鼻と
もいはれるといふ岬端の燈臺

貝塚 余山にある明治三十
八年七月坪井博士が探險し四
十年吉野某が朱塗の有髮土偶
を發見し小説家江見水陰氏も
多數の遺物を發見した何れも
二千年以上を經たものである
色衝松岸 利根の河風と太
平洋の波濤とに包れてふくよ
かに匂ふ色衝松岸、洲崎、吉
原にもまさる遊廓がある。

狩獵地 利根沿岸はかも獵
等の好獵地である

飯沼觀音 坂東二十七番の
札場で飯沼山圓福寺に屬し眞
言宗村である本尊は聖武天皇
の神龜五年に海中に出現した
と傳へられる。十一面觀世音
で本堂は天正六年の建築で圓
通殿と稱し四面の廻廊は精巧
に彫刻されてる附近には花柳
田中がある。

無線電信局 夫婦ヶ崎にあ
り明治四十一年五月十六日我

狩獵地 南方山地及び利根
川沿岸(二十五町)は兎、山鳩
山嶋、かもの好獵地である

水郷と成田山

△銚子

犬吠岬燈臺 本邦の最東端

が國に最初に設置されたもの
で通信距離は晝間五百裡夜間
二千四百里に及ぶ
川口神社 容貌の醜い延命
姫が男に背かれ自殺したのを
祀つたもので美貌を願ふ祈願
者が多い

場として賑はふ。
醤油王國 野田と對立、ヤ
マサ、ヒゲタの二大醤油工場
がある。
◇名物◇ 鹽辛、銚子縮、な
きも貝細工、甘露、ひしほ、
鯉節

港地でこの邊の風光は格別で
驛から間近かに満々と水をた
ゝえた大利根のゆるやかな流
れが望まれる町の鎮守東大社
は延暦二十年上田村鷹將軍が
東征の際創設されたものと傳
へられてゐる。

城山公園 小見川城跡南方
峰つゞきの一山で故實川氏が
獨力で建設したもの、櫻樹が
多く水郷の風光が觀賞出来る
附近に前方後園の瓢塚または
二子塚の古墳が存在してゐる
神社寺院 同町鎮守須賀神
社(四丁)は舊六月十二日から
十五日まで大祭、安産神社(

浅間山 は犬吠崎の左側に
あり銚子を一眺に收められる
川口に近い千人塚は往時の溺
死した漁夫を埋葬し川口の水
面に突出した一の岩二の岩は
難所、川口から此鼻までの平
磯、女夫ヶ鼻黒生浦。海鹿島
には時々海鹿が群來し、霧ヶ
濱(海鹿島から犬吠岬)は白砂
青松で風光絶佳、犬吠岬の東
方酉明濱、長崎ヶ鼻等があり
又高神村には仙ヶ窟といふ巨
巖があり南にある犬若、名洗
浦等は海水浴によい。
海水浴場 君ヶ濱は海水浴

東大社 (同村宮本)縣社で
玉依姫を祀る關東有数の古社
である。風光に富み櫻の名所
でもある。景行天皇が行幸さ
れた事があり三十三郷の鎮守
である。
朝日岡 (元白幡山)景行天
皇行幸の際假宮を建てられた
といふ舊蹟である。
△笹川

銚子潮來と共に水郷の三名邑
で町の中央を流るゝ黒部川と
大利根が加はるところ、物資
の集散地また一世を風靡した
名妓瀬川の出生地として又ゆ
かしい城下町の情緒は和かで
ある。
小見川城跡 四方斷崖高さ
數百尺の城山にあり、室町時
代の築造で原形を完全に保存
してゐる。水郷を一眸におさ
める風光の地陳屋跡は小見川
藩主内田氏累代の陳屋で現在
は小學校になつてゐる。

對岸 水郷三社参りコース
の重要地で息栖神社(一里モ
ーター渡船十二錢、自動車賃
切一圓)は指呼の間又水郷第

一の常陸の砂山神の池、文化村、奥野谷海水浴場等がある
獵地 水郷一帯での最近開拓された狩獵地でも、ばんさぎ、がん、しぎ、山鳩、野兎等がとれる(案内料一日二圓、船頭付) 投網、ボラ、マルタ、サイ等の馬鹿釣りボラの流し釣り等魚も豊富である
◇名物◇ 川魚の佃煮(三十錢から) 川魔の雀焼(三十錢から)

△香 取

武神香取神宮が近くにあり大鳥居が利根の堤に立つてゐる 驛は津ノ宮村にある。

香取神宮(十町)武神經主命を祀る經津主命は御名を齋主命と申し我が國將師の始祖と仰がれ國家鎮護の武神にまします神代の昔天祖天照大御

神は皇孫に

々杵尊を葦原の中つ國の君主として天降し給はんと思召したる際多くの邪神を誅伐するため經津主命に武槌神(鹿島神宮)を副へて征伐に向はしめた。二神は出雲國の大國主命に詔命をつたへところいさぎよく國土を皇孫にさしけまつるべき由を誓約したので其の後國內を巡行し東國開拓の大業を了へ天上に復命した古來朝廷の御崇敬厚く殊に明治維新の始め大阪に御親征あらせらるゝ際に南殿に於て御親祭を行はせられ、皇軍の武運をお祈りなされた、陸軍始めに當つても軍神として奉齋し給ふ。

(五〇)川魚の佃煮及雀焼

△郡

諏訪公園 諏訪神社境内で伊能忠敬翁の銅像がある。
水郷公園 利根沿岸の大公園で、日本百景の一つである
觀福寺 妙光山蓮華院と稱し寛平九年尊海比丘の創建と傳えられる。本尊は鳥佛師作の觀音像、護摩堂には銅造釋迦如來、同造觀世音、同造地藏菩薩、同造藥師如來座像の四體がある。挿取魚彦伊能忠敬等の墓がある。寺寶多く境内には梅林がある。

神崎神社 面足尊外三神を合祀した縣社、境内の「ナンジャモンジャ樹」は水戸光圀公の命名したものである。

△滑 河

水郷巡り モーター船にて加藤洲十二橋をくぐり潮來から大舟津及び牛堀湖來大舟津への二ツの道があり前者は二時間、後者は一時間半

滑河觀音堂 天臺宗坂東二十八番の札所で本尊は一丈二尺の十一面觀世音立像である 本堂は十一間四方朱塗銅瓦結構壯美、仁王門は永仁六年の建立で飛彈工匠の作と唱えられ特別保護建造物に列せられてゐる。

△成 田

◇名物◇ 奈良漬(五〇)ときわ漬(五〇)味淋甘酒 水郷羊羹(二〇)忠敬羊羹(二〇)木刀

小御門神社 南朝の忠臣藤原師賢公を。別格官幣社である。
全国的な成田山新勝寺がこの町の凡てである。賽客に年々ふとつて行く町

三年徳川將軍繩吉公の造營されたもので本殿、中殿、拜殿相連る所謂權現造である。境内は一萬四千七百三十八坪で至るところ老杉鬱蒼として畫尙暗く森嚴の氣自らえりを正させる。佐原からの參宮道路の兩側には吉野櫻が半里に互つて立並び、萩原老が美人櫻と名付け、春は花のトンネルを現出する。一の鳥居は佐原町と香取町の境界にあり坂を上つて二の鳥居がある。二の鳥居の右手に要石がある。社の殿の北側の神苑には數百本の櫻樹があり、前面には大利根の流れボプラの並木遠く潮來から筑波山の水郷一帯の風光が手に取る如く眺められる水郷第一の風光地である。寶物は七十三點あり海馬葡萄鑑は國寶に指定されてゐる、唐の初代頃の製作で我邦三鏡の一つである。古文書は五十二通で中にも源頼朝、足利尊氏の寄進狀等は世にも珍しきもの又貴重品として寶庫に藏する什器は七十餘點ある。重なる祭禮は節分祭、新年祭二月十七日、大祭四月十四日新嘗祭十一月二十三日御田植祭五月五日、大饗祭十一月三十日、内陣神樂十二月四日、月次祭毎月一日である。香雲閣は大正天皇東宮におはせし時行啓の光榮に浴した記念建物である。

成田山新勝寺 成田山新勝寺は今より凡そ一千年前天慶年間平の將門が下總の國で自ら平親王と號し皇位を奪はんとして謀叛を企てた時寛朝大僧正が朱雀天皇の勅旨を奉じて東國鎮護のため高雄山神護寺の本尊不動明王と天國の寶劍とを奉持して東下下總公津ヶ原に一字を結び將門調伏の護摩を修行せられたのである。

さ五萬坪自然の山林を取り入れ瀧を初め池水布石の結構は杖を曳く人々の激賞するところ半日をこゝに清遊するものが非常に多い。
小野治郎右衛門の墓 俗稱ガング山(山)の松林中にある小野派一刀流を開いた小野忠明が晩年寺臺の地頭となり寛永五年十二月七日逝去した。

寺臺城跡 千葉氏の族臣馬場伊勢守勝正の居城址で勝正は小田原方の將であつたが戦ひ利あらず天正十八年土屋村に戦死した其の後海保甲斐守三吉こゝに來り住んだ三吉力強く尺餘の竹を握りて潰す程で強力を頼み非法な行ひが多かつた小野二郎左衛門之を論して遂に割腹せしめた成田山公園の東北老松の存するあたりの小丘がそれである。

櫻ヶ丘ゴルフ場 成田町大塚篤三氏の設置、ホールは九つ芝生は完備した氣持のよいリンク、入場は無料で自由にゲームが出来る。

三里塚牧場 傳説の傳ふる所によれば遠く文武天皇の御宇に創設せられといひ天正年間北條氏政千葉介邦胤に命じて馬政を監督せしめたことがある。徳川時代になつて寛永年間堀田加賀守佐倉の領守となりその一部は内田牧、高野牧、柳澤牧、香取牧、矢作牧小間子牧、油田牧に分たれ之を佐倉七牧と云つた。明治八年大久保利通卿上奏して牧場をこゝに選定し牛、馬、羊の改良及び畜耕、大陸式農業、經營の端緒を開いた同卿の功績を永久に傳ふる石碑が貞里驛(成田鐵道八街線)の東方約

二丁の處にある牧場を今日の如く整備せしめた基礎は實に同卿の賜である。明治十四年十五年の兩度に亘り明治大帝の行幸を仰いだ現在面積千四百餘町歩場内櫻樹の栽植多く開花の候は至る處花ならざるはなく満目暖雲あいたいとて關東一の花見所と稱され都人士の來り遊ぶもの年々増加しつゝある

九年畑は花の名所◇新山場長の銅像は四ッ角左側植込の内にある◇名馬吾妻の塚◇エイチン塚は根木名臺の入口左側にある 明治大帝の御乗馬金華山を始め陛下の御乗馬の遺髪をまつつてある。

遠山の阿彌陀如來 古來安産懐胎の利驗顯妙で遠近より來り賽する婦女子が多い。

△湖 北

觀音寺 慈愍山と號し曹洞宗で本尊は僧行基が自刻し平將門の守本尊とされてゐたといふ。境内に將門の靈を祀る將門神社及觀世音像を秘したといふ石井戸がある。

正泉寺 同じく曹洞宇で境内に土輪の石塔が七百年の風雨にさらされてゐる。

狩獵地 手賀沼附近はガン鴨、鳴の好獵地である

△木 下

結縁寺 船穂村にあり寺寶不動明王は國寶となつてゐる境内には天下三辭世の一つとして有名な埋木の花咲く事もなかりしに、身のなる果ぞあはれなりける

と詠んだといふ源頼政の墓がある。

利根川水門口 は大正十一年竣工したものの風光に富む庚

申山、史蹟の袋袋趾などの名勝舊蹟が多い。

狩獵地 附近一帶釣漁地でもある

◇名物◇ 木下せんべい、こひ、うなぎ

△小 林

松虫寺 六合村松虫にある松虫姫の物語りに依つて名高く行基菩薩の開基で本尊七佛樂師如來である。

龍腹寺 延器十七年の旱魃の時雨乞ひを祈り豪雨沛然といたつた折龍の腹部が切斷本堂の傍に落ちたといふ傳説がある。天臺宗上野寛永寺の末派である

◇名物◇ こひ、うなぎ

△安 食

印旛沼 下總第一の湖水で周圍十六里面積二千八百町歩でこゝから産する淡貝は美術

工藝品の資料として珍重され又海岸は印旛八景として眺望よく散策に適してゐる。

利根川安食水門 もある又驛前田岡横町渡舟(二十町)二十五分三錢で吉植農場がある 大鷲神社 酉の市で名高く町の中央にある祭神は天日鷲命

△松 崎

龍覺寺 天臺宗の古刹で不死の靈藥を受けるとて郷民の信仰が多い。

甚兵衛渡 義人宗吾にまつはる渡守甚兵衛の義俠を傳へてゐる。

狩獵地 附近は雁、鴨の好獵地である。

△馬 來 田

下ヶ足阿彌陀如來 三光山金剛院金臺寺に安置されてゐる。毎年八月十四日が縁日で

ある。

茸狩 富岡村官林は茸狩の勝地である。

▽小 櫃

白山神社 猿田天神臺にある。祭神は弘文天皇である。村人は社傳に依つて手桶を使用しない。

△久 留 里

久留里城趾 明治維新まで千五十餘年久留里城下は上總第一の市街であつたといふ。城趾は雨城山にある新井白石も幼時こゝに育つたといふ

◇名物◇ 妻楊子、山芋、人形(ギョニール)

△東 金

八鶴湖 徳川家康の命名と傳えられ徳川三百年間鷹狩の地となつてゐた。池畔は三面山を負ひ翠緑したゝる殊に櫻

樹が多く春は林引く者が多い池畔には料亭旅館が多い。

東金城趾 本漸寺(酒井忠隆の墓)日吉神社の外八塚神社は素雄命を祭神とし毎年六月の七日大祭を行ふ小野小町の古墳(丘山)あるといふが疑はしい。丘山村の貴船神社境内には高さ三十八尺の枝垂櫻、並木(高いものは八十尺)其他名木が多い。

狩獵地 雄蛇ヶ池附近は鴨大和村福俵(三十町)清名(南へ一里)瀧臺(一里)は鶉、鳩の好獵地である。

◇名物◇ ゆすようかん、湖月煎餅、蜜柑ようかん

△南 房 めぐり

常春の園南房 そこにはふくよかな女の肌に似て、柔らかい砂丘がある。闇を貫く燈

臺がある海女がある。房洲の突端南房は避暑に、避暑にこよなき良い場所である。省營バスが大きい團體で遊覽客を案内してゐる。

◇北倉本線◇ 安房北條から館山上原倉、切割神戸を経て長尾、白濱、七浦、千倉驛への三十二キロの線は景觀の變化に富む萬石騷動の犠牲となつた湊村角左衛門、國分村長次郎、苗村五左衛門三義民の墓は館野村國分にある。孝子塚も近く、房洲の高野山と言はれる妙音院は北條町上倉に又縣社州宮神社は浮州橋の傍にある。小塚大師を過ぎ官幣大社安房神社がある縣社布良神社附近には測候所や檢潮所があり、房州海女の本場は富崎村布良から長尾村根本の根本海岸である。

殉職警察官

故千葉縣巡查 櫻井 豊

氏は印旛郡佐倉町の人嘉永六年六月を以て生る、資性温厚にして夙に穎敏を以て開明治十一年十一月千葉縣巡查となり、八幡警察署に在勤す翌十二年十月管内市原郡五井町岩崎に虎列刺病發生し漸次蔓延して其の勢甚だ猖獗なり此の時に當り氏は日夜豫防消毒に従事したるに、忽ちにして病毒に感染し千葉病院に入り治療怠りなかりしも、藥石其の効なく終に同月廿三日を以て歿せり。而して氏や其の將に隕せんとするに隔み寧ろ職務の爲に瘞れたるを本懐とし身を警察官に奉ずるもの深く此の覺悟なかるべからざるを遺言したりと云ふ。

故千葉縣巡查 左右田 豊

邊孫兵衛の次男にして萬延元年四月を以て生れ、明治三年十二月同所の士族左右田金吾の養嗣子となる。天性剛毅謹直なり深く感ずる所あり警察界にて志を立てんと欲し、千葉縣巡查となり北條警察署管内富崎村屯所に在勤す。常に職務に精勵なるを以て開明治十三年七月安房郡内に虎列刺病發生し、其の病毒竟に全郡に傳播して甚だ猖獗を極め患者四百餘名に達し、生死相半す當時郡民は戦々兢兢として一日も安堵の色なく、或は一家を提けて他方に避くるあり、或は社佛に祈願して之を追んとするあり殆ど職業を中止するに至れり。且患者の家に於ける老幼男女は朝夕悲哀の涙に咽び其の慘狀見るに忍びざるものあり。而して其の發病の中心は實に富崎村なり

とす加ふるに衛生機關は何等の設備もなく況や個人の豫防消毒に於てをや、氏は此の間に立て日夜寢食を廢して東西に奔走し交通遮斷の勵行豫防消毒の實施に従事す。其の辛苦や實に多とすべし然るに氏は身心の疲勞と病毒に接する機會多きとに由り忽ち之に感染して治療功なく終に有爲の志を抱きて空しく病歿せり。噫呼氏の如きは能く人民保護の責任を盡したる者と云ふべきなり。

故千葉縣巡查 石井 平吉

氏は上總の人安政二年十二月を以て生る稟性敦厚明治十三年一月職を千葉縣巡查に奉じ、行徳警察署に在り十五年七月浦安村猫實に虎列刺病發生し漸次蔓延猖獗を極むるや氏之が豫防救助の命を受け同地に出張し日夜奮勵努力し其の功績大に見るべきものあり而して狀況報告の爲め歸署したるに翌日を以て病毒に感染し終に死去せり。同地方の如

きは曾て虎列刺病の流行甚しく人民の困難名狀すべからざるものありしは今尙忘れんと欲して忘るること能はざる所なり。嗚呼氏や逝く然れども其の功績餘徳は長へに在り豈偉ならずや。

故千葉縣巡查 平井源四郎

氏は市原郡鶴舞町の人天保十一年七月を以て生る人と爲り沈毅にして頗る嚴格なり、明治十四年四月千葉縣巡查に採用せられ松戸警察署詰となる十七年八月八日同署管内巡邏の爲め午前八時出發正午金ヶ作村に到る途次二漢子の舉動甚だ怪しむべき者に遇ふ乃ち姓名を誰何し且行程を問ふに言語頗る曖昧なり依て一種の惡漢なるを認め警察署に同行を命じ上本郷村を過んとする時一人は詐りて前途を要し一人は其の際に乘じて逃走す氏之を叱咤し追跡せんとするや巽に道を塞ぎし一人は竊に隠し持ちたる一刀を振り氏の後

頭部を斬り長さ三寸深き頭蓋に達する重傷を負はしむ氏敢て屈せず右手に劍を押し向之を捕縛せんと追跡して松戸新田に至る制服悉く血に染み途上流血點々たり身體既に疲れ氣息奄々將に絶えんとす是に於て到底兇漢を捕縛するを得ざるは勿論警察署に達するこゝとも亦不可能なるを慮り劍を投して仆る須臾にして行人之を認め直に急を警察署に報ず署長以下疾驅し來る氏頗る重傷なりしと雖も具さに事の顛末を陳述す人皆其の豪氣に驚嘆せざるなし夫れより氏を扶けて松戸病院に入れ懇切に治療したるも越えて翌日終に不歸の客と爲れり其の將に隕せんとするや兇漢が隠し持ちたる毒刃で斃れたるは止むを得ずとするも之を捕縛すること能はざりしは終生の恨事なりと憤慨止まざりしと其の心事亦憐れむべからずや然れども一身を捧げて職務に殉ず英魂長へに朽ちずと謂ふべし

故千葉縣巡查 瀧 政吉

氏は廣島市の人嘉永五年十一月を以て生る明治十六年四月千葉縣巡查を奉職し行徳警察分署に在勤す時に十九年七月二十四日管内本行徳村松丸常次郎方に於て虎列刺病發生し漸次蔓延の兆候を呈せり此の時同村平田のぶなる者亦之に感染して死亡せしが同人は當時妊娠中なるを以て産事の爲め瘞れたりとなし之を隠蔽し恒式を以て埋葬せり之に由りて其の式に集合して飲食したる者又は葬儀に關係したる親戚並に近隣の者十一名悉く病毒に感染し尋で續々患者發生し三十有餘名の病死者を見るに至れり而して其の甚だしきに至りては或四五戸の如きは一家を擧て死没するの慘狀を呈せり斯くの如く病勢俄かに猖獗を逞うし意に附近町村に傳播し殆ど二百餘名の患者を出しの内生を得たる者僅に十の一に過ぎず同年十月を

以て漸やく熄滅に歸せり之より先き同署に在りては他署の應援を求めて之が撲滅に努力し又縣廳に於ては同村圓頓寺に臨時檢疫支部を設置し且同村一部の交通を遮斷して頗る警戒を嚴にせり當時氏は日夜寢食を忘れて専ら豫防消毒に盡瘁せしが八月四日病毒に感染し藥石効なく遂に死亡せり而して氏が患者の家に出入し若は附近を巡回して應切に豫防消毒に盡力したる功勞の多大なるは人々の感嘆措く能はざる所にして早晩感染の怖れなきかを懸念したるに果して病毒の侵す所となり遂に其の職に墮る故に村民深く哀悼痛惜して今尙忘れんとし忘るゝ能はず感謝の意を表し居れりと云ふ

故千葉縣巡查 山口 久司

氏は長生郡八積村宮原の人弘化四年八月を以て生る資性廉直にして夙に堅忍不拔の氣概あり明治十七年三月千葉縣

巡查に採用せられ茂原警察署詰となる二十年三月二十四日の夜同郡長南町長南の某家に四人の強盜侵入し財貨を強奪し去りたるの急報達す氏は出張の命を受け直に之を追跡して同地鼠坂に到る偶々酒舗にて同地鼠坂に到る酒舗に泥鞋を脱し頻りに酒を被る者あり氏其の舉動を窺ふに果して不審なる點あれば竊に人を同署に馳せ應援を求む時に人之之を援助せんとするものあるのみならず同僚谷幡文八郎適々該坂下を通過せるを認め相携へて酒舗に臨み彼惡漢を捕縛せんとす然るに其の黨類一人出て二人出て遂に四人と爲り衆を恃み相呼應して氏等を懸崖に陥れんと迫り谷幡先づ數尋の溪谷に陥り容易に攀登する能はず此の時山口は其の一人を拿捕し將に繩を打たんとしたるに他兇背後より利刃を閃かして氏を刺す而して兇徒皆大呼して勢威を示せしを以て巽に氏に應援せんとせし者皆忽ち逃げ去る然れども

氏は毫も屈せず益勇を鼓し赤手を以て之と奮闘し遂に十有餘ヶ所の重傷を被り鮮血淋漓として自由を失ふ既にして兇漢等山中に遁れたる後救援漸く來りて氏を見るに氣息奄々兇漢の頭髮數根を握り背を張り切齒して其の遁れ去りたる方面を指示し遂に噎れたり此の事三尺の兒童も今尙之を知り其の勇敢と職務に忠實なりしを稱揚せざるものなし

故千葉縣巡查 和知季治

氏は市原郡鶴舞町の人なり天保十四年九月を以て生る性寛厚にして能く衆を御するの才幹あり夙に志を決して千葉縣巡查と爲り縣下各警察署に轉勤して遂に銚子警察署に到る而して氏は日夕孜孜汲々として職務を執ること頗る熱心應切なりしかば郡民の追慕怙特の如くなりしと云ふ時に明治二十一年一月銚子町外各町村に於て腸窒扶斯病發生するや漸次蔓延し同年五月に至り本銚子町字飯沼區最も猖獗を

極む氏當時専ら之が豫防清毒に従事し寢食を忘れて全力を盡し其の撲滅を圖り大に効果を奏せり然るに同月二十一日不幸病毒に感染し終に六月七日不歸の客となれり享年四十六有六今尙同地方人民は氏の熱誠能く人民保護の任務を竭したるを稱揚して止まず

故千葉縣巡查 鈴木清助

氏は印旛郡佐倉町士族鈴木羽右衛門の四男にして萬延元年四月佐倉城外下袋小路の家を生る資性深沈剛毅事に當るや不屈不撓敢て危険を顧みず故に逸事の以て記すべきもの少からず幼時舊藩主の設置に係る鹿山小學校に入りて普通學を修め尋て藩士官崎重監に就きて經學を學び傍ら水練を笹沼八郎に劍道を夏目又之進に柔道を菊間藩士戸塚彦助及嗣英美に學ぶ殊に柔道は其の奥義を究め揚心流の目錄を受領し當時戸塚門下四天王の一と稱せらる明治十四年東京に出て日本橋區濱町河岸に水練

場を設け親ら教授の任に當る其の門に入れるもの三百餘名の多きに達し頗る盛況を呈せり十六年十一月感ずる所あり千葉縣巡查を拜命し十八年四月看守に轉じ二十年九月更に巡查に復職し十二月佐倉警察署在勤を命ぜられ日夜職務に執掌す二十三年四月四日川崎銀行佐原支店より千葉銀行へ現今なしへ遷送すべき壹萬二千八百圓の行金護衛の命を受け同日午後四時印旛郡佐倉町を發し同郡千代田村栗山新田に到る頃手中を以て面部を包み身に萌黃の毛布を纏へる大漢子の追尾し來るあり窃に行金を負荷せる脚夫及び氏の一舉一動を窺ふものゝ如し氏深く之を怪しみ試みに彼を先んぜしめんと欲し聊か遂巡の態を裝ひたるも彼れ容易に進まず歩一步其の後より追逐し來たれり是に於て氏は倍々彼が尋常一様の旅客にあらず或は一種の惡漢にあらざるかを疑ひ先づ其の行程を問尋せり

然るに言語甚だ曖昧にして怪しむべき動作少からざるに依り目を以て脚夫を警戒し同時に氏も亦外套を脱し劍柄を握りして萬一に備ふる所ありたり而して千葉郡都賀村字原なる夫婦坂を越えんとするや、時既に暮色に迫れり、此の時追跡し來れる彼は突然拳銃を發して氏の臀部を撃つ氏は奮然直に劍を抜き之に應ず彼は遂に巡しつゝ尙三丸を連發し一丸は氏の左腕上節部を傷つくるに至れり然れども氏は之に屈せず益々勇を鼓して追撃すること數百步遂に路傍の茶園中に於て一刀を其の左肩に加へ將に之を殺さんとす此の危急の際に於て氏は尙警察官の本分を忘れず謂へらく之を生擒すること能はざるは警察官として恥つる所なり且斯くの如き兇漢は必らずや他に幾多の餘罪あらん遂一之を白狀せしめて以て兇惡を懲さるべからずと乃ち劍を棄て多年練磨の柔道を以て之を捕縛せんと

す兇漢は烈しく抵抗して容易に屈せざりしも氏は遂に之を膝下に組伏せ其の左腕を執へて拿捕せんとせしに繩忽ち斷れ復如何ともすること能はず止を得ず下帯を解きて之を縛し右手に携ふる所の拳銃を奪はんとするや彼は更に二丸を連發し一丸は深く氏の下腹部を撃ち重傷を負ふに至れり然れども氏は尙屈せず終に兇漢を嚴重に捕縛し引致せんとす是に於て兇漢は甘言を以て氏を欺て曰く貴下が身を捨て予を縛す其の功は僅に一二等の昇級に過ぎざるべし予が斯の如く兇行を敢てするは聊か微志の存するものあればなり希はくば予を放て必ず千金を以て酬ゆる所あらんと應請して止まず氏は其の無禮を怒り厚顔を惡むと雖ども且慰め且叱

し雨後の泥濘十數町を歩み稍やく一民家に至り彼を地上に拘束し之を覆ふに風呂桶を以てす蓋し黨類の來りて彼を救はんことを慮ればなり而して氏は其の家の主人をして千葉警察署に急報せしめたり之より先き行金携帶の脚夫は其の掠奪を畏れ氏が兇漢と格闘するを顧みるに遠なく疾走し千葉町に入り先づ途中の變事を千葉警察署に訴ふ當時の署長警部岡耕三郎は直に警官數名を現場に派して氏より其の兇漢を受取りて引致せしめ之れと同時に重傷を負へる氏を千葉病院に入れしむ時に翌五日午前二時なりと云ふ氏は入院後毫も精神に異常なく泰然自若たり石田知事羽生書記官渡邊警察部長及嚴父羽右衛門氏並に親戚等の訪問に接するや

襟を正しうして遭難當時の顛末を述ぶるの外敢て一言も私事に及ばず官に於ては深く其の功績を多とし巡查部長に補し特別賞與金を交付せらる。越えて三日創傷漸く劇痛し、終に八日午前一時四十五分を以て歿す享年三十有一人其の勇敢にして職務に忠實なると挺身難に殉じたる赤誠とに感動せざるものなし斯くて兇漢は當初其の姓名を隠蔽して止まざりしも遂に印旛郡豊住村南羽鳥平民淺野與右衛門なること且是より先き明治二十二年四月二十二日川崎銀行佐原支店より千葉銀行へ送付すべき行金七千餘圓を前記の場所に於て掠奪したり依りて更に之を再びせんとしたる旨を陳述し其の他數罪俱發遂に處刑せらるゝに至れり彼れが千

葉警察署に留置中監視の巡查に向ひ予を捕縛したる巡查は實に仁者なり當時予は逐はれて進退既に谷まれば彼れが一刀を眞向に振り上げられたる時の如き身は既に兩斷せらるべかりしに忽ち刀を棄て、捕縛せられたり仁者に非ずして誰か之を爲し得んや予か今日の生命あるは全く此の巡查の賜なりと深く其の沈勇なるに感嘆し且千葉監獄に收監中獄吏に向ひ大概の人は銃聲一發忽ち其の心膽を寒からしむるものなるに予を捕縛したる巡查は却て其の勇氣百倍せり未だ會て斯くの如き勇者を見ずと大に賛稱したりと云ふ

嗚呼氏の如きは實に日本警察官の好模範なりと謂ふべし

故千葉縣巡查 石毛留吉

氏は文久元年九月本縣匪徒郡須賀村に生る少壯にして家人の生業を事とせず奮て身を警察界に投ず其の職に當るや勤勉努力克く同僚の敬服する所となるたまへ松戸警察署勤務中明治二十三年十月部内虎疫發生し其の病勢頗る猖獗なり氏は之が豫防救治の命を受け寢食を廢し奔走劬論其の局に當れり然れども其の當時は豫防消毒の方法完全ならず加ふるに人民は戰々兢々一種の迷信を抱き却て警察の行動に疑惑を抱くものあり其の措置頗る困難にして名狀すべからざるものあり氏は克く此の間に處して其の職務を遂行し遂に病毒の感染する所となり同月二十一日竟に易質す

氏は本縣山武郡大富村の人奮然圖南の志を抱て職を本縣巡查に奉じ前途大に爲すあらんとするに際し偶々佐倉警察署勤務中明治二十五年三月天痘發生し氏は之が豫防消毒の命を受け連日連夜寢食を忘れ連綿不斷其の任務に従事し遂に其の病毒に感染し同月二十一日不幸亦立つ能はざるに至る

故千葉縣巡查 鶴岡彌惣次

氏は市原郡高瀧村の人安政三年七月を以て生る資性温順明治十五年五月千葉縣巡查を拜命し爾來縣下の各警察署に歴任し尋て大和田警察分署に轉じ二宮村駐在所に在勤す到る所職務に忠實なるを以て好評あり二十五年五月十三日夜

受持區内を巡邏して字瀧臺に到る途次一漢子の舉動甚だ怪むべきものに遭ふ乃ち之を誰何するに應答頗る暖昧なれば早くも尋常人にあらざるを早くも看破し將に之を捕へんとす彼突然隠し持ちたる一刀を抜き氏を刺す氏其の不意に驚きたるも敢て屈せず奮闘數時に及び最初刺されたる傷痛甚だ重く且奮闘の際再び重傷を被り竟に昏倒せり而して其の死骸は路傍に横たはり通行の人之を認めて直に警察署に報告し警官急行して現場に至りしが苦闘の跡歴然として其の慘狀實に見るに忍びざりしと云ふ同村人民は氏が職務の爲め挺身奮闘したる忠實に感泣して今尙追慕止まず氏たるも以て限すべきなり

平林友之丞

氏は本縣士族にして君津郡久留里町に生る年齒未だ弱冠にして職を警察に奉じ頭腦明晰上司の囑望して同僚の模範とする所なり明治二十二年擢でられて警部に昇進し一宮警察分署長を経て行徳警察分署長となる偶々二十五年十二月管内に腸窒扶斯病發生し其の慘毒言ふに忍びざるものあり氏は此の間に處して極力豫防救治の衝に當り遂に病毒の感染する所となり同月二十六日圖南の鵬志を懷て亦立つ能はざるに至る

遊佐中

氏は愛知縣渥美郡豊橋町の人慶應元年十月を以て生る資性朴直にして忍耐力に富めり明治二十四年六月千葉縣巡查

を拜命し鴨川警察分署西條村駐在所に在勤す二十七年六月同村打墨に於て腸窒扶斯病發生し漸次蔓延の兆候を呈し越えて七月に至り既に數十名の患者を出し病勢を逞うす元來同村には傳染病隔離所の設備なく隨て消毒器具の如き亦決して充分ならず氏深く之を憂慮し東奔西走日夜豫防消毒に従事し患者の慰撫交通の遮斷等努力至らざる所なく其の功勞甚だ顯著なりしかは病勢漸次減退し將に絶滅せんとするに際し以不幸亦病毒の感染する所となり療養効なく終に同年九月三十日を以て歿せり享年三十有二同地方人民深く之を痛惜し今尙其の功績を稱揚して止まずと云ふ

職を警察に奉じ恪勤精勵特に劍道は其の堂に達し名聲遠近に鳴る佐倉北條鴨川の各警察署長に歴任し明治二十四年一度其の職を退き其の後再び東金警察署長と爲る偶々二十八年十一月より管内に腸窒扶斯病發生し其の病毒に幾多の人命は慘憺たる病魔の呪ふ處となる氏は之が豫防救治の局に當り日夜奮勵其の病毒の撲滅を圖りしに不幸遂に病毒に感染し百方治療の途を盡すと雖亦立つ能はず同年十二月九日縣立千葉病院の病床に涙を吞んで不歸の客となる

鎌形己之助 氏は明治二年五月香取郡小見川町に生る資性温厚篤實にして徳望家を以て稱せらる三十一年四月千葉縣巡查を奉職し

檢見川警察署幕張町駐在所に勤務す翌卅三年九月三日偶々同町實靱に於て三名の腸窒扶斯患者を生ず氏は同病の蔓延が地方に及ぼす影響の容易ならざるを怖れ自ら率先して患者の家に就き豫防消毒に従事す其の職務に忠實にして用意の周到なる孰れも良警察官を得たるを喜ばざるはなし然るに翌四日の夜に至り氏亦劇熱を發し漸次其の度を高め全く病毒に感染したること判明し爾來療養怠らざりしも同月二十五日午後七時遂に死去せり氏は彼の兇賊惡漢の爲めに其の命を殞したる者と類を同ふせずと雖も其の職分の爲めに一身を犠牲に供したるに至りては則ち一なり今尙ほ同地方人民が氏の熱誠を追慕し稱賛して止まさるもの決して偶然

にあらざるなり 故千葉縣巡查 磯野伊之吉 氏は元治元年五月を以て長生郡西村に生る性勇敢にして品行甚だ謹嚴なり明治二十五年九月千葉縣巡查の職を奉じ同年十一月北條警察分署に在勤を命ぜられ所屬白濱村に駐在精勵業に超え上下の信望を獲たり三十五年八月隣區七浦村駐在巡查の賜暇歸省中氏其の補缺勤務の任に當り同月十七日午後九時頃微行巡邏中飲食店某家に於て同村新藤市松外數名の無賴漢が現金を略して博奕するを認め現場に於て將に市松を捕縛せんとす然るに同村丸野音松なるもの走り來り頻に哀訴して曰く市松は自家の雇傭人夫なり今彼を失へば出漁すること能はず希

故千葉縣警部 松島理武

氏は熊本縣士族にして夙に

二年四月千葉縣巡查を奉職し

失へば出漁すること能はず希

はくは扛けて釋放せられんことをと氏は市松の釋放は法規の許さざる所にし、到底不可能なる所以を應篤説諭する所ありしに彼れは深く自覺せるもの如く唯々として現場を退きたり是に於て氏は市松を引致して同村字平磯に差掛るや義に氏の説諭を受けて一旦現場を退きたる音松は更に雇傭夫磯崎爲吉を伴ひて追跡し來り豫て用意したる鑿切庖丁を以て突然氏の頭部に斬り付け其の間隙に乘り市松を奮ひて逃走せんとす然れども氏の勇敢なる敢て狼狽する所なく赤手を以て抵抗し格闘良之を久ふす既にして流血淋漓兩眼に入り次第に進退の自由を失ふや兇漢三名は前後左右より猛進し各棍棒を揮つて亂打す遂に力竭き、無限の恨みを吞

んで兇漢の毒手に燈れたるは實に千秋の恨事なりとす然れども挺身以て其の職務に殉じたる忠誠の精神は警官の龜鑑として之を萬古に傳ふべし
故千葉縣巡查

椎名新五郎

氏は明治十一年十一月香取郡吉田に生る資性率直にして品行方正なり三十六年九月縣巡查を拜命し松戸警察署に在勤す三十七年受持部内松戸町に於て腸窒扶斯病の發生するや症勢甚だ猛烈にして忽ち患者三十餘名に達し漸次蔓延の兆候を呈す氏乃ち所屬署長の命を承けて専ら豫防消毒に従事し日夜精勵殆ど寢食を忘るゝに至る而して其の功空しからず豫防の設備漸く緒に就き病勢亦著しく減退するに至れり當時氏の勤勞は深く同僚の

花井 耀

氏は明治八年六月長生郡長柄村に生る性温恭謙にして品行方正なり三十一年七月職を千葉縣巡查に奉ず爾來小見川佐原多古の各警察官署に歴任し恪勤精勵衆に超え毎に儕輩に推重せらる三十七年十月受持部内香取郡常磐村に於て腸窒扶斯症發生し病勢日を追ふて猖獗を極め遂に全村に蔓延するに至れり氏乃ち日夜東西に奔走し殆ど寢食を忘れて防疫の事に従ひ一身一家を顧みるに遑なかりき然るに怨ち其

飯田瀧次郎

氏は明治四年を以て安房郡館野村に生る資性温厚篤實にして兼て堅忍不拔の氣に富めり二十四年十二月歩兵第二聯隊に入營し二等卒となり爾來其の成績群を抜き二十八年八月累進して二等軍曹となり三十一一年十月一等軍曹に進み北清事變に参加し功を以て勳八等叙せられ同年五月滿期除隊となる後千葉縣巡查を拜命し大和田警察分署に在勤中偶々日露戰役起るに會し召集せ

られて後備歩兵第二職隊付と爲りて出征し黑溝臺接戦の際選拔せられて強行偵察の班に加はり遂に左腕關節部を貫通せる銃創を受け恨みを吞て還送せられたり後幾何もなく傷痕癒えて再び前職に復し銃子警察署に在勤し精勵奮に倍す時に三十九年以來海上、匪徒香取の三郡に跨り數名の兇賊所在に出沒し常に金品の掠奪を恣にするのみならず往々婦女子を犯し暴戻至らざる所なし氏乃ち捜査の選に當り二三の同僚と共に日夜東奔西走し遂に賊は海上郡海上村加瀬利八並に其の乾兒なることを探知し同年六月二十三日同僚水上岩吉と共に其の共犯者たる鈴木長太郎の自宅に臨みしに恰も好し利八も亦同家に潜伏し居たり然るに利八は早くも

警吏の影を認め直に遁逃せり是に於て將に續いて逃げ去らんとする長太郎を逮捕し之を引致せんとせしに何ぞ圖らんとすに逃走したる賊魁利八は竊に抜刀を携へ來りて突然氏の雙脚を撃つ氏赤手之に抵抗したるも既に雙脚の自由を失ひたるが爲めに遂に胸部を貫刺せられ無限の怨恨を呑みて瞑目せり氏尙春秋に富み前途有望の身を以て空しく賊刃に墮る人生の悲惨之より甚だしきはなし然れども其の公に奉し職に殉じたる忠勇は官民の興に認むる所にして氏たるもの死して餘榮ありと謂ふべし因に兇漢利八捜査の顛末を記さんて利八は兇行の當日同村見廣坂に到り通行の婦女を姦し其の携ふる所の胡瓜を奪取して之を食ひ同夜山中に潜伏し

水上岩吉

氏は滋賀縣伊香郡七郷村の人明治二年三月其の郷里に生る性頗る温和にして且沈勇なり三十年八月千葉縣巡查を拜命し夙に敏腕の聞えあり最も機智に富み探偵事務に長ずるに依り三十三年選ばれて刑事專修生と爲り出京を命ぜらる十月業を卒へて歸縣し刑事事務を以て木更津大多喜銃子の各署に歴任し精勵群を抜き三十九年二月以來海上匪徒香取に跨り數人一團の兇賊所在出沒して金品を掠奪し又往々婦女を強姦する等暴戻至らざる

其の後西銃子町荒物商某及び瀧鄉村岩井開墾地の某家に入り其の妻女を姦し金品を掠奪して去り其の他各所に出沒して強盜強姦至らざるなし千葉縣警察部にては縣下各警察署より約二百名の巡查を應援せしめ日夜捜査警戒に努むと雖も兇漢利八は元木挽を業とし常に山又山を跋渉し人跡絶えたる細徑も意とせず巧に警戒線を脱して神出鬼沒容易に縛に就かず是に於て當時の警察部長たりし新妻駒五郎氏は自ら指揮官と爲り關係町村民約三千を以て捜索隊を編成し匪徒海上香取の三郡に跨る山野を包圍し之を捜索せり彼亦短銃刀劍を携帶し將に茨城地方に脱出せんとす然れども天何ぞ此の兇漢を逸すべき遂に香取郡橋村青馬に於て巡查林要

所なし氏之が捜査の任に當り二三の同僚と共に日夜寢食を忘れて東奔西走し遂に賊は海上郡海上村加瀬利八外數名なることを探知し得たり同年六月二十三日同僚飯田瀧次郎と共に共犯者鈴木長太郎を逮捕せんとし窃かに其の家宅を窺ふ恰も好し賊魁加瀬利八が同家に潜伏し居るの状況を認知したれば飯田巡査は正面より氏は側面より之れを挾撃して二賊を逸せざるの計畫を採りたるに遂に利八に覺知せられ未だ門内に入らざるに先ち逃走せらる氏乃ち飯田巡査と協力して稍やく長太郎を逮捕し將に引致せんとするに臨み氏は猶證據物件を搜索せん爲め同家裏手に廻り居る際糞に逮捕を免れて逃走したる利八は竊かに抜刀を携へ突然躍り出

で飯田巡査を斬り長太郎を奪ひ去らんとす此の物音を聞き愉快現場に馳せ付け僅に尺餘の十手を以て兇賊の白刃と闘ひ遂に十餘箇所の重傷を被り満身血に塗れて卒倒せり賊は其の間隙に乗じて逃去し氏は爲めに其の目的を達するこゝと能はざりしと雖同僚既に賊刃に登れ危害將に身に及ばんとするも敢て屈せず自ら進みて之に抗したる勇氣に一般警官の士氣を振興するのみならず又以後進の龜鑑とするに足れり氏は爾後拔擢せられ巡査部長を命ぜられしも雙手の創傷全く屈伸の自由を失ひ退職の止むを得ざるに至り九月職を辭して郷里に歸り専ら静養を事とせしも頭部も創傷之が基因と爲り終に死亡せり誰か一片同情の涙を注がざらんや

根本正三郎

氏は山武郡増穂村上谷新田の人明治九年二月十日を以て生る資性温良謹嚴能く衆を御するの才幹あり三十三年九月職を千葉縣巡査に奉じ爾來各署に轉勤し三十六年四月二宮警察分署在勤を命ぜられ大和田町萱田津田沼町大久保及同町谷津の各所に駐在す其の間能く紀律を守り一意専心、最も忠實に職務に執掌す三十九學八月精勤證書を授與せられ常に同僚の模範たり四十二年八月近年未曾有の出水に際し氏は命を受けて野田警察分署管内關宿町に出張し水防事務に従事す時に江戸利根の兩川甚だ氾濫して遂に家屋の流失人畜の死傷を見るに至る氏は

秋谷榮治

日夜寢食を忘れて之が警戒救護に任すること數旬幾多の生命財産を保全し克く其の任務を果して歸任するや隣區久々田駐在受持區内鷺沼に腸窒扶斯病發生せり然るに駐在巡査に缺員ありしを以て氏は休養の暇なく之に代り疲勞の體軀を提けて日夜豫防消毒に従事中不幸病毒に感染して千葉病院に入り治療の手を盡せしも藥石効なく同年九月二十三日を以て終に不歸の客となれり嗚呼氏の如きは能く人民保護の職務を盡し而して其の職務の爲めに登る心事豈同情せざるを得んや

故千葉縣巡査 木村謙藏 氏は明治三十四年九月市原郡市東村に生れ資性温順大正十四年一月本縣巡査を拜命同年四月優秀の成績を以て教習卒業北條警察署勤務となり頭腦明晰上司の囑望して同僚の模範とする處なり同年七月十六日夜署長の命に依り北條町を密行警戒に従事中翌十七日

本縣巡査を拜命し各警察署を歴任刑事事務として野田警察分署に勤務中大正三年五月三日夜同署管内強盜犯人として捜査中の茨城縣平民間中七藏が野田町中ノ臺に立廻りたるを認め君は直に挺身勇敢にも追跡し彼れに組付約三十分間路上に於て格闘申兇賊七藏は呑み居りたる刃渡七寸の短刀を以て君の左腹部に斬付け大腸露出の重傷を負せられたるも尙屈せず約三丁餘を追跡したるが遂に盡きて路傍に昏倒し行人之を見て所屬署に急報すると共に氏を直に入院治療せしも藥石其の助なく遂に翌四日病床に浪を吞んで瘞る

高 保壽

氏は明治八年一月本縣香取郡高岡村に生れ資性温順責任觀念強く同僚の模範たり

故千葉縣巡査 土屋勇次

明治三十八年九月本縣巡査を拜命し船橋警察署行徳町駐在所勤務中大正五年八月船橋町に虎疫患者發生し其の病勢頗る猖獗を極め氏は之が豫防救治の爲應援出張を命ぜられ同町に於て日夜奮勵其の病毒の撲滅を圖りしに不幸病毒に感染し同町隔離病舎に於て療養中遂に同年九月十五日不歸の客となれり享年四十二同地方民は深く痛惜し今尙ほ其の功績を稱揚して止まずと云ふ

故千葉縣巡査 木村謙藏

午前零時二十分頃同町六軒町縣道に於て四五名の青年爭論し喧騒に渉るを以て之が制止を爲したるに肯せざるのみならず反つて一名の暴漢呑み居たる短刀を振り氏の左腹部を突刺し長さ二寸大腸に達する重傷を負 せ逃走せり氏は敢て屈せず流血淋漓たる身を以て追跡したる數丁にして力盡き其場に倒る行人之を認め警察署に報ず署長以下疾驅し其の急に應ず氏は頗る重傷なりしと雖も具さに事の顛末を陳述し兇漢の逃走の方向を指示せり爲に間もなく犯人は逮捕するを得たり氏は館山病院に入れ懇切に治療を施したるも其の効なく同二十一日午前七時遂に職に瘞る享年二十有五英魂長に朽ちずと謂ふべし

故千葉縣巡査

商 工 業

商工業の概況

數年來の不況の影響は商工業者に一大打撃を加え遂に行詰りの急迫せる事態にまで到来せしめた、滿洲上海兩事變で戦時工業が幾分活發になつて來たとは言え本縣への影響はあまり緩慢すぎ商人の賣上高は日に漸減するの状況を示した、これが打開策として政府が中小商工業者救済の一助として商業組合及工業組合の兩法令を實施した

商業組合の趨勢

中小商業者を救済すべく昭和年間 月から實施した商業組合は個人より力も團結の力で中小商業者更生の道を見出さしめようとの企てであり本縣商工課でも大いに力をこめて成立を見たものは僅かに

に三組合に過ぎない即ち「カッポ内は理事長」

◇千葉市商業組合「西川測吉」

◇千葉自動車運輸業商業組合「木島義夫」

◇那古町商業組合「鈴木森藏」

◇其のうち千葉市商業組合は各種組合として全國最初に認可されたものである、他の二組合は單種組合として既に活動を開始し千葉自動車運輸業組合の如きは既に株の申込を締切り事業に着手するに至つてゐる、商業組合の趨勢は今後益々増加するものと見られる之に依つて中小商業者の更生の途を講ぜらるゝものと見られる

縣下工場及事業主

工場名 事業主名
岩田鐵工場 岩田明治郎

千野模範ドライ	石野 三郎	千葉毎日新聞社	五十嵐喜久
クリニング工場	同 上	立真舎印刷所	國松惣次郎
千葉瓦斯工業株式會社	同 上	大塚製綿工場	大塚 猪亮
合資會社千葉モータース商會	同 上	大塚製綿工場	大塚 尚平
向後鐵工場	向後儀兵衛	大政木工場	森 政 吉
佐藤鐵工場	佐藤 喜一	小川工作所	小川理三郎
穴倉蠟灰工場	穴倉 長松	河内製綿所	河内福太郎
鈴木蠟灰製造工場	鈴木良三	武田タイヤ修理所	武田 晴夫
伊勢太昆布製造所	田中專太郎	根本家具工作所	根本八十次
笹本製紙工場	笹本 長吉	塚本屋鋸製造所	石橋 半造
千葉印刷株式會社	同 上	鶴澤製材工場	鶴澤 力藏
布施下駄製造工場	布施長五郎	合資會社萬葉軒	同 上
増田製材部	増田 時治	文友堂印刷部	田中 正二
金木製材工場	篠崎 菊治	鹽田洋服工場	鹽田 鹿藏
東綿紗 稲好	稲好 忠平	志村酸素工業所	志 村 猛
千葉工場	齋藤藤三郎	大日本製氷株式會社	大日本製氷株式會社
齋藤製材工場	齋藤藤三郎	大野度量衡製作所	大野 力藏
參松合資會社	參松合資會社	日東製粉株式會社	日東製粉株式會社
千葉工場	深山 隆治	會社千葉工場	飯田 榮吉
深山鐵工場	深山 隆治	吉田製綿工場	村田 良
篠崎製材工場	篠崎 隆治	村田製麵所	村田 良
長谷部鐵工所	長谷部 豊	小西硝子艶消工場	小西眞兵衛
萩原洋服裁縫工場	萩原 豊二	青木自動車修理工場	青 木 要
西製作所千葉工場	竹村 精一	櫻木木工工場	櫻木省一郎
東海鍍金工場	竹村 光藏	東山ゴム工業所	船橋幸三郎
千葉活版所	岩倉 順造	杉田製材工場	杉田 貞治



加藤産科婦人科病院

産科婦人科 加藤病院

院長 加藤義治
千葉市通町(電話一三八番)

木更津分院(電話一七番)
分院 向日長里

千葉郡
 合資會社今井 同 上
 製紙工場 同 上
 今井製油合資會社 同 上
 別工 長谷川トヨ
 植草鐵工場 植草卯之吉
 小泉製紙工場 小泉 惣治
 合資會社伊藤 同 上
 飛行機製作所 同 上
 京成電氣軌道株式會社津田沼車庫修繕工場 同 上
 京成電氣軌道株式會社
 京成電氣軌道株式會社
 會社津田沼變電所株式會社
 白鳥製藥工場白鳥與惣左衛門
 合資會社高德製綿所 上
 合間蠟灰製造工場 合間友吉
 關口鐵工場 關口儀一郎
 伊藤製板工場 伊藤寅次郎
 齋藤蠟灰工場 齋藤 郁郎
 白井村和泉協行 深山 喬一
 組合製材工場 伊原慶三郎
 伊原製材工場 伊原慶三郎
 市原郡
 土岐醬油醸造工場 土岐 義雄
 田中製材工場 田中福太郎
 時田酒類醸造工場 時田甚太郎
 兩總電氣株式會社
 社五井變電所
 外木工場
 合資會社齋賀酒造所
 相川醬油醸造工場
 宮崎製紙工場
 渡邊製綿工場
 市川本製材所
 加藤製材工場
 中島醫科引板
 注射針製造所
 中島鐵工所
 合資會社木口
 製油工場
 佐川製材所
 國吉製材工場
 山中製材工場
 末廣木工業場
 東葛飾郡
 合資會社市川
 製氷所
 東京パイプ製造所前田市太郎
 東京毛布株式會社同 上
 合資會社東京
 銅瓦板製造所
 小澤眼鏡工場
 千葉玩具用普
 通火工用品工場
 千葉富之助
 葛飾瓦斯株式會社同 上
 谷岡染工場
 寶酒造株式會社
 市川工場
 京成電氣軌道株式會社市川變
 電所 京成電氣軌道株式會社
 合資會社兄弟
 護謨製造所
 合資會社染合商店同 上
 田中醬油醸造工場中喜兵衛
 小澤樽嘉工場
 岡田樽吉工場
 大柴製樽工場
 樽勝製樽工場
 和田製樽工場
 樽房製樽工場
 樽音 工場
 樽安 工場
 樽喜製樽工場
 樽佐製樽工場
 樽松製樽工場
 樽田製樽工場
 樽染製樽工場
 樽淺製樽工場
 樽伊製樽工場
 樽保製樽工場
 樽爲製樽工場
 野口庄一郎
 地曳 邦三
 大山 留吉
 川井重次郎
 田上 慶故
 大胡久三郎
 野田醬油株式會社萬上味淋部
 天晴味淋醸造場秋元合資會社
 中島欽工場
 中島榮次郎
 中島欽工場
 中島榮次郎
 鹽谷 正
 戶部 欣三
 榊田啓三郎
 淺野 淺吉
 澁谷勘治郎
 大塚憲一郎
 小川 雄市
 廣瀨 明
 總武鐵道株式會社
 白川製材工場 白川彌平次郎
 印旛郡
 五十嵐製材工場五十嵐喜一郎
 合資會社丸玉製糸場 同 上
 樽榮製樽工場
 吉岡製樽工場
 樽嘉製樽工場
 樽增製樽工場
 樽島製樽工場
 樽富製樽工場
 樽平製樽工場
 樽六製樽工場
 須賀製樽工場
 樽米 工場
 吉澤製樽工場
 樽兼 工場
 樽時製樽工場
 川野製樽工場
 樽金製樽工場
 樽八製樽工場
 樽松 工場
 樽源製樽工場
 南盛堂印刷工場
 株式會社野田
 製氷所
 松屋製綿工場
 富士製材工場
 甲田醬油榨袋工場甲田保三郎
 樽甲製樽工場 寺田申二郎
 さのへ子白木工場山下平兵衛
 北島樽榮工場 北島 榮一
 立川 イウ
 吉岡 國司
 杉崎 嘉助
 戶邊清次郎
 杉崎 島吉
 吉澤富次郎
 片岡平太郎
 飯塚 くら
 須賀仙太郎
 飯塚 壽
 吉澤初五郎
 東風谷せつ
 寺田 時治
 川野 藤藏
 濱田喜太郎
 有田八十吉
 古谷 留造
 高木 源造
 南 寅治郎
 同 上
 松本安太郎
 川村 包吉
 甲田保三郎
 寺田申二郎
 山下平兵衛
 北島 榮一

芝崎樽兼工場 芝崎 兼吉
 篠田樽松工場 篠田松五郎
 砂川製綿工場 砂川 金藏
 井上胡粉製造所 井上 峰藏
 田久保胡粉製造工場 田久保市藏
 チバラヂオ製作所山田 隆吉
 胡粉 工場 井上 磯松
 石井製綿工場 石井良太郎
 中村味噌醸造所 中村勝五郎
 共立モスリン 共立モスリン
 株式會社 株式會社
 林組製糸株式會社 林組製糸株式會社
 社我孫子製糸所 株式會社
 海老原煎餅精米 株式會社
 合名會社橋本 同 上
 菊次郎商店 同 上
 加藤精麥合名會社同 上
 高安製材工場 高安榮一郎
 松戸製綿工場 中山啓次郎
 小松號襪衣製造所古家 照之
 秋本製綿工場 秋本徳次郎
 木川染色工場 木川新次郎
 高橋製材工場 高橋國太郎
 日本パイプ製造株式會社
 八幡工場 日本パイプ製造株式會社
 加藤護謨引工場 加藤 優
 堀胡粉工場 堀 子之吉
 北越製紙株式會社市川工場
 北越製紙株式會社
 兒島醫療器械製造工場
 後藤神興佛具 製作所
 江戶川友禪工場 中山 政次
 竹澤蠟灰工場 竹澤 專助
 宇田川蠟灰工場宇田川義之助
 株式會社山崎鐵
 工場醬醸造工場 同 上
 金橋蠟灰製造所 金 橋 茂
 内田佃煮工場 内田梅治郎
 時田クリーニ 時田 長平
 金子製材所 金子 爲藏
 大正舍密合資會社同 上
 竹内胡粉工場 竹内 金藏
 竹内クリーニ 竹内 定吉
 楠林鉦工場 楠林六三郎
 田沼胡粉製造所 田沼 宗一
 山口落花生工場 山口千代松
 京成電氣軌道株式會社船橋變
 電所 京成電氣軌道株式會社
 古川胡粉製造所 古川菊太郎
 船橋製材所 野口庄一郎
 船橋木毛工場 地曳 邦三
 大山欽工場 大山 留吉
 川光商店精麥所 川井重次郎
 田上製綿工場 田上 慶故
 大胡製綫工場 大胡久三郎
 野田醬油株式會社萬上味淋部
 天晴味淋醸造場秋元合資會社
 中島欽工場
 中島榮次郎
 中島欽工場
 中島榮次郎
 鹽谷 正
 戶部 欣三
 榊田啓三郎
 淺野 淺吉
 澁谷勘治郎
 大塚憲一郎
 小川 雄市
 廣瀨 明
 總武鐵道株式會社
 白川製材工場 白川彌平次郎
 印旛郡
 五十嵐製材工場五十嵐喜一郎
 合資會社丸玉製糸場 同 上
 山毛製材精米工場郡司 好又
 土井製糸場 土井雅五郎
 岡田木工場 岡田 正
 伊藤製材工場 伊藤 繁雄
 金松製材工場 松本 喜七
 大木製材所 大木 勇助
 櫻井製材所 櫻井 康助
 大熊製材所 大熊秀治郎
 海寶製材工場 海寶三四郎
 足立 留吉
 黒田製材木工工場黒田 平助
 米屋羊羹製造工場諸岡 長藏
 平山製材及木工工場平山金吉
 高石製材工場 高石徳次郎
 松本製材工場 松本 基
 海寶 專藏
 大西製材工場 大西 謙三郎
 石田 義府
 前山製材工場 前山長次郎
 土屋製材精米工場土屋 清市
 丸吉製材所 日暮吉之助
 森田製材工場 森田 忠光
 丸竹製材工場 齋藤 竹藏
 マルキ下駄工場 池田喜三郎
 第一製材工藝株式會社
 同 上
 平野製材工場 平野新之助

丸越製材所 越川勝太郎
 増淵製材工場 増淵 量平
 丸二木材合資會社 西村 貞一
 成田工作所 西村 貞一
 京成電氣軌道株式會社 白井 變
 電所 京成電氣軌道株式會社
 板橋製材工場 板橋謙太郎
 三須製材工場 三須 治平
 時田製材工場 時田 忍
 長生郡
 吉野製材工場 吉野文太郎
 荒井製綿工場 荒井 健作
 茂原製材工場 關谷 誠一
 關谷製糸工場 關谷 憲次
 杉木製工所 杉木 一松
 本納製材工場 林 嘉作
 鳥居製綿工場 鳥居 忠雄
 米川製工工場 米川良太郎
 府川製綿工場 府川芳太郎
 菊川燐寸製造工場 菊川 才助
 山崎製材工場 山崎 猶治
 片岡製材所 片岡三千造
 石川製材精米工場 石川 與吉
 山武郡
 伊藤製綿工場 伊藤助次郎
 押塚製工工場 押塚 勇
 だもん染工場 勝田 榮司
 有責任東金瓦斯購買利用組
 村井製綿工場 村井三郎
 三河屋綿工場 村松 喜七
 赤菱タイヤ商事東金營業所
 鬼島製材工場 工川 清治
 鹿間製材工場 鹿間庄太郎
 池田織物工場 池田 幸吉
 米澤織物工場 米澤 市郎
 市原製材工場 市原茂三郎
 成東製工工場 吉澤 富助
 松井製下駄工場 松井 德藏
 小倉織物工場 小倉 逸作
 小見川製材精米工場 小見川喜太郎
 山木製材工場 山木 かい
 小野崎木工場 小野崎藤太郎
 製材工場 小川 隆司
 吉岡製材所 吉岡 榮亮
 片貝製綿工場 小關 萬吉
 土田鐵工工場 土田 和夫
 杉原鐵工工場 杉原 三郎
 岸本製材所 岸本 政司
 丸製製材所 丸 彌吉
 丸陸製材工場 嘉瀬 敏
 丸平木工場 片岡 常吉
 佐々木製綿工場 佐々木勘七
 北崎鐵工工場 北崎 璋吾
 齊田製材所 齊田 清
 石橋製材工場 石橋 瀧藏
 稗田製材工場 稗田富五郎
 本澤製材工場 本澤 正勝
 小林製材精米工場 小林 吉平
 前島精米製材 前島 豊吉
 齋藤製糸織物工場 齋藤 庄作
 布留川製材工場 布留川儀三郎
 金坂工場 金坂 幸造
 伊藤製樽工場 伊藤 綱吉
 磯長油槽所 坂本新太郎
 馬場味淋醸造工場 馬場善兵衛
 井村製材所 井村 章
 土井製綿工場 土井卯之助
 小野建具製造工場 小野寅藏
 沼田製綿製麵工場 沼田米三郎
 小倉製材所 小倉 ぶさ
 兜印醬油製造工場 兜印醬油
 正上醬油醸造工場 加瀬庄次郎
 龜村製材工場 龜村 榮吉
 丸萬鐵工所 根本紋次郎
 吉田鐵工工場 吉田 周吉
 石井傘製造工場 石井 要吉
 成田製綿工場 成田 昇
 合資會社共榮商會 同
 南村製綿工場 南村升之助
 鈴木建具工場 鈴木市太郎
 小林製綿工場 小林 晋
 高木商店油槽所 高木 善助
 佐原製氷冷蔵株式會社 同
 佐原印刷株式會社 同
 清宮製綿工場 清宮卯三郎
 香取製材所 香取 重忠
 飯嶋鑄物製作所 飯嶋 源藏
 杉山發動機工作所 杉山 寅造
 小川製材所 小川 政治
 牛尾木工所 牛尾 磯太郎
 山十製材所 齋藤寅之助
 丸兵製材所 那須 太郎
 入正醬油醸造工場 入正醬油合資會社
 中村製樽工場 中村 寅吉
 大村屋醸造工場 山本 力藏
 梅澤鐵工工場 梅澤 鳥藏
 野中鐵工工場 野中 徹夫
 榊屋製綿工場 榊塚 とう
 成毛製氷工場 成毛庄太郎
 岩立鐵工工場 岩立 忠藏
 萩谷製材精米工場 萩谷 作次郎

多古製材合資會社 上
 牛尾木工部 牛尾 關治
 玉井機械工場 菅谷 經藏
 小川製糸工場 小川五三郎
 海上郡
 五十嵐製樽工場 五十嵐清三郎
 白土鐵工場 白土 滿
 紐育スタンダ石油會社 銚子
 油槽所 木内 康治
 豐田製藥工場 豐田 伊平
 銚子製材所 渡邊 重藏
 銚子電鍍金工場 篠塚 精彦
 銚子鐵道株式會社 仲之町 變電
 所
 銚子鐵道株式會社
 銚子燃料油槽所 渡邊 政治
 小田屋製鋼工場 小田助三郎
 渡邊自轉車修繕工場 渡邊謙二郎
 吉本釣針製造工場 吉本 芳松
 加藤製樽工場 加藤 幸助
 吉田鐵工場 吉田庫二郎
 常世田製綿工場 常世田眞治郎
 內藏蠣灰製造工場 內藏富太郎
 山山醬油醸造工場
 山々醬油合資會社
 合資會社山十商店 上
 櫻井鐵工場 櫻井 芳松
 北村銚子油槽所 北村 長吉
 水野製樽工場 水野 友吉
 宮内鑄工場 宮内鐵五郎
 日銚製氷冷蔵株式會社 同
 銚子瓦斯株式會社 同
 小川戶鐵工場 小川戶政吉
 龜山鑄物工場 及川 信平
 ヨ太工場 玉崎 與七
 田邊鑄物工場 田邊留次郎
 雨宮鐵工場 雨宮 爲次
 御山鐵工場 御山 芳藏
 廣田鐵工場 廣田兼五郎
 下河原鐵工場 下河原政吉
 鍵屋マニラ麻第二工場
 伊藤製作所 山口忠兵衛
 加瀬製材所 伊藤 利一
 正野製材所 加瀬 健治
 武多和製材工場 武多 新治郎
 山二醬油醸造工場 武多 和正治
 株式會社中條商店
 銚子織物株式會社 同
 北村內燃機關油研究所 北村 長吉
 木村鐵工場 木村 倫治
 片山製米工場 片山寅次郎
 河野製材工場 河野 倉吉
 君津郡
 岩田鐵工場 岩田吉太郎
 春川鐵工場 春川 兼吉
 岡田製材所 鶴岡 寛司
 株式會社木更津印刷所
 木更津製氷株式會社 同
 松本製繩綿工場 松本 吾良
 木更津電燈株式會社 同
 小林支店工場 神野宇右衛門
 島市製材工場 岸本 市藏
 丸三製材工場 水田倉之助
 榎本サイクル商會 榎本吉太郎
 鳥海合名會社 同
 安室自轉車店 安室 勇助
 千葉水電株式會社 同
 小櫃製材所 片倉 信治
 眞崎合資會社 同
 有限責任生糸販賣購買組合 同
 原社 同
 小川製材所 小川 國松
 馬來田製材工場 小川新太郎
 角原製材工場 宮川 幸三
 土橋製梨所 土橋 隆治
 久留重製材工場 都築徳次郎
 久留里水力電氣株式會社 同
 龜山電氣株式會社 同
 丸十製材所 嶋津新之助
 加藤製材所 加藤 喜六
 鎌田醬油醸造工場 鎌田善次郎
 丸音工場 江尻 香松
 坂井醬油醸造工場 坂井四郎治
 明石屋製材工場 坂井 綱吉
 湊製材所 夏目綱五郎
 夷隅郡
 井筒屋製材工場 關 徳衛
 田嶋製綿工場 田嶋隆太郎
 サ製材工場 猿田 勘藏
 兒安製材工場 兒安甚三郎
 株式會社東田給油所 同
 田畑商店重油置場 田畑 龜吉
 勝浦製材所 荻野 久司
 勝浦製氷冷蔵株式會社 同
 南總鐵工所 田中清治郎
 丸中製材所 岩崎 清

經濟篇補足

千葉合同銀行

資本金六、九五〇、〇〇〇圓
 拂込金二、九九七、三二〇圓
 支店數 四三
 出張所數 三二

借貸對照表

(昭和八年六月參拾日現在)

現金預金勘定	五、八六一、九二八	貸付金勘定	一四、五六一、二三八
預金	金一、四七〇、三九五	手形貸付	付五、九六六、四八八
有價證券勘定	五、〇四七、五五四	證券貸付	付五、八四四、四三三
國債	一、三三三、三〇五	當座貸越	二、三九四、六六六
地方債	四、七一四、一九六	支拂承諾見返	三、八八五
社債	債一、一〇〇、二五五	支拂承諾	三、〇〇〇
株	式三、三三〇、二八八	支拂承諾	三、〇〇〇
割引手形勘定	四二、八八八	支拂承諾	三、〇〇〇
預金	勘定 三、五二四、三九三	支拂承諾	三、〇〇〇

當座預金	金四、五九一、二四二	特別當座預金	金八、八三三、四四八
通知預金	金四、八四九	定期預金	金三、九七九、七二四
別段預金	金四、〇七五	支拂承諾	三、〇〇〇
他店借	四、七、八三五	支拂承諾	三、〇〇〇
支拂承諾	三、〇〇〇	支拂承諾	三、〇〇〇
雜勘定	四、六、九四	支拂承諾	三、〇〇〇
未拂配當金	一、五、八四五	支拂承諾	三、〇〇〇
未拂利息其ノ他	三、九二、一六八	支拂承諾	三、〇〇〇
未經過割引料	五、九二	支拂承諾	三、〇〇〇
其ノ他	一、五、三六四	支拂承諾	三、〇〇〇
預金利息諸稅	六、六三	支拂承諾	三、〇〇〇
未拂送金爲替	七、四九六、六四	支拂承諾	三、〇〇〇
株主勘定	七、四九六、六四	支拂承諾	三、〇〇〇
資本	金六、九五〇、〇〇〇	支拂承諾	三、〇〇〇
法定準備金	二、九〇、〇〇〇	支拂承諾	三、〇〇〇
別途積立金	一〇、〇〇〇	支拂承諾	三、〇〇〇
行員退職給與基金	五、四八二	支拂承諾	三、〇〇〇
當期利益金	一、九二、二二	支拂承諾	三、〇〇〇
內前期繰越金	(五、五四九)	支拂承諾	三、〇〇〇
行員退職給與基金	(四、三七〇)	支拂承諾	三、〇〇〇
金	戻入	支拂承諾	三、〇〇〇

金壹圓五錢	一、〇二千葉	小泉榮助	四、五同	高木宗之助	三七九東京	中村みね
參拾圓拂込一株ニ付	一、〇〇八同	加藤半兵衛	四、〇同	戸田榮吉	三七〇同	萩原菊世
金九十錢	九、〇〇同	萩原甲太郎	四、〇同	野村鏡次郎	二、九千葉	田邊卓郎
貳拾五圓拂込一株ニ付	九、〇同	永井陸	三、九東京	吉田義作	二、五同	小川徳四郎
金七拾五錢	八、三同	鳥海孝太郎	三、九同	野村作太郎	二、五同	小宮清
貳拾圓拂込一株ニ付	八、三同	小川角藏	三、七同	中西圓治	二、五同	太田周藏
金六拾錢	七、五同	古莊四郎彦	三、二同	小倉久三郎	二、四同	江澤美枝
拾貳圓五拾錢拂込一株ニ付	七、〇東京	高梨博司	三、二同	小谷岸郎	二、四同	富塚慶三
金三拾七錢五厘年六分ノ割	七、〇向	吉田いつ	三、二同	永井博	二、四同	高柳江か
金八萬九千九百拾九圓六拾錢	七、〇千葉	荒木照定	三、二千葉	龜田俊正	二、四茨城	高崎三重郎
後期繰越金	六、九同	吉田敬三	三、〇同	平野己之吉	二、三千葉	大野さく
金五萬參千貳百九拾貳圓八拾九錢也	六、七千葉	飯田榮亮	三、〇同	山口猛	二、三同	今井總明
株主名簿	六、〇同	登倉源吾	三、〇同	松崎長治	二、三同	宮崎マサ
持株住所氏名	五、六同	石田熊三郎	三、〇同	田丸角次郎	二、三同	澁谷今助
區縣府	五、六同	菅井與左衛門	三、〇同	多田庄兵衛	二、三同	磐井良平
東京	五、〇同	石橋毅	三、〇同	齋藤行藏	二、三同	平野春吉
川崎八右衛門	五、〇同	庄司太郎	三、〇同	萩原行藏	二、三同	大網健三
坂本茂左衛門	四、六同	高橋熊三	三、〇千葉	黒川森太郎	二、三同	源間權次郎
古莊四郎彦	四、五同	關澄龍尾	二、九同	梶左和	二、三同	鈴木清
川崎甲子男	四、五同	早川淺次郎	二、九同	青木如城	二、三同	吉川洪
吉田丹次兵衛	四、三同	吉田清	二、四同	山村新治郎	二、二茨城	宮田春子
村上喜平	四、六同					前田芳雄

二〇〇同	宇山 勝藏	二〇〇同	鎌形三四郎	二〇〇同	大塚 哲郎		
二〇〇同	竹内 延章	二〇〇同	森 善次	二〇〇同	落合 正		
二〇〇同	横田章治郎	二〇〇同	宮城喜三郎	二〇〇同	萩原 長吉		
二〇〇同	飯塚 豊	二〇〇同	松丸喜四郎	二〇〇同	生稻 清	二十五圓拂込	四、〇〇〇
二〇〇同	千平松誠一	二〇〇同	野村 房吉	二〇〇同	曾我邊健次郎	三拾圓拂込	一、八九六
二〇〇同	本間 與市	二〇〇同	高根 豊吉	二〇〇同	吉田 浩司	四拾圓拂込	五、〇〇〇
二〇〇同	伊東 きぬ	二〇〇同	橋本 平一	二〇〇同	兼田 いと	五拾圓拂込	二四、一三八
二〇〇同	鎌崎 福藏	二〇〇同	花澤 元修	二〇〇同	地曳 貞子	△株の内容	
二〇〇同	津島徳三郎	二〇〇同	石井卜太郎	二〇〇同	岩井 弘行	咒、〇八那須茂一外三二四名	
二〇〇同	半澤良太郎	二〇〇同	座間 海治	二〇〇同	小谷 貞治	一〇〇同	鈴木仲三郎
二〇〇同	神田辰太郎	二〇〇同	岩瀬平治郎	二〇〇同	藤浪 猶吉	一〇〇同	鹽田 西雄
二〇〇同	清永 巖	二〇〇同	大門忠兵衛	二〇〇同	山本 誠	一〇〇同	森 久雄
二〇〇同	齋藤 周吉	二〇〇同	秋田 吉平	二〇〇同	根本 茂每	一〇〇同	藤田 龜藏
二〇〇同	露崎 花子	二〇〇同	加藤 六郎	二〇〇同	伊東 淺吉	一〇〇同	福田治右衛門
二〇〇同	飯田 榮亮	二〇〇同	眞田太之吉	二〇〇同	笹田 登	一〇〇同	古市重太郎
二〇〇同	大垣 政吉	二〇〇同	大森權四郎	二〇〇同	山野 正	一〇〇同	八馬 徳藏
二〇〇同	佐久間熊治	二〇〇同	相川 耕治	二〇〇同	石井 いち	一〇〇同	西條 村長
二〇〇同	藍野 祐造	二〇〇同	子爵 久松 勝親	二〇〇同	千代崎金藏	一〇〇同	谷崎 雄次
二〇〇同	須田 信夫	二〇〇同	庄司 ヨシ	二〇〇同	並木三一郎	一〇〇同	高橋 謙治
二〇〇同	小原 けい	二〇〇同	笹子 清治	二〇〇同	平野 一郎	一〇〇同	川名 定治
二〇〇同	小島 常吉	二〇〇同	増田 傳治	二〇〇同	齋藤 房吉	一〇〇同	川名仙太郎

二〇〇同	吉野佐二郎	一六〇同	東條 村長	一五〇同	堀江常次郎	二〇〇同	高橋 健藏
二〇〇同	平野 清	一六〇同	島海 武	一五〇同	山本 治一	二〇〇同	高瀬 やす
二〇〇同	西條 村長	一六〇同	原 四郎治	一五〇同	小幡 博	二〇〇同	松江 次郎
二〇〇同	佐生 正郎	一六〇同	中村 綾	一五〇同	小川 利吉	二〇〇同	相川長五郎
二〇〇同	出口 源七	一六〇同	松井芳兵衛	一五〇同	宇佐美敬三郎	二〇〇同	豐田 伊平
二〇〇同	手島よね子	一六〇同	鈴木 武二	一五〇同	計 ふじ	二〇〇同	來栖彌太郎
二〇〇同	永井 くに	一六〇同	宮野久治郎	一五〇同	飯田 彰	二〇〇同	戸田 小一
二〇〇同	高澤吉之助	一六〇同	八幡彌三郎	一五〇同	石井 と利	二〇〇同	茅野 爲吉
二〇〇同	吉田吉之助	一六〇同	大野 鐵吉	一五〇同	中西作太郎	二〇〇同	宍倉 猛
二〇〇同	鳥海 完	一六〇同	林 修	一五〇同	今井 國作	二〇〇同	山倉 浩明
二〇〇同	關 操	一六〇同	鈴木 峰嗣	一五〇同	三木長太郎	二〇〇同	露崎 銀平
二〇〇同	半澤 茂	一六〇同	明石 重平	一五〇同	間宮 しけ	二〇〇同	大森 とよ
二〇〇同	伊東謹之助	一六〇同	梶 多美	一五〇同	山田 吉孝	二〇〇同	鈴木 實
二〇〇同	山本與四郎	一六〇同	石川 きぬ	一五〇同	小幡 祐治	二〇〇同	栗原 勇吉
二〇〇同	時田 新藏	一六〇同	塚本 廣	一五〇同	勝 紋次郎	二〇〇同	佐久間保二
二〇〇同	鳥海 才平	一六〇同	池田 友一	一五〇同	石井勝治郎	二〇〇同	高橋吉五郎
二〇〇同	長谷川鶴松	一六〇同	荒木 照定	一五〇同	諸徳寺兼吉	二〇〇同	林 理一
二〇〇同	梶 龜吉	一六〇同	長谷川新之助	一五〇同	平山由次郎	二〇〇同	穴澤廉之亮
二〇〇同	齋藤萬壽雄	一六〇同	松井小太郎	一五〇同	神崎 清一	二〇〇同	三木 牧藏
二〇〇同	佐藤 政治	一六〇同	大垣 とよ	一五〇同	高橋 三郎	二〇〇同	高橋 恒治
二〇〇同	鶴岡 俊	一六〇同	鈴木彌三郎	一五〇同	高木 仁	二〇〇同	渡邊 澄藏
二〇〇同	關 太一	一六〇同	浦上甚一郎	一五〇同	大石 維任	二〇〇同	鎌田 與作

(國) 吉 押元 市郎
 (一) 宮 上野 秀次郎
 茂 原 米吉 經男
 代 田 中 俊雄
 保 小 倉 勝一
 代 小 島 登代
 勝 山 福原 治一
 岩 井 座間 海治
 那 古 村山 眞一
 代 相 川 耕治
 (富) 浦 小 柴 民治
 北 條 加 藤 五郎
 代 (九) 重 和田 省吾
 館 山 近 藤 泰
 (柏) 崎 川 名 謹一郎
 (富) 崎 神 田 吉郎
 白 濱 水 口 清
 (長) 尾 木 曾 忠良
 千 倉 奧 野 德一
 古 川 曾 我 邊 健次郎
 和 田 庄 司 太郎
 (三) 原 粕 谷 清一

鳴 川 滿 田 安 吉
 代 (東) 條 山 崎 喜 作
 天 津 岡 田 徹 三
 (小) 湊 庄 司 源 次郎
 吉 尾 永 井 保 吉
 代 首 藤 實
 (主) 基 尾 形 喜 一
 中 山 並 木 匡 平
 市 川 清 宮 靜 司
 代 戶 藍 野 一 義
 松 田 萩 原 小 一 郎
 成 田 齊 藤 哲
 (木) 下 秋 藏
 佐 原 小 池 近 三
 代 (滑) 河 中 山 惣 榮
 小 見 川 米 澤 孫 三 郎
 (笹) 川 淺 野 五 郎
 銚 子 平 戶 吉 之 助
 代 高 橋 郁 三
 旭 町 吉 田 忠 藏

代 千 本 松 誠 一
 (飯) 岡 鎌 田 與 作
 八 日 市 場 鈴 木 保 治 郎
 (多) 古 井 上 忠 吾
 成 東 石 川 熙 一
 (松) 尾 宇 津 木 徹
 東 金 浦 上 甚 一 郎
 (片) 貝 北 村 修 平
 (大) 網 藤 田 三 郎
 橫 須 賀 平 塚 留 吉
 大 宮 林 忠 太 郎
 江 戶 崎 宮 田 正 助
 代 山 本 理 平
 湖 來 前 島 正 利
 株 式 會 社 川 崎 貯 蓄 銀 行
 本 店 東 京 市 日 本 橋 區 通 三 丁 目
 電 話 日 本 橋 自 一、一〇一 至
 一、一〇三 自 一、二三一 至
 一、二三五
 重 役 取 伊 東 秀 之 介

副 頭 取 河 合 鐵 二
 常 務 取 締 役 龜 山 甚
 取 締 役 川 崎 大 次 郎
 同 成 田 儀 六
 同 川 崎 知 司
 監 查 役 杉 浦 甲 子 郎
 同 川 崎 芳 男
 相 談 役 川 崎 八 右 衛 門
 同 川 崎 守 之 助
 △ 千 葉 支 店 (千 葉 市 本 町)
 電 話 一 三 五 番
 協 議 役 支 店 長 長 島 與 吉
 次 長 高 柳 彌 喜 男
 代 理 稻 垣 順 造
 書 記 高 橋 惣 四 郎
 同 椎 名 儀 兵 衛
 同 中 村 伍 三 郎
 同 小 林 益 吉
 同 中 村 泰 助
 同 福 田 清 衛
 同 立 田 鐵 也
 同 京 增 鐵 之 助

計 一三九、〇〇〇
 株主 三、四八二名
 △ 職員名簿
 重 役
 取 締 役 頭 取 川 崎 甲 子 男
 專 務 取 締 役 古 莊 四 郎 彦
 取 締 役 高 梨 博 司
 取 締 役 萩 原 甲 太 郎
 取 締 役 吉 田 丹 次 兵 衛
 取 締 役 登 倉 源 吾
 取 締 役 關 澄 龍 尾
 常 任 監 查 役 吉 田 敬 三
 監 查 役 高 橋 熊 三
 相 談 役
 宇 佐 美 敬 三 郎
 地 方 顧 問
 鳥 海 孝 太 郎
 菅 澤 重 雄
 浦 上 甚 一 郎
 杉 本 駿
 今 井 總 明
 富 塚 慶 三

石 橋 保
 高 橋 庄 吉
 鳥 海 才 平
 平 野 清
 多 田 庄 兵 衛
 支 店 協 議 役
 木 更 津 支 店 協 議 役
 山 本 與 四 郎
 湊 支 店 協 議 役
 池 田 友 一
 久 留 里 支 店 協 議 役
 小 熊 久 三 郎
 佐 貫 支 店 協 議 役
 大 網 健 三
 法 律 顧 問
 辯 護 士 古 川 興
 同 佐 藤 博
 同 來 條 常 男
 △ 本 店 (千 葉 市 本 町 二 丁 目)
 電 話 千 葉 二 八〇 番
 二 八 一 番
 二 八 二 番
 秘 書 室

秘 書 書 記 那 須 茂 一
 檢 查 主 任 細 谷 政 之 助
 主 任 井 野 源 次
 同 東 文 哉
 書 記 補 綿 貫 專 太 郎
 △ 業 務 部
 部 長 關 澄 龍 尾
 部 長 代 理 中 村 健 吉
 同 鈴 木 悌 介
 同 小 宮 清
 庶 務 係 長 同 八 代 元 吉
 △ 營 業 部
 (檢 見 川 出 張 所 千 葉 郡 檢 見 川 町)
 部 長 關 澄 龍 尾
 同 代 理 篠 崎 和 直
 同 小 野 清 一
 △ 各 支 店 長 及 代 理 並 出 張 所
 主 任 (次 是 次 長 代 理 代 理 所)
 土 地 名 カ ッ コ 内 は 出 張 所
 五 井 溝 口 長 松
 次 加 納 愛 胤

(姉) 崎 齊 田 清 喜
 (八) 幡 大 堀 喜 雄
 中 久 相 村 正
 代 古 關 善 吉
 鶴 舞 稻 村 正
 木 更 津 笹 田 登
 代 (馬 來 田) 古 濱 秀 一
 久 留 里 松 戶 勝 利
 中 村 秋 元 源 次
 (八 重 原) 竹 內 勳
 (秋 元) 岡 田 敏 雄
 青 堀 平 野 源 之 助
 (富 津) 坂 田 信 夫
 佐 貫 久 佐 澤 信 次 郎
 (大 貫) 田 村 時 之 助
 湊 (竹 岡) 鈴 木 英 司
 勝 浦 足 立 直
 (御 宿) 梶 俊 雄
 大 原 青 木 如 城
 大 多 喜 鈴 木 辰 藏

通知預金	一七六、九六一	役員賞與金	參千圓
定期預金	九、三五四、五九九	配當金(年七分)	金七萬圓
別段預金	三	後期繰越金	金貳萬參千九百
他店借	四三、一〇九	四拾四圓六拾錢	
雜勘定	三六、八二〇	取締役頭取	茂木七左衛門
未拂利息ノ他	二二、六五四	取締役	茂木順三郎
未經過割引料其他	四〇、四四五	取締役	河合 鐵二
預金利息諸稅	五、五九〇	取締役	高梨兵左衛門
株主勘定	四、四四〇、五五九	取締役	茂木佐平治
資本	三、〇〇〇、〇〇〇	取締役	茂木房五郎
法定準備金	一、二七五、〇〇〇	取締役	中野榮三郎
行員退職給與金	三、一六三	取締役兼支配人	
當期利益金	一三三、五九六	石原 繁二	
(內前期繰越金)	(一九、四三三)	監 查 役	杉浦甲子郎
合 計	一、九、〇三六、七四五	監 查 役	茂木啓三郎
一、當期利益金		常任監查役	高梨忠八郎
金拾壹萬參千參百九拾六圓		△千葉支店 電(二〇)(三)	
五拾錢		支店 長	岩田 達夫
之を處分すること左の如し		同代理	金丸 實徳
法定準備金	金壹萬貳千圓	同代理	市原 重雄
行員退職給與基金	金四千四		
百五拾壹圓九拾錢			

川崎第百銀行

損益計算書(八年上半期)	金額	支拂雜利息	五六
利益	三、〇、八〇八	戻 利 息	一、七三〇
貸付金利息	三、〇、四四五	支拂手数料	九七〇
有價證券利息	七、九三三	有價證券買賣損	四五
受入雜利息	一、五三三	滯貸金銷却	三〇、一五七
割 引 料	四九、九四〇	營業用什器銷却	一六〇
株式配當金	七、八九九	土地建物賃借料	二、一九二
受入手數料	二、五〇六	稅 金	四、八四七
有價證券買賣益	三、二九〇	行員恩給及一時給與金	四、三三六
有價證券償還益	二、二五〇	給 料	五、七六〇
土地建物賃借料	二、一五七	旅 費	二、八〇三
銷却債權取立益	三三九	營 繕 費	四〇九
雜 益	二四七	雜 費	三、九三三
未拂利息其他戻入	一、七、〇四四	未經過割引料其他戻入	一四、七七
不動產買賣益	五七	當期利益金	五〇、八八三
行員恩給基金戻入	四、三三六	合 計	六六、三三六
前期繰越金	三〇、九七七	○利益金處分	
合 計	六六、三三六	一金五萬八千八百八十三圓七十錢	
損 失	金 額	之を處分すること左の如し	
預金利息	四三、五七五	金九千圓也	法定準備金
借用金利息	一四六	金五千圓也	行員恩給基金
		金三千圓也	賞 與 金

金一萬五千二百四十圓也	配當金(年六分)	現金預ケ金勘定	三五、三三三	假受掛金	三、〇、三六六	一、社員退職積立金	五百圓
金二萬二千六百四拾三圓七十	後期繰越金	現 金	六、七三三	身元保證金	三〇〇	一、役員賞與金	三百五十圓
錢也	安田善兵衛	銀行預ケ金	一八、三九五	假 受 金	四、五、五六	一、株主配當金	一千八百圓
取締役頭取	今井 忠輔	郵便貯金	一三三	代理店勘定	八四、七七	一、後期繰越金	
常務取締役	大泉 哲	有價證券勘定	三三	株主勘定	二四、〇三三	株 主 名 簿	
取 締 役	糸賀 庄造	國 債	三	資 本 金	六〇、〇〇〇	株 數	株主名
取 締 役	安田貞四郎	貸付金勘定	四、三三七	法定積立金	一八、〇〇〇	一一五	伊 藤 精
監 查 役	信太 武治	不動產擔保貸付	五、七九	別途積立金	三、〇〇〇	一一〇	渡 邊 重 治
監 查 役	和田己之吉	拂込金限庫貸付金	六、六七	社員退職積立金	四、一〇〇	一〇〇	篠崎仁太郎
顧 問	安田善次郎	未收無盡掛金	五、八〇八	未拂株式配當金	七三	九〇	篠崎仁太郎
(職員録は卷末千葉縣職員録		整理口勘定	八、九八三	當期利益金	四、八三八	七〇	山本 一 藏
内にあり)		假 拂 金	一、四二〇	(內前期繰越金)	一、三六四	七〇	佐野源一良
千葉無盡株式		入札差金立替金	四、六三八	合 計	九、一〇六	六〇	鹿 鋼 吉
專務取締役	伊藤 精	所有土地建物	五、九三三	利益金處分	九、一〇六	五八	遠山七郎
常務取締役	山本 一藏	營業用什器	七、三九九	當期純益金	三、千五百六十四圓五十三錢	五七	郡司松之助
取 締 役	渡邊 重治	合 計	七、一〇六	前期繰越金	一、千二百六十四圓四十六錢	五〇	兵 庫 定 清
同 監 查 役	鹿 鋼 吉	負 債	二、九六、九三〇	合計當期利益金	四、千八百二十八圓九十九錢	三〇	平林馬之助
同 監 查 役	榎本善治郎	未拂無盡給付金	一、五、四一	之を處分すること左の如し	一、千圓	三〇	永岡佐五八
同 監 查 役	永岡佐五八	未拂入札差金	三、六六七	一、法定積立金	一、千圓	二〇	榎本善治郎
貸 借 對 照 表		未拂解約返戻金	一、三、二〇二				小川房次郎
(八年上半期)		無盡給付資金					

東京市日本橋區小網町
三丁目十八番地
銚子醬油株式會社東京出張所
電話 一三五七番
茅場町局 一三五七番
振替口座東京四六〇番
取引銀行川崎第百銀行
昭和銀行小網町支店
三菱銀行日本橋支店
大阪市南區鹽町一丁目壹番地
銚子醬油株式會社大阪出張所
電話船場 一五三九番
振替口座大阪七六二番
取引銀行 山口銀行本店
三菱船場支店

◇支店 佐原町電五、五〇
常務取締役 杉本都太郎
取締役 杉本新左衛門
同 杉本重吉
同 竹村熊二郎
同 川勝喜五郎
同 林彦兵衛
同 山田丑之助
同 橋本元一
同 村田俊夫
同 經理部長 村田俊夫
同 仕入部長 橋本元一
同 販賣部長 山田丑之助
同 相談役 林彦兵衛
同 相談役 山田丑之助
同 經理部長 村田俊夫
同 仕入部長 橋本元一
同 販賣部長 山田丑之助
同 相談役 林彦兵衛
同 相談役 山田丑之助

◇沿革 寶曆二年初代杉本新左衛門京都に本店を置き佐原に支店を設け、**奈良屋**呉服店と稱し、**奈良屋**を始む。其後文政年間佐倉に大正三年千葉に支店を設け、創業以來百八十年昭和六年時勢の進運に伴ひ今日の組織に改む

◇資本金四百萬圓(全額拂込)
株式壹株五十圓、株式總數八萬株
法定積立金 九一、〇〇〇
從業員退職給與基金 五、〇〇〇
從業員積立金 三三、七三三
支拂手形 三、〇〇〇、七〇一
掛買 一、七九、四二一
假受金 四三、八三三
借入有價證券 七〇、〇〇〇
未拂金 三三、八八〇
前期繰越金 一八二、九七〇
當期純益金 二四、七五三
合計 一〇、五九、二七三

◇株主名簿
株數 府縣 氏名
日本毛織株式會社取締役 大、〇〇〇兵庫 社長川西清兵衛
川西清司
同 三〇〇 同 毛戶勝元

◇貸借對照表
◇資産之部(單位圓)
工場地所 八四、八八八
工場建物 二、〇〇、五九〇
機械 三、三三、九三〇
專用鐵道及輕便軌條 元四八
用水防火裝置 一〇六、〇五
什器及器具 九七、八五二
假拂勘定 二〇三、三六三
貯藏物品 一、六四、八四八
製品 四〇六、六一
半製品 六〇、三五五
掛賣 九三、八九二
保管有價證券 七二、〇〇〇
銀行預金 四〇、四七
現金 三三、三九
合計 一〇、五九、二七三
△負債之部 四、〇〇〇、〇〇〇

第二篇 人名錄

職 員 錄

國部 薰義 道路書記
 川又 辰三
 今泉 佳三郎
 折坂 理五郎
 島村 信
 鈴木 昇一
 久保 田秀雄 道路技手
 船崎 惣之助
 佐藤 辰男
 市川 延治
 澤本 貞助
 小出 文吾
 岡本 三郎
 技手
 銚子漁港修築事務所技師
 重田 勇助 土木書記
 立田 直次郎
 小坂 保
 外各土木出張所長十數名
 農林技手
 兼農政 伊藤 正平
 兼建築技手
 兼保安 近藤 壽
 濱島 豐
 鈴木 裕次
 小島 廣
 阿部 駿次
 大口 卷司
 下條 壽久 縣書記
 氏家 由己 土木工手
 猪瀬 寧雄
 田中 俊徳
 齋藤 喜太郎
 佐竹 昌志
 大竹 良記
 佐藤 宇之吉
 岩本 敏次
 中島 末吉
 田口 久夫
 渡部 英三郎
 小池 卯吉
 瀨川 命治
 古田 秋雄
 野中 不二三
 後藤 和治
 山中 麟
 平野 定雄
 須田 保
 白井 榮輔
 吉岡 行雄
 鈴木 信一
 廣岡 巖
 芦原 達成
 井上 誠一
 宮芝 藏之介
 高崎 昇
 石井 秀治
 服部 斐
 戸村 鐵之助
 大塚 八郎
 金井 重二
 内山 福次
 石渡 秀夫
 川名 良吉
 野瀬 利雄
 吉原 吉三
 小路 秀雄
 黒田 英亮
 齋藤 利貞
 北湯口 茂
 荒井 武
 杉崎 彌三郎
 碓井 貞雄
 明知 秀夫
 北倉 清
 鈴木 昭之助
 後藤 金之助
 工藤 金
 石井 昇
 竹岡 彦次郎
 矢野 重光
 手塚 政美
 毛利 元秀
 小玉 伊三
 鈴木 太一
 鶴岡 勇三郎
 上土 居武雄
 末松 末男
 松田 佐次郎
 奥田 貞治
 栗山 清次郎
 海保 延身
 橋本 丈夫

職 員 錄

水道事務囑託
 道路事務囑託
 ○千葉土木出張所
 所長 中島 勝照
 道路技手 小澤 忠
 道路書記 松島 忠雄
 土木技手 深山 茂
 土木書記 稻本 徳三
 土木技手 羽田 常次郎
 江澤 準司 土木工手
 海老根 俊
 小原 信治
 細井 忠吉
 石川 金司
 館野 精
 履
 伊藤 榮吉
 深山 榮太郎
 安井 忠次郎
 黒田 松男
 横田 浩
 小玉 孝
 竹下 章一
 高橋 國雄
 武津 介三
 長谷川 伯裂
 芳川 善憲
 栗飯 原和
 橋本 良吉
 丸山 文男
 石川 延次郎
 一山 喜一
 松本 裕
 木村 庄一郎
 林 郁男
 小里 仁太郎
 柳町 要之助
 田中 錦四郎
 三橋 碩次
 履
 泉 水 篁
 小菅 喜貞
 入村 五郎
 並木 啓三
 高木 實
 川田 季吉
 式田 十郎
 櫻木 茂
 久能 芳
 土屋 秀雄
 池田 佐一
 田上 甚四郎
 吉崎 福三郎
 宇野 秀男
 和田 重義
 石橋 武
 平島 精一
 平川 元
 山中 直吉
 岡本 益信
 小原 光藏
 鈴木 作次郎
 齋藤 規四郎
 所長 ○佐原土木出張所
 齋藤 利貞
 須田 保
 白井 榮輔
 吉岡 行雄
 鈴木 信一
 廣岡 巖
 芦原 達成
 井上 誠一
 宮芝 藏之介
 高崎 昇
 石井 秀治
 服部 斐
 戸村 鐵之助
 大塚 八郎
 金井 重二
 内山 福次
 石渡 秀夫
 川名 良吉
 野瀬 利雄
 吉原 吉三
 小路 秀雄
 黒田 英亮
 齋藤 利貞

○松戸支所
 支所長 大森 忠良
 技手 岩川 佛太郎
 検査員 皆川 佛太郎
 高木 兼次郎
 戸塚 春吉
 石戸 佐平
 勝矢 久嗣
 秋谷 藤造

渡邊 市作
 渡邊 新太郎
 大塚 三郎
 渡邊 謙治
 岡田 喜三郎
 淺見 邦之助
 湯淺 武男
 松尾 米造
 齋藤 倉之助
 齋藤 元治
 富川 操
 町山 利郎
 米井 令治
 加藤 周三
 倉元 金藏
 花山 島一
 栗山 英一
 安藤 明八
 山田 音次郎
 大塚 保
 齋藤 三郎
 石井 新一
 渡邊 興一
 手塚 静雄

○佐倉支所
 支所長 植村 幹
 検査員 南 静
 松本 恭而
 加藤 忠一
 田邊 龍
 勝山 卯之吉
 渡邊 三郎
 塚本 長吉
 井上 博
 小澤 勇造
 綿貫 清之

木村 文雄
 伊藤 茂
 鶴岡 龜之助
 鈴木 平助
 小川 清
 香取 一藏
 池田 貞之
 石原 吉藏
 齋藤 貞次郎
 大見 川武雄
 吉場 周作
 大野 忠治
 系川 吉郎
 富田 信雄
 川口 浩
 本橋 源次
 根本 隆三郎
 京須 義衛
 飯生 滿
 小川 英作
 日暮 秀吉
 中村 彦太郎
 山田 孝則
 小林 保

支所長 技手 平川 久太
 技手 箕輪 豊
 主事補 高橋 惣一
 蠶業取締吏員 原 十郎
 蠶種検査吏員 石橋 續江
 鈴木 むめ
 ○八日市場支所
 支所長 藤川 農夫
 技手 須合 匡
 大橋 重雄
 段木 晴三郎
 鈴木 光雄
 石井 みつ
 江波 戸くに
 向後 よね
 山口 かつ
 菅谷 いせ
 鈴木 千代
 阿部 惣次郎
 古澤 一男
 吉野 理作
 石原 政祐
 錦織 伴榮

蠶種検査吏員 郡司 好夫
 白井 はる
 石川 すむ
 細川 賀とり
 ○東金支所
 支所長 三浦 謙次
 技手 越川 進
 荻野 光治
 池澤 彌六
 北條 信次
 石川 房子
 海老根 亮子
 松井 ます
 佐瀬 之子
 齊藤 正吉
 小室 三包
 粕谷 勝三
 伊藤 善樹
 内海 きよ
 ○農産物検査所
 支所長 上島 興三
 技師 建石 藤吉
 山本 博通

主事補 高仲 三郎
 鴨澤 作司
 溝口 純夫
 林 八百利
 齋藤 安之助
 内田 重喜
 加瀬 次郎
 長谷川 深
 高梨 政右衛門
 笹本 重雄
 遠山 誠治
 大網 庄司
 高橋 清治
 芝倉 七郎
 加藤 常次郎
 小出 幸三
 湯淺 重太郎
 宮崎 俊一
 小池 喜平
 山田 清太郎
 林 正儀
 大野 木静司
 石井 輝

○八幡支所
 支所長 菊間 九郎右衛門
 検査員 河瀬 清周
 大野 喜惣次
 地引 彌平治
 藤原 寅之助
 板倉 周次
 森 重雄
 古瀬 與之助
 小出 米次郎
 大岩 熊雄
 大野 喜代士
 石渡 銀一郎
 鶴岡 善榮
 鎌田 彰
 横山 勝雄
 堀 正男
 皆吉 良輔
 田野 睦
 穴倉 義
 石井 金之輔
 米井 森市
 深山 勝太郎
 小石子 之吉

職員錄

○茂原支所
支所長
検査員

原四郎 佐
林虎吉
伊原一也
佐瀬新一丈
太田藤一郎
城竹一郎
上山大三郎
田中勝次郎
鈴木力藏
丸佐一
中村義政
市原禎慶
渡邊昇三
太田勝重
高仲璋磨
君仲喬三
深山源三郎
川崎英壽
片岡賢司
小高市作
熊切利信
御園義雄
島田直人

○東金支所
支所長
検査員

萩野伸
篠崎慶作
鶴澤幸一郎
白井克己
鶴澤政次
大塚定夫
森川哲夫
糸川勤
市原種臣
伊藤久義
峰島浩
宮澤中也
高仲良
東健支
金坂支
佐藤正夫
畑矢榮
田邊佐寬
田中善夫
石和田實
河野寅松
積田雄三
飯島伊之吉

○佐原支所
支所長
技手
検査員

渡邊巨
小安勝雄
並木秀雄
矢野良司
秋山豐司
石田武
吉井吉次
片岡源吾
川島良平
小早川元一
高宮登
山室信雄
子安榮
渡邊渡
篠原芳太郎
加藤隆司
平川作二
長澤邦較
小久保新次郎
高橋靜男
成毛銀藏
大根光太郎
高木賢藏

職員錄

大堀淳藏
伊藤靜
川口孝太郎
鈴木清一郎
高木操
鈴木安太郎
佐久間豊七
篠塚保治
平山伊重
川村一郎
押田善作
竹能卯之助
日下部熊太郎
河瀬慎太郎
鈴木美雄
内田隆治
並木惣治
大谷健之助
高橋貞
山本泰司
山本廣
石井勝之助
越川和助
渡邊誠之助

支所長
技手
検査員

岸周治
野部市藏
清水祐三
飯島中藏
遠藤謹司
加瀬市太郎
遠藤玉吉

○鏡子支所

一谷藤衛
菅澤篁
石井石五郎
秩山良夫
後藤守
椿三郎
瓜生豊三郎
大原功
石上哲太郎
那須一二
滑川一郎
松澤英作
藤崎吉亮
須貝誠一

○八日市場支所
支所長
検査員

遠藤太右衛門
林清藏
大橋利一
安井信平
伊東政吉
高莖幸之助
大橋新藏
加瀬伸一
加瀬與一
田中準一郎
綿貫暢
椎名士朗
鈴木義知
及川真太郎
武田豐司
布施清司
土屋清一
川口直治
小林謙吉
大木友藏
佐久間善助
鈴木真太一
竹之内佐太郎

○木更津支所
支所長
検査員

平山茂
齋藤二郎
福田光雄
加藤明司
江澤喜三郎
小出周太郎
宇野一作
石井常三郎
村田隆
白井兼吉
武田茂三
内木準
鈴木宗治
山田伊之助
齋藤末藏
鈴木郁次郎
鹿野源治
出口義八
龜田多嘉治
岸常治郎
黒川周三
磯部真輔
加藤信次郎

囑託 岡澤衛守 書記
 田部年晃
 本間源兵衛
 ○狹少浦病院
 千葉市 藤田茂尙
 古谷義治
 早川二郎
 原武
 池田英雄
 山口英
 山久保秀之輔
 久保秀之輔
 宮内孫治郎
 佐藤邦雄
 顧問 佐藤邦雄
 市役所 ○千葉市役所
 市長 加納金助
 助役 宮内三朗
 收入役 吉田吉太郎
 主事 元吉新三
 市川儀平
 伊原晋一
 矢澤泰助
 犬飼顯二

大堀由太郎 書記補
 野城久作
 長谷川定吉
 齋藤政次郎
 戸山謙吉
 戸田謙吉
 稲田實三
 伊藤庸之助
 神崎榮司
 露崎勉
 薩摩猪一郎
 海老島定吉
 栗生浦次
 田中馨
 星野福信
 鈴木正策
 柳澤國三郎
 宮崎卯兵衛
 河野直三
 石渡博
 成松英夫
 春山軍治
 高橋洋
 坂巻和美

山本傳吉
 中村宗啓
 神崎芳隆
 日暮伊八
 橋本正人
 高橋二郎
 矢澤義三
 深山庄作
 野村勝
 牧野蕭
 菊間治三郎
 小野幾治
 若王子昇
 高澤作治郎
 戸村倉吉
 水野彌一
 度量衡取締吏員菊地國太郎
 隔離病舎事務員鈴木市郎
 居場事務員松戸三郎治
 ○千葉市職業紹介所
 市長 市川儀平
 事務員 山田萬吉
 ○銚子市役所
 大倉徳一

銚子市長 川村芳次
 助役 渡邊章六
 收入設計會計 齋藤國衛
 主事 山口幸太郎
 藤平正稀
 川名貞治郎
 小川榮三郎
 池端庸治
 野口彌六
 堀井丑松
 相模得司
 田邊兵之助
 東福次
 芳本和一
 向後富藏
 渡邊房治
 根本清一
 名譽理輝
 根本彦四郎
 浪川光至
 吉田幸治
 鶴澤市太郎
 監物元明

榎本英吉
 宮野茂左衛門
 桐谷石見
 與喜清藏
 相川豊
 井上千喜
 川名精一
 前田怡郎
 高梨薫
 小川眞太郎
 平野一
 森武
 石井三良
 石井善視
 清水善一
 小泉莊良
 金子秀邦
 金子正二
 小澤繁次
 鈴木英
 ○大多喜支所
 支所長 市川芳平
 検査員 石井義信
 吉野英夫

長谷庄助
 齋藤弘
 峰島和夫
 關一夫
 峰島謹夫
 片岡慶一
 平賀源六
 西川榮作
 村野市五郎
 波多野松
 丸茂男
 正木嘉信
 峰島直
 原越正二
 小林登
 重田房吉
 岩瀬庄三
 磯野武雄
 鶴岡良藏
 峰島廣信
 横山源一
 井守亨字
 江澤忠香
 齋藤尙一

關谷稻雄
 若菜敬介
 小高忠一
 土屋正司
 宮崎重郎兵衛
 小瀧作次郎
 波々壁正良
 高梨新五
 眞田勝治
 長田國太郎
 安西敬一
 宇山文治郎
 川名初五郎
 中村光
 小原登一
 平岡諄
 久保田國一
 川名保藏
 和田徳次郎
 角田久太郎
 栗原作藏
 飯田吾一
 小原信

銚子市長 安西辰
 栗原善一郎
 吉本徳太郎
 山口森次
 庄司仙三
 石井岩吉
 久保田隆藏
 尾形延一
 川名健治
 黒川正
 ○銚子漁港修築事務所
 銚子市長 平井新六
 所長 重田勇助
 技師 美野君造
 工手 水崎政吉
 書記 佐藤千代雄
 貞永章二
 田部寛義
 阿部喜市
 平井彰
 山内隸四郎
 寺地謙吾
 布施謙吾

會 員 藤田 俱治郎
 玉田 昇次郎
 長 島 義三
 田 中 恭三
 小 柴 金 一 郎
 ○町吏員懲戒審査會
 會 長 岡田 文秀
 會 員 藤田 俱治郎
 玉田 昇次郎
 諏訪 寛治
 新 藤 退 藏
 小 柴 金 一 郎
 ○收用審査會
 會 長 岡田 文秀
 會 員 藤田 俱治郎
 西 義 一
 飯 田 惣 兵 衛
 浮 谷 竹 次 郎
 梨 本 太 兵 衛
 市 川 延 治
 澤 本 貞 助
 ○小學教員檢定委員會
 會 長 松澤 龍雄
 渡 邊 次 郎
 書 記 市 川 延 治
 澤 本 貞 助
 ○神職尋常試驗委員會
 委員 長 松澤 龍雄
 委員 大森 小 一 郎
 小林 庄 太 郎
 ○育英資金貸費生證審査委員會
 會 長 岡田 文秀
 會 員 松澤 龍雄
 渡 邊 次 郎
 根 岸 福 彌
 小 畑 善 吉
 津 田 清 三
 豐 澤 藤 一 郎
 小 林 庄 太 郎
 鶴 岡 惣 三 郎
 ○地方森林會
 議 長 岡田 文秀
 議 員 藤田 俱治郎
 西 義 一
 鹽 田 狩 野 吉
 八 代 常 夫
 阿 部 清 紀
 北 條 雋 八
 成 嶋 勇
 渡 邊 政 治
 藤 平 量 三 郎
 池 澤 正 一
 ○產婆試驗委員會
 委員 長 玉田 昇次郎
 委員 藤田 茂 尙
 古 谷 義 治
 早 川 二 郎
 古 山 強 三
 新 井 信
 齋 藤 首
 山 脇 利 市
 玉 田 昇 次 郎
 ○看護婦試驗委員會
 委員 長 玉田 昇次郎

書記補 野中 重五郎
 岩 瀨 嘉 助
 高 山 功
 紀ノ國 吉治
 保坂 傳治郎
 石橋 安之助
 ○職業紹介所
 所 長 鈴木 衛
 ○都市計畫千葉地方委員會
 會 長 岡田 文秀
 會 員 眞田 秀吉
 前 田 直 造
 新 井 堯 爾
 荻 洲 立 兵
 藤 田 俱 治 郎
 玉 田 昇 次 郎
 川 口 爲 之 助
 島 田 彌 久
 青 木 泰 助
 鈴 木 亮
 內 山 德 太 郎
 澤 部 恒 三
 中 尾 千 剛
 田 村 鼎
 幹 事 高橋 信美
 郡 仁 司
 西 義 一
 國 部 薰 義
 鹽 見 幸 禧
 小 野 寺 敏 治
 海 保 延 身
 嶋 村 信
 ○普通試驗委員
 委員 長 藤田 俱治郎
 委員 玉田 昇次郎
 松 澤 龍 雄
 廣 橋 眞 光
 西 義 一
 小 谷 顯 藏
 ○文官普通懲戒委員會
 委員 長 岡田 文秀
 委員 藤田 俱次郎
 玉 田 昇 次 郎
 松 澤 龍 雄
 戶 田 信 義
 廣 橋 眞 光
 小 谷 顯 藏
 ○文官普通分限委員會
 書 記 小 谷 顯 藏
 ○巡查懲戒委員會
 書 記 小 谷 顯 藏
 委員 長 岡田 文秀
 委員 藤田 俱治郎
 藤 田 俱 治 郎
 玉 田 昇 次 郎
 高 橋 眞 光
 廣 橋 眞 光
 館 林 三 喜 男
 佐 久 間 尙
 松 澤 龍 雄
 郡 仁 司
 小 貫 弘
 宮 內 卯 平
 山 口 忠 藏
 田 中 義 樹
 藤田 俱治郎
 玉田 昇次郎
 高橋 信美
 清水 正一
 杉 村 正
 松 澤 龍 雄
 楠 木 芳
 矢 野 正 雄
 小 谷 顯 藏
 ○縣參事會
 議 長 岡田 文秀
 會 員 新 藤 退 藏
 成 島 勇
 浮 谷 竹 次 郎
 梨 本 太 兵 衛
 長 島 義 三
 飯 田 惣 兵 衛
 諏 訪 寛 治
 渡 邊 政 治
 田 中 恭 三
 小 柴 金 一 郎
 岡 田 文 秀
 ○市吏員懲戒審査會
 會 長 岡田 文秀
 ○審査委員會
 藤田 俱治郎
 玉田 昇次郎
 松澤 龍雄
 諸 橋 襄
 渡 邊 次 郎
 永 野 俊 雄
 廣 橋 眞 光
 小 貫 弘
 館 林 三 喜 男

◎縣警察部

部長 玉田昇次郎
 △警務課 警察技手 宮本四郎
 課長地方警視 館林三喜男 大野知良
 衛生技師 早川二郎 (兼) 小菅ころ
 屬兼警部 山口忠藏 (兼) 齋藤きよ
 技手 森田義治 △巡查教習所 田村忠一 警部補
 警部補 鈴木三之助 所長(警部) 鈴木苗次郎 建築技手
 田中義樹 (兼) 警部補 脇田元 巡查部長
 石塚珍雄 巡查部長 野本俊二郎 巡查部長
 三橋珍雄 警察技手 中村中 巡查
 石井音吉 山本昇 巡查
 馬淵義衛 囑託 大澤亮一 巡查
 阿曾雅司 △保安課 三上喜三郎
 華表時雄 課長(警部) 佐久間 尚 警察技手(兼) 小菅信
 穴倉峰太郎 屬(工場監督官補) 根本龜三郎 若林美弟 (兼)
 根本貢 大塚光司 △刑事課 課長(警部) 三好留祐 巡查
 田中督太郎 地曳由松 課長(警部) 三好留祐 巡查

△特別高等課 課長(地方警視) 小貫弘 地方農林技手(兼) 古山強三 巡查部長 越川宇平
 屬兼警部 中村勝治 千葉源太郎 衛生書記 鎌形元治 大瀧春司 齋藤きよ
 警部 大野梅三郎 警部 齋藤首 榮養技手 森川規矩 福田岩治郎 小野久吾 △千葉警察署 青木忠藏
 警部補 小倉三郎 技手 久保秀之輔 雇 福田岩治郎 小野久吾 △千葉警察署 青木忠藏
 巡查部長 渡邊巖 齋藤資作 雇 本吉武夫 署長地方警視 鈴木要
 外山重 永島貞治 雇 横堀範造 警部 三橋賢
 木川藤助 警部補 山協利市 齋木武司 △健康保險課 西郡助治 警部補 小高源治
 武田金司 齋木武司 課長(屬) 山本德治 衛生技手 大沼良輔
 高乘釋得 衛生主事補 飯高健夫 課長(屬) 藤田茂尚 衛生技手 大塚藤五郎
 澁谷功 防疫監吏 中台新太郎 地方技師(兼) 藤田茂尚 衛生技手 小川忠雄
 柿平島斜雄 澤渡巴 屬 露崎彌 宮崎重夫 巡查部長 關根式朗
 篠原正美 石井梯造 大郷福太郎 齋藤十寸美 高橋安太郎 小川留吉
 宮澤信雄 大田垣豐穂 武 齋藤十寸美 高橋安太郎 小川留吉
 △衛生課 衛生技手 大郷福太郎 齋藤十寸美 高橋安太郎 小川留吉
 藤田茂尚 (兼) 山口英武 視察員 立崎榮吉 小川留吉
 新井信 (兼) 關根式朗 雇 柳澤安治 小川留吉
 古谷義治 防疫醫 筒井英子 雇 戶村治世 安藤常一
 早川二郎 防疫獸醫 戶村英子 雇 內田康幸 石毛義藏

(刑事)

伊藤政直 關直次郎 吉岡吉市郎 町野治助 杉本甚三 小倉一郎 宇井清平 富川孝平 伊藤裕實 鈴木實男 島田三男 尾形三良 宮崎春海 佐藤泉重 篠塚興重 增田勇司 鈴木兼吉 角田孔明 東城七之助 田中茂雄 青柳定省 明石清

(刑事)

松戸和章 那須孝嘉 井上貞嘉 小笹伊之助 小澤壇 宇津木三魯 山口清 長谷川光之助 平井重信 藤木四郎 鈴木熊治郎 高山德 片岡治一郎 土屋和一 板倉村雄 根岸國明 秋葉倉之助 笹親義 渡部菊造 中島治二

山田惠樹 藤田良次 福原覺 元山茂 越川正雄 木村眞之助 小川平 河野治雄 齋藤良助 金谷祥 鶴岡俊夫 鈴木隆 岩瀬四郎 進藤內男 吉田彰 青木敏英 田野信一 志賀武場 鈴木德次 佐藤誠一 大塚宗太郎 大山平吉

江澤利博 會我邊 齋藤小重郎 霞英二 佐藤貞次 渡邊康哉 林佳次郎 宮島博 八木留吉 平野金治郎 佐川富定 井橋一三 加藤勘作 圓崎平五郎 明妻鹿之助 菊谷忠作 玉野富次郎 渡邊良治 鹿間富三 鳴原春治 鈴木要藏

巡查

△松戸警察署 署長 齋藤小重郎 衛生技手 霞英二 警部補 佐藤貞次 (我孫子) 巡查部長 林佳次郎

(浦安)

長谷川光之助 平井重信 藤木四郎 鈴木熊治郎 高山德 片岡治一郎 土屋和一 板倉村雄 根岸國明 秋葉倉之助 笹親義 渡部菊造 中島治二

(高等)

板倉村雄 根岸國明 秋葉倉之助 笹親義 渡部菊造 中島治二

(高等)

板倉村雄 根岸國明 秋葉倉之助 笹親義 渡部菊造 中島治二

巡 査

大木寅吉 片桐國平 麻生正幸 伊藤英耕 高堀耕郎 實川文次郎 北田光 三橋誠員 鶴谷武 馬橋孝 吉岡駒太郎 小川橋太郎 高柳政五郎 篠崎仲三郎 市原貞藏 廣川庄次 志賀英雄 鳥飼政次 芝崎龜次 田鍋靜 淺倉省二 杉田暉暖

川島作治 遠藤清治 石井逸郎 三浦正吉 高森誠一 神馬清一 島田榮壽 山崎次郎 小泉良太郎 小川藤衛 大木勝 川島優 大野重兵衛 田中平 牧野秀雄 石橋仁四郎 大塚忠治 田村幹雄 廣瀨眞治 小瀨重吉 岩瀨重智

富澤昇 風戶哲三 生稻政信 田仲三郎 河野作藏 江波戶馨 高橋浩 宇井剛 兼子辰男 內藤幸雄 千代三郎 牧田平三郎 清宮親之 伊大地順一 加藤順一 森庄一 金子恒次 戶田嘉橘 刈込熊五郎 鈴木明 關川大治 石橋德樹

△船橋警察署 署長 長田多一 警部補 田中克宣 景山岩 糸久了 加藤兼雄 宮島矩忠 森理一郎 井岡興任 栗山芳藏 濱野惣七 角田高次郎 諸岡正雄 川村秀一 秋山光次 高橋敬一郎 吉野要章 伊藤要吉 谷田川良弼 市原秀吉 宗島嘉男 平野寅次郎

(刑事)

巡查

(津田沼) 衛生技手 巡查部長 加藤兼雄

△成田警察署
 署長 椎名兼吉
 警部補 大木貞次郎
 警部 箕輪義政
 巡查部長 高梨良三
 巡查部長 星野吉郎
 小川浩
 菅澤勇藏
 鈴木利三郎
 坂尾勇
 關端正
 長澤利平治
 長谷川幸德
 鶴岡昌基
 泉田梅作
 佐藤縫一

△木下警察署
 署長 栗林藤太
 警部補 關野昇
 警部 狩野治郎
 巡查部長 秋田義久
 巡查部長 大貫博
 丸山菊司
 錦織惣一
 池田源治
 伊藤未松
 江野澤三作
 加瀬國士
 船申仙松
 福野庄治郎
 河野泰祐
 栗原勇治

△佐原警察署
 署長 佐久間菊司
 警部補 大竹三千之助
 警部 川島哲治
 衛生技師 池田稔
 衛生技手 井橋喜逸
 巡查部長 安田孝
 京增詮夫

△成田警察署
 巡查 (高等) 佐藤縫一

△木下警察署
 巡查 (高等) 土屋彌一

△佐原警察署
 巡查 岩澤

△成田警察署
 巡查 山本

△木下警察署
 巡查 須郷榮

△佐原警察署
 巡查 山本

佐久間朝明
 石原石松
 北田甚一
 增子良三郎
 中村茂雄
 土屋富藏
 大貫正朔
 藤崎富治
 三枝富治
 鬼澤幾三
 佐久間源一郎
 小枝駒五郎
 高橋三五郎
 鎌瀧章次
 椎名晋吉
 鈴木清一郎
 宮内辰藏
 川島勝雄
 酒井貞治
 飯田保
 鳥海武男
 武内正吉

△成田警察署
 署長 荒井兼吉
 警部補 花輪常次郎
 警部 鈴木仙之助
 巡查部長 北田治雄
 巡查部長 小倉虎吉
 巡查部長 淺川豐作
 巡查部長 中田泰吉
 巡查部長 岡澤仙藏
 巡查部長 勝又政次郎
 巡查部長 磯部近
 巡查部長 佐藤三郎
 巡查部長 岡田長次郎
 巡查部長 押田後
 巡查部長 伊藤寅二
 巡查部長 川名貞雄
 巡查部長 鶴岡馨
 巡查部長 齊藤寅司
 巡查部長 柴崎正巳

△佐倉警察署
 署長 施光次
 警部補 木村三千雄
 警部 內山武夫
 巡查部長 熊谷直吉
 巡查部長 小川三郎
 巡查部長 竹田好

△佐原警察署
 署長 藤代重行
 警部補 石井正己
 警部 茂木美治
 警部 木村茂次
 警部 石井利貞
 警部 宮下泰次
 警部 二宮泰次
 警部 矢野忠林
 警部 渡邊主計
 警部 兼子辰男
 警部 武田謙明
 警部 武內熊吉

△成田警察署
 巡查 瓜生義男
 巡查 香取義男

△佐倉警察署
 巡查 矢代重行
 巡查 石井正己
 巡查 藤代重行
 巡查 茂木美治
 巡查 木村茂次
 巡查 石井利貞
 巡查 宮下泰次
 巡查 二宮泰次
 巡查 矢野忠林
 巡查 渡邊主計
 巡查 兼子辰男
 巡查 武田謙明
 巡查 武內熊吉

△佐原警察署
 巡查 山崎千秋
 巡查 宮内雄一
 巡查 伊藤晋一
 巡查 吉川英德
 巡查 大根彦治郎
 巡查 赤羽根兵助
 巡查 增田光治
 巡查 大湊秀松
 巡查 大和久政治
 巡查 山本俊治
 巡查 網野虎之丞
 巡查 篠田金助
 巡查 八木仁三郎
 巡查 市東辰雄
 巡查 鈴木德重
 巡查 鈴木又次郎
 巡查 柴崎三郎
 巡查 福原正治
 巡查 秋葉賢
 巡查 白井賢
 巡查 須郷榮
 巡查 山本昇

△旭町警察署
 署長警部補 白鳥正夫
 巡查部長 椎名作治
 (飯岡) 巡查 山形德昇
 齊藤德治
 高山晉吉
 佐久間安治
 角川長三郎
 長澤要之
 河合秀吉
 馬場信行
 梅田潔弘
 伊藤弘成
 宇山祐成
 豐田成豐
 佐瀬定治郎
 堀口勇郎
 加瀬徳次郎
 江波戸芳男

△八日市場警察署
 署長警部 中村己代次
 警部補 高橋仁
 巡查部長 八木善次郎
 根本佳介
 土子常雄
 川島善一郎
 鈴木良兼
 石塚完爾
 川村治平
 戸村堯一
 子安芳松
 大塚徳次郎
 伊藤徳脩
 小島武作
 飯沼武操
 田仲博
 最首菊男
 日暮已義

△東金警察署
 署長警部 吉田秀憲
 警部補 高橋福三
 (片貝) 巡查部長 水沼鋭一
 南部一岡
 岩崎千代藏
 吉野信
 金子富雄
 今村忠雄
 大木忠操
 山崎金藏
 行方金藏
 内田雄次
 星野雄次

△成東警察署
 署長警部 向後國松
 警部補 大和久吉彌
 米良文夫
 藤田四郎
 市川和吉
 石井孝吉
 熱田寅松
 米原季義
 中山榮光
 深山榮一
 竹馬篤一
 大木覺
 浦島浩
 小川確
 石毛喜好
 諸岡傳四郎
 永田勇郎
 中村定五郎
 金澤陸郎
 關本庄治夫
 牧野忠夫

△小見川警察署
 署長警部 宇崎四郎
 警部補 本間隆一
 巡查部長 高田半藏
 宇井伴司
 中澤忠彰
 淺野一郎
 小川一衛
 孤岡幸太郎
 長野喜一
 吉橋榮八
 高平東輔
 岩立二三男
 齋藤知十
 安川章臣
 田中八十二
 繁倉伊
 石井新太郎

△多古警察署
 署長警部補 今井三之亮
 巡查部長 神作治平
 佐久間嘉松
 寺岡又吉
 宇井武夫
 宮野泰助
 今關清
 篠塚武藏
 川口新藏
 柴山康治

△銚子警察署
 署長警部 齊藤喜一
 衛生技師 加藤亮作
 警部補 内山武夫
 渡邊誠一
 鳥居源治
 中村徳夫
 佐久間俊
 坂口榮吉
 泉水源次郎
 堀越兵吾
 岡澤勘録
 安藤留吉
 竹之内和
 土屋喜義
 和田豐

西谷清
 土屋晋一郎
 伊藤文作
 山本六郎
 中川市平
 中川兼松
 關口兼靜
 古谷長四郎
 佐久間誠一
 砂澤七郎
 佐久間武雄
 佐久間武雄
 中村郡司
 岩瀬覺文
 鈴木隆藏
 石川重徳
 原田正二
 宮田俊雄
 山田周作
 神崎喜代治
 中村新一
 弘中誠

(勝山) 長谷部 要
 防疫醫 勝畑銀藏
 衛生技手 三浦政
 佐瀨馨
 青山忠
 石井利
 宮崎精一
 渡邊紋治
 八木元良
 西田元二
 渡貫清
 牧野良雄
 津野明治
 日下部安藏
 森圭介
 江波戸慎爾
 大橋威
 小原晋
 栗原恒治
 秋田六三
 齊藤辰藏
 伊藤群一

栗山秀治
 竹田重雄
 鈴木三郎
 小宮銀治郎
 金子守衛
 吉野統司
 小林義輝
 高梨久義
 小池平
 荒川三四郎
 鈴木功
 古關作治
 長谷川直吉
 菅孝一
 岩井茂
 栗原儀
 南義明
 岡田政司
 長谷川文也
 石橋正己
 羽根井和夫
 鶴岡劍作

武田佐内
 伊藤輝雄
 清水熙
 坂本政壽
 岡田章
 岡田勇
 増田世
 小川則茂
 小澤信一
 大塚保次
 五木芳三
 小西信敏
 吉田千滿治
 平野節
 小倉直治郎
 大場有紀
 中山喜治
 木内良助
 小關彌須治
 神高一一
 布施孝一

島野元治
 茂木周
 島津正男
 大藤竹次郎
 石井隆士
 大野良彦
 金子楠若
 椎名一暉
 加藤健一
 戶村光
 島崎彦三郎
 市川春吉
 及川金藏
 橋本金藏
 本吉節藏
 田中茂節
 大木滯夫
 栗原義一
 加藤義一
 花見勝美
 岩瀬三郎
 古山源三
 松本三郎
 齊藤宗堯
 鈴木信

角田直治
 岡澤茂雄
 石毛四郎
 岩澤轍
 高梨正勝
 御園隆
 秋葉昇
 浪川信治
 △木更津警察署
 署長警部 菅澤靜
 警部補 飯田三郎
 衛生技手 石井正
 巡查部長 松本幸太郎
 竹尾茂
 星野繁太郎
 芝崎又平
 伊藤寅雄
 森大三郎
 渡鍋健藏
 渡邊榮
 戶村磯吉
 宮田芳藏

鳥村酉藏
 北見梅吉
 藤代直三郎
 積田太文
 佐藤新兵衛
 齋藤三郎
 井原七郎
 高野好雄
 宇田川力以
 増田平治
 關尾源三
 御園生利
 鳥海正己
 三枝徳藏
 梅澤平助
 渡邊辰五郎
 鳥田喜一
 石毛次郎
 山口角次郎
 勝山喜久治
 小笹精一
 高橋重治

石橋國太郎
 石毛謙
 鶴澤治雄
 佐藤忠治
 池ノ内茂一
 鈴木芳藏
 鈴木縫次郎
 佐久間桂
 江澤己喜
 駒澤太郎吉
 小川伊之助
 長谷川泉
 鳥海島吉
 増田重太郎
 深山孝
 太田省三郎
 太田省三郎
 鶴澤茂幸
 平井清吾
 樋田勇
 小久保豊
 石崎忠男

影山源司
 飯田利兵衛
 江尻竹二
 △久留里警察署
 署長警部補 齋藤東吉
 巡查部長 山本良男
 柳川宮司
 荻本春治
 菅田熊吉
 重田熊吉
 山口國太郎
 根本時雄
 伊藤三郎
 勝政雄
 内海重隆
 鶴岡源藏
 宮崎三千雄
 石橋秀雄
 藤崎源之助
 △北條警察署
 署長警部 出口安二
 警部補 笠原浩

職員録

學校付中佐 須磨學之 少佐 南 部 黨

西原八三郎 今利龍雄 品川彌治 唐澤治 尾田稔

大川銜介 高崎祐政 唐澤治 尾田稔 來栖靜馬

少佐 多田與一 山田久松 尾田稔 來栖靜馬 森立身

大尉 額田源吉 藤塚止戈夫 來栖靜馬 森立身 長 中將 鎌田彌彦

大尉 武田與會吉 小池愛雄 森立身 長 中將 鎌田彌彦

中尉 撰哲夫 小金澤福次郎 森立身 長 中將 鎌田彌彦

加藤哲正 青木美苗 副 中尉 根上清太郎 少將 高波祐治

藤村忠明 森木明義 中隊長大尉 青木美苗 副 少佐 山下彦平

原山一 村上義雄 電氣中隊長 村上義雄 副 大尉 小川政二

藤山覺 那須倫彦 電氣中隊長 村上義雄 副 大尉 小川政二

奧田勇吉 中野義 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

○教育 部長 牛島實常 中尉 石井國男 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

少將 安達十九郎 中尉 石井國男 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

大佐 乘原四郎 中尉 石井國男 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

中佐 根上清太郎 中尉 石井國男 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

今中武義 柴崎保三 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

加藤怡三 佐藤展夫 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

風早清 河野武彦 大尉 高崎祐政 長 大佐 星松尾

○騎兵第十四聯隊 (津田沼町)

少尉 飯村勝三郎

大尉 渡邊謙太郎

○騎兵第十三聯隊 (津田沼町)

大尉 古賀德平

大尉 八谷剛一

○教導大隊

長 中佐 根上清太郎

副 中尉 石村卓

中隊長大尉 青木美苗

副 少佐 山下彦平

大尉 小川政二

○近衛師團

長 中將 鎌田彌彦

○騎兵第一旅團 (千葉郡津田沼町)

少將 高波祐治

少佐 山下彦平

大尉 小川政二

職員録

部員砲大佐 根本主計 大尉 宮本清一 大隊副官 金岡嶺

安藤尚志 大尉 大野重美 砲中尉 守永晃

木本益雄 長林勝由 砲中尉 高城武夫

渡邊謙 五十嵐勝吉 中隊長砲少佐 鈴木正

石井昌一 杉本和二郎 砲大尉 杉本和二郎

木谷資俊 中島武 重島永武

眞野五郎 齋藤壽惠 重島永武

伴健雄 築山博一 加藤守敏

椎名正雄 重永潔 加藤守敏

小池國英 中濱吾祐 古川浩

淺岡精一 加藤守敏 古川浩

和孝助 山本敏 堀毛一磨

船山貞治 松林秀逸 齋藤壽惠

金岡嶺 今村方策 中尉 齋藤壽惠

天晶惠 古川浩 大尉 齋藤壽惠

宮尾千雄 長砲大佐 渡邊謙

國武三千雄 副官 大尉 村田友吉

井原茂次郎 長砲大佐 渡邊謙

堀生一磨 大隊長中佐 伴健雄

鈴木正 少佐 和田孝助

松田巖 高射砲隊長

中野良次

△陸軍工兵學校 (東葛飾郡松戸町)

少將 上村友兄

少佐 八隅錦三郎

湯淺芳治 堀田正英 中井正

武富次男 長島吉雄 五弓益雄

草深健次 力石靜夫 林隆二

肥佐多勝 森田清吉 廣石權三

近藤秀夫 河村秀人 延原威郎

壽圓正隆 國田豐二

長 大佐 河野健息 同少佐 須田忠
副 大尉 臼井行男 同大尉 半田伊之助
聯隊附中佐 齋藤義次 阿久井薩雄
少佐 是子浩 八田三一男
大尉 名波敏郎 高野勇雄
少尉 會澤泰 蒲田榮一
眞下正三郎
○野戰重砲兵第四聯隊
(印旛郡千代田村)
長 砲大佐 兒玉清
副 少佐 中鉢正綱
聯隊付中佐 竹田直吉 長 工大佐 池田茂藏
少佐 池田金也 副官同少佐 池合振一
大尉 山崎清吾 聯隊附中佐 岸新
上田良右衛門 鴻澤丈彦
平井茂男 下田宣力
中尉 柴田謙吉 少佐 小林幸七
少佐 中山光久 一主 橫山安二
一醫 高橋清
○鐵道第一聯隊
(千葉郡都賀村)
長 工大佐 成澤清
副官 竹村不動 鈴木直壽
聯隊附工中佐 森肇 橫濱慶二
佐藤質 猿谷小五郎
○鐵道第二聯隊
(千葉郡津田沼町)
長 工大佐 池田茂藏
副官同少佐 池合振一
聯隊附中佐 岸新
鴻澤丈彦
下田宣力
少佐 小林幸七
中山光久
久葉壽治
申戸彌策
鈴木直壽
横濱慶二
猿谷小五郎
○千葉衛戍病院
(千葉郡都賀村)
長 一醫正 鈴木芳之助
病院附三主 石川武夫
三醫正 栗田愛之助
○佐倉歩兵第五十七聯隊
長 歩大佐 今村均
副官 喜多勇吉
聯隊附同中佐 新井宇平
○第一師團司令部管下
○千葉聯隊司令部
司令官 歩大佐 佐久義
副官 同大尉 加藤大吉
部員 同中佐 今田浩
齊藤匡
南部襄吉
少佐 忍足才兵衛
○習志野衛戍病院
(千葉郡津田沼町)
長 一醫正 武内三千春
病院附三醫正中 稻武彦

○騎兵第二旅團司令部
(千葉郡津田沼町)
長 少將 沼澤蕃
副官 騎少佐 上原猛雄
同大尉 野口欽一
書記 騎曹長 小川光平
○騎兵第十五聯隊
(千葉郡津田沼町)
長 騎大佐 和田由恭
副官 同大尉 杉木守
聯隊附同少佐 杉本一雄
古賀九藏
佐賀武雄
武市長雄
山川信次郎
紫喜久治
須藤茂伸
少尉 山本一次郎
佐藤武夫
○騎兵第十六聯隊
(千葉郡津田沼町)
長 騎大佐 吉田惠
副官 同大尉 小林保之助
聯隊附同少佐 山崎積
安達三郎
小澤重義
同大尉 田川泉
○野戰重砲兵第三旅團司令部
(東葛飾郡市川町)
長 少將 桑木崇明
副官 砲少佐 丸山八束
大尉 下遠甲太郎
○騎砲兵隊
(東葛飾郡市川町)
長 砲少佐 梅津眞
副 大尉 矢部虎雄
隊附 砲上工長 下澤忠雄
○野戰重砲兵第一聯隊
(東葛飾郡市川町)
長 砲大佐 伊藤義雄
副官 砲大尉 太田芳朗
聯附 同中佐 高橋次郎
少佐 佐澤元
庵澤德藏
砲大尉 翠川次保
高須勝利
○野戰重砲兵第七聯隊
(東葛飾郡市川町)
長 砲大佐 土橋一次
副官 同大尉 高橋克己
隊附 同中佐 芹川透
少佐 木村繁吉
大尉 杉野庭義
原捷吉
石黒豊吉
加藤直太郎
中尉 近藤虎之助
鈴木元吉
○習志野衛戍病院
(千葉郡津田沼町)
長 一醫正 武内三千春
病院附三醫正中 稻武彦

一醫 長瀬徳治郎
二醫 早川正敏
三醫 篠崎重信
三藥正 越山俊吉
三看官 佐藤鶴雄

○國府臺衛戍病院
(東葛飾郡市川町)
長 二醫正 田口正平
病院附三醫正大 杉保枝
二醫酒 井忠良
飯田康雄
三醫 鈴木美夫

○佐倉衛戍病院
(印旛郡佐倉町)
長 二醫正 吉井誠一
病院附三醫正 横山等
一藥官 河島三徳
上看長 大下幸次

△千葉毎日新聞社
千葉市千葉電話三〇六
社長 五十嵐喜久
副社長 五十嵐勝利
支配人 五十嵐理亮
編輯長 河野彦人
政治部長 矢島泰輔
營業部長 金子麗葉
工場長 日暮彦次郎
東 京 岩立慶三郎
△千葉縣民新聞社
千葉市寒川
社長 伊藤隆忠
主 幹 村山謙次
編輯 立野信次
教育と家庭版主任 白井馨

△房總日々新聞社
千葉市吾妻町 電話八三〇
社長 大立目直武
主 幹 棚橋豊彦

△日刊千葉新聞社
編輯部長 大久保貞
事業部長 菊地弘
政治部長 中島光
社會部長 佐久重雄
廣告部長 若林九二
調查部長 大野好母
販賣部長 夏秋徳三郎
工場長 長谷川平五郎
支局及支社
東 京 青山晴一
大 連 芦刈未喜
横 濱 處 忠藏
東 葛 葛有松正次
習 志 野木本蘇山
銚 子 本多武廣
外 房 前田武
鴨 川 山名清
北 條 石原清也
木 更 津 今井龜也
成 田 本多常次郎
八 幡 岩田尙吉

千葉市寒川
社 長 沼田市太郎
副社長 阿部芳雄
編輯部 小暮重忠
營業部 石井登喜藏
田中幸正
清水
販賣部 今井讓一郎

◎千葉日々新聞社
千葉市寒川長洲 電話
社長 大澤夏江
副社長 小林魯江

◎房總新聞
千葉市西院內 電話九五
七番
社 長 菅谷貞太郎
編輯部 小柴博
加瀬惠子
菅谷孝太郎
渡邊智功
營業部 川端傳橋

松戸勘次
高橋庫之助
荻澤金政
布施愛次郎

支局及支社
木更津 石井久
佐 原 中 綠 郎
銚 子 中 山 芳 昭
北 條 吉 田 峯 月
茂 原 大 和 久 政 次
東 京 多 田 一 郎
大 阪 淺 田 照 久

◎房州新聞社
安房郡館山北條町
社長 長押元治郎

◎日刊房州新聞社
安房郡館山北條町
電話五三四番
支局長 澤田英一
姉崎從義
吉田良直

◎夕刊千葉新聞社
東葛飾郡野田町
社長 長榮崎弦夫

◎房總毎日新聞社
松戸渡邊道徳

◆各地通信部
松戸渡邊道徳

千葉郡北道場
社主理事 原田太吉
理事會代表 多田勇
理事 柴田一
(社員名簿は巻末にあり)

◎日刊魁新聞社
銚子市飯沼
社長 長明石清三

東京各新聞社支局
(イロハ順)
報知新聞社
東京市麴町區有樂町
社長 長野間清治

◆千葉支局
千葉市寒川長洲九九〇
電話五三四番
支局長 澤田英一
姉崎從義
吉田良直

◎東京日々新聞社
東京市麴町區有樂町
社長 長岡實

◆千葉支局
千葉市西院內
電話四二九番
支局長 河野田鶴雄
渡部齋

◎東京毎夕新聞社
東京市日本橋區
社長 長木村政次郎

◆各地通信部
河田陽造
小林正護
中村
野田瀬畑照吉
松戸石井正一
船橋橋本富吉
木更津三井良尙
館山北條 萩生田七郎
鴨川 淺田正隆
佐倉 齋藤正人
八日市場 最上清
銚子 田中房造
佐原 坂本齋一
勝浦 小路彌惣治
茂原 松浪彦四郎
東 京 金板倉良司
鶴舞 小島佐四郎

千葉市西院內

電話六四〇番

支局長 大木彬愛

眞田郡司

◆各地通信部

館山北條 山崎由兵衛

松戸 中谷斧三郎

銚子 中村靜

船橋 平野久滿吉

佐倉 永澤 照

佐倉 譜久里長榮

◎東京朝日新聞社

東京市麴町區

社 長 上野精一

◆千葉通信局

局長 林達磨

園田俊一

今井寅夫

◆各地通信部

銚子 瀧敷太郎

館山 潤修藏

船橋 鈴木琢磨

◆各地通信員

佐原眞田健一

木更津 笠川藤吉

野田 鎌田醇吉

松戸 忍田隆

旭町 竹内郁太郎

成田 鶴澤義次

勝浦 齋藤梅吉

八日市場 細野侃二

東金 鈴木雄

茂原 松浪彦四郎

◎中央新聞社

東京市麴町區

社 長 堀川勝造

◆千葉支局

千葉市市場

支局長 川島

◎讀賣新聞社

東京市麴町區

社 長 正力松太郎

◆千葉支局

千葉市吾妻町

電話四三七番

支局長 山田藤時

川口伊之助

菅原穰

佐藤國松

柳原靜夫

各地特置員

銚子 中村靜

北條 德田隆二

船橋 野本良夫

松戸 椎名榮康

◆各地通信員

佐原 石田忠次郎

茂原 松浪彦四郎

鴨川 池田兼藏

東金 鈴木雄

八日市場 細野侃二

佐倉 萩野谷平

木更津 小川留藏

大原 小路彌惣治

野田 中山元一

勝浦 齋藤梅吉

千倉渡邊慶太郎

八幡丸山章

保田福原福太郎

◎國民新聞社

東京市京橋區

社 長 大島宇吉

◆千葉支局

千葉市寒川

電話七六番

支局長 續木繁一

菅沼政雄

◆各地通信員

市川 吉田稻之助

館山北條 都川慶治

銚子 有賀隆男

松戸 黑石正男

佐原 小川隆吉

東金 板倉良司

八日市場 林藤三郎

木更津 長谷川榮藏

成田 本多廣

野田 中村貞三郎

茂原 大和久義平

大原 小路彌惣治

◎時事新報社

東京市京橋區

社 長 武藤山治

◆千葉支局

千葉市寒川

電話四三三

支局長 荻原治郎

林政春

海老原毅

◆各地通信部

銚子 高山弘房

館山北條 栗栖秀實

船橋 長島正男

木更津 長島克己

佐倉 倉中島勝城

松戸 土屋賢造

◆各地通信員

佐原 石飛忠次郎

茂原 大和久義平

大原 小路彌惣治

東金 鈴木木雄

八日市場 細野六皇子

◎都新聞社

東京市內幸町

社 長 福田英助

◆千葉特派員

千葉市々場

間瀬幸之助

○千葉醫科大學

學 長 高橋信美

○庶務會計兩課長

事務官 高木善行

○學生 豊田久二

○教授

醫 博 松本高三郎

酒井卓造

竹村正

高橋信美

佐藤邦雄

瀨尾貞信

石橋松藏

小池敬事

松村

伊東彌惠治

福田得志

赤松茂

久保護躬

緒方規雄

杉山文祐

佐々貫之

馬杉復三

加賀谷勇之助

鈴木重武

詫摩武人

森田秀一

橋健行(留學中)

石川健夫

岩津俊衛

黒田通

鈴木正夫

堂野前維摩郷

其文三郎

谷川久治

○助手

原田美實

篠原規休

福原不二雄

富塚八十一

富士川次郎

柳澤利喜雄

藤川泉

島田美夫

山内正木

川名晃

奥田金四郎

久賀貞治

副島昇

波多腰彪三

齋藤進

太田裕

川名正義

莊司康

○千葉市 千葉神社 松井龍雄
 ○千葉郡 蘇我比咩神社 粟飯原寛胤
 ○市原郡 二宮神社 田久保美之吉
 ○八幡神社 八幡神社 内田羊之助
 姉崎神社 海上甚吉
 島穴神社 和田義雄
 高瀧神社 平田成次郎
 ○東葛飾郡 八幡神社 鶴岡達郎
 ○東葛飾郡 意富比神社 千葉健吉
 葛飾八幡神社 葛飾八幡神社 宮崎博道
 竹内神社 坂巻勇雄
 香取神社 岩崎市藏
 八幡神社 赤城神社 岩本嶽峯
 香取神社 赤城神社 石上嶽峯
 ○印旛郡 香取神社 關根泰司
 八幡神社 齋藤良雄

○香取郡 香取神社 飯田直枝
 東大神社 東大神社 木内卓爾
 大戸神社 大戸神社 鴛田長司
 木内大神 木内大神 木内大樹
 大須賀大神 大須賀大神 松崎重廉
 松崎神社 松崎神社 松崎重廉
 側高神社 側高神社 石田重彬
 諏訪大神 諏訪大神 五十嵐光良
 愛宕神社 愛宕神社 岩城鹿二
 ○海上郡 海上郡 銚子正次
 銚子神社 銚子神社 山崎俊平
 海上八幡宮 海上八幡宮 松本俊平
 玉崎神社 玉崎神社 原勇司
 ○匝瑳郡 天照神社 梅谷長祥
 ○山武郡 天照神社 梅谷長祥

春日神社 春日神社 川岩五郎
 皇産靈神社 皇産靈神社 戸川五郎
 五所神社 五所神社 朝日甲雄
 大宮神社 大宮神社 押尾眞澄
 日吉神社 日吉神社 鈴木眞澄
 ○長生郡 八幡神社 中島義質
 橋神社 橋神社 大野直茂
 八幡神社 八幡神社 石原了一
 一松神社 一松神社 狩野保胤
 白子神社 白子神社 加田利作
 ○夷隅郡 天見神社 石野野丞
 遠見神社 遠見神社 小林修存
 春日神社 春日神社 井上文吉
 大宮神社 大宮神社 三神毅負
 夷津神社 夷津神社 渡邊義一
 ○君津郡 飽富神社 深河直
 八劍八幡神社 八劍八幡神社 八劍功雄

大原神社 小曾根忠吉
 坂戸神社 和田三郎
 八雲神社 大野良治
 久留里神社 小林瑤郎
 八坂神社 粕谷定一
 金谷神社 菫川正則
 諏訪神社 松本伊勢松
 ○安房郡 八雲神社 杉山三雄
 安房神社 安房神社 稻村眞里
 洲崎神社 洲崎神社 石井昇
 諏訪神社 諏訪神社 堀江要
 八幡神社 八幡神社 酒井眞澄
 莫越山神社 莫越山神社 藤清麿
 八雲神社 八雲神社 川名雄次郎
 神明神社 神明神社 岡野哲三郎
 天満神社 天満神社 川崎三郎
 高家神社 高家神社 岩本幾雄
 諏訪神社 諏訪神社 加茂惟一
 布良崎神社 布良崎神社 藤森久雄
 熊野神社 熊野神社 矢田義一

齋藤 兼事務官 高木善行
 友永得郎 藥局長 久野高一
 水口俊明 書記 都竹清市郎
 鈴木政治 杉浦文作
 荒木智夫 中山謙吉
 西村敏而 栗田一郎
 清水英政 秋葉健
 松井重次郎 山崎徳藏
 田村利男 石野治市
 加藤藤一 三橋久雄
 大澤五郎 石橋安治
 市原通 石井祐良
 櫻井薫 保坂桂
 三好清夫 今野四男
 久能六郎 長谷川尙一
 寺嶋春夫 龜井力
 織田信夫 小川てる
 兒玉勝利 長崎多司
 後藤智光 中田みさを
 竹内勝 高橋とり
 淡路きん 平野ハル

看護長 看護長
 同附屬圖書館 同附屬圖書館
 館長 教授 緒方規雄
 書記 北村清
 藤澤公介

○安房神社 宮司 稻村眞里
 禰宜 前田勝也
 主典 小澤恭治
 ○小御門神社 宮司 澤田總重
 禰宜 河崎勝正
 主典 小川景宜
 (名譽職) 國友郁文
 ○玉前神社 宮司 中村政藏
 禰宜 板倉清
 主典 近藤尊英
 (名譽職) 弓削幹三

千葉醫科大學附屬藥學專門部
 主事 間庭秀夫
 教授 關根重吉
 須田喜一
 長谷川長八
 森山剛一郎
 小幡武郎
 黒川政吉
 觀一
 龍榮三

神保きよ 矢上ふさ
 萩原初枝 戸塚とり子
 齋藤兼雄 齋藤兼雄
 齋藤忠虎 齋藤忠虎
 香取嘉三 香取嘉三
 香取北郎 香取北郎
 宮司 宮澤春文
 禰宜 清田英治
 主典 尾形平

安房郡天津町
 助教授 牧俊夫
 助手 新妻道郎
 書記 中島晋郎
 ◎千葉稅務署
 屬長 杉村正
 大久保信
 鳥羽宗一
 末永治
 池田喜一郎
 坂本啓一郎
 志鎌國義
 佐野信松
 長崎松壽
 齋藤信繁
 中村由
 木村武藏
 市原皓二

技手 山村定雄
 ◎松戶稅務署
 屬長 志村眞一
 關根省三
 關垣一四
 天野貴久
 藤田卯之吉
 古見盈
 綠川恒三
 飛田文四郎
 蔭山武茂
 秋山文三
 岡本新三郎
 阿部清治郎
 石井春吉
 太井一衛
 水野武
 白鳥武男

長谷川吉郎
 眞島定太郎
 山口辰雄
 杉田辰雄
 大貫角三郎
 野川彦司
 鶴田義藏
 佐々木豐彦
 我孫子久
 佐倉野澤才治
 佐野川彦司
 六軒大貫角三郎
 成田辰雄
 宮田辰雄
 原眞島定太郎

山田義滿
 石川善思
 横田信郎
 苗池彌太郎
 長沼龜吉
 石川俊雄
 松山治雄
 富岡金丸
 早乙女順治
 鈴木元義
 鈴木元義

◎東金稅務署
 屬長 淺野卯之吉
 小佐野長次
 川尻貞夫

◎木更津稅務署
 屬長 石田憲義
 稻葉與平
 市川重吉

◎千葉稅務署
 屬長 須賀安太郎
 加藤晴二郎
 佐藤章治
 內川富士雄

◎茂原稅務署
 屬長 須賀安太郎
 加藤晴二郎
 佐藤章治
 內川富士雄

◎東金稅務署
 屬長 淺野卯之吉
 小佐野長次
 川尻貞夫

◎木更津稅務署
 屬長 石田憲義
 稻葉與平
 市川重吉

大藏省 預金部
 縣下出張所
 八幡神社 石井子雲
 諏訪神社 落合榮治
 木更津長
 田所忠雄
 稻葉與平
 越塚正造
 阿部晃
 中野芳政
 白石一雄
 佐藤益助
 中山儀章
 山部欽哉
 須須三郎
 荒井長三郎
 豐田義藏
 鶴田義藏
 佐々木豐彦
 我孫子久
 佐倉野澤才治
 佐野川彦司
 六軒大貫角三郎
 成田辰雄
 宮田辰雄
 原眞島定太郎

北條長
 專賣局出張所長
 旭子
 八日市場
 木更津
 久留里
 安藤源吉
 長峰朝昭
 岡田金次郎
 關田五郎
 友寄英成
 三宅瑞穂
 馬場武雄
 吉岡鏡太郎
 長山又四郎
 森口藤松
 中尾文策
 青柳彌錄
 二瓶伊七
 齋藤文藏

東金長
 佐原長
 松戸長
 千葉長
 千原長
 佐野長
 北條長
 佐藤長
 中山長
 山部長
 須須長
 荒井長
 豐田長
 鶴田長
 佐々木長
 我孫子長
 佐倉長
 佐野長
 六軒長
 成田長
 宮田長
 原長

飯塚幸一郎
 飯島義郎
 市原定治
 飯塚幸一郎
 飯島義郎
 市原定治
 飯塚幸一郎
 飯島義郎
 市原定治
 飯塚幸一郎
 飯島義郎
 市原定治

◎東京帝國大學千葉演習林
 高橋賢勝

監督書記 關口恒通 飯岡土屋馨 關一二(客員)同
 林清隆 多古子岡 鹿島千太郎 同
 朝正成 東金古 伊藤直吉 同
 平塚申七 大網尾志賀純平 辯護士
 大網正俊 松尾關英吉 辯護士
 山崎啓司 成東關二 古川興副會長(同) 辯護士
 高橋好雄 蓮沼石坂二 杉山彌太郎(會長)千葉市 辯護士
 子安良平 片貝金子繁藏 信太武治 同 電話四七
 鈴木俊雄 判事 野口治行 一ノ瀬房之助 同
 高橋賢勝 監督書記 青木勝見 同
 大木一德 書記 高橋榮藏 同
 相馬志郎 書記 羽生長七郎 同
 諸田一臘 書記 田中丑藏 同
 安達太助 書記 久本貫一 同
 國又鎮靜 出張所勤務書記 石橋信 同
 柏熊新助 神崎井上滋雄 三枝重太郎 同
 木村清藏 小見川和田潔 安藤國次 同
 佐久間茂 東城青木慶郎 荒木辰生 同
 出張所勤務書記 小松市作 中村周治 同
 旭 長戸路政司 同

小林善作 松戸町 技手兼主事 佐々木辰吉 同
 堀越充三 同 會 長 大枝十兵衛 書記 小倉宗司 副會長
 矢頭正泰 同 會 長 鈴木彌吉 會 長 長島義三 同
 花香隆保 銚子市 副會長 宇井野四郎吉 副會長 吉野春吉 同
 椎名隆(客員) 同 評議員 實川小太郎 評議員 久我東二 同
 岡本善夫 同 評議員 小關元太郎 同 御園左平 同
 小高孚 長生郡五合村 同 小川市之助 同 片岡長作 同
 森松源三郎 東金町 同 伊藤定吉 同 三橋喜八 同
 松本榮(客)船橋町 同 宇野謙治 同 小和野堰藏 同
 ◎海上郡水産會 會 長 小栗山喜四郎 同 鹿間榮造 同
 ◎銚子市水産會 副會長 古川長太郎 同 麻生常治 同
 會 長 伊藤藤七 同 伊藤正次 同 富塚久良治 同
 副會長 土手伊平 同 石橋佐太郎 同 桑垣助三郎 同
 同 山口龜二郎 同 秋葉拾司郎 同 笠原壽 同
 同 井戸端惣藏 同 磯野萬五郎 同 白井政吉 同
 同 千年貞治郎 同 幸地喜三郎 同 酒井存良 同
 同 加瀬清次郎 同 作田梅松 同 長谷川省三 同
 同 土屋卓爾 同 酒井市朗 同 齊藤勇吉 同
 同 宮内庫太郎 同 鈴木五平次 同 ◎夷隅郡水産會 同
 同 主事 山本克己 同 小川吉次郎 同 會 長 吉野力太郎 同
 ◎山武郡水産會 會 長 小栗山喜四郎 同 鹿間榮造 同
 ◎長生郡水産會 會 長 長島義三 同 評議員 小谷仲次郎
 ◎安房郡水産會 會 長 小谷三之助
 副會長 小澤榮三郎
 評議員 早川敬治郎
 同 西川治三郎
 同 井野榮治郎
 同 鈴木喜三郎
 同 吉田代助
 同 笹生林之助
 同 根本一郎
 同 鈴木房宗

龜山村	榎本平作	川崎喜傳治	御宿町	為田茂男	同 副會長	小原泰四郎
青堀町	鈴木長之助	小高達也	同	關直	北條館山町	加藤敬三
同	竹内衛	中村陽	同	高橋義意	同	上野幹太郎
同	麻難惇三	田中寛二	同	長谷川玄昌	同	藥丸虎次郎
同	熊切勉	市原文雄	同	關龍雄	同	諸隈清三郎
富岡村	石橋徳次	松下廣太郎	勝浦町	本多欽治	同	小原泰四郎
佐貫町	高野聿二	中村正次	同	鋤柄直也	同	齋藤貫
同	久城起一	奥山大鳳	同	小關一彦	同	龜田職
同	山口恒久	大宮正一	同	前森永貞	同	後藏憲三
同	佐野進	島地昇	同	松本爲一郎	同	小谷無遠
中村	鈴木晴次郎	小高俊海	同	中村隆好	同	貴家學而
天神山村	鳩山尙喜	田邊信夫	東浦村	日置蓮藏	同	角田博
竹岡村	染谷與助	加藤馨	東海村	酒井謙	同	齋藤喜市
同	齋藤行藏	岡田丑之助	布施村	君塚増太郎	同	川名博夫
同	鈴木俊	若菜精一	興津町	川上新才	同	穂坂與明
同	計七十名	野口耕藏	同	清野儀三郎	同	安藏房治郎
事務所 夷隅郡	鋤柄直也方	熱田義雄	同	金坂欽吾	同	高木宏
郡醫師會長	鋤柄直也	麻生敬義	安房郡	計四十名	同	輕部權市
同 副會長	川崎喜傳治	永野泰治	事務所 安房郡北條館山町	高木勇次郎方	同	高木勇次郎
大多喜町	久貝賢次	森川義一	郡醫師會長	高木勇次郎	同	鈴木紀
		安藤謙			同	渡邊治生
					同	花村朗

同	梅園友夫	高梨清	同	關君平	氏名
西岬村	山田敦宇	山野邦三郎	健田村	岩田鏡太郎	國松眞三郎
神戶村	古川齋	辻村董	江見町	加瀬徳	菅原彌兵衛
富崎村	野原肇	伊藤龜治郎	鴨川町	伊藤斌夫	小池敬三郎
館野村	山口唯次郎	和穎逸造	同	三橋實	土屋了三
那古町	登倉源吾	山崎うたつ	同	原進一	淺田雅夫
同	登倉達雄	橋本兼吉	同	中岡徳次郎	關口愛介
同	白幡保	清水貫一	同	劍持帝三	伊藤三郎
國府村	平松晉	原瀨爲次	同	佐久間熊治	戶村馨
九重村	谷崎雄次	石井俊夫	同	岡本貢	中島義貞
船形町	岡本哲郎	池田朝壽郎	同	橋本鍾爾	大森正之
同	中村龜七	副城寛	同	橋本平二	山内啓次
同	三上仲男	山口誠一	同	龜田俊正	島田實
同	明星智臣	中原貞治	同	平澤東一	中田忠司
同	小澤佐助	青木せい	同	關谷正一	小倉甚藏
岩井村	黒川森太郎	青木佐	同	鹽田西雄	中西良勝
同	増田高造	佐久間吉太郎	同	鈴木信道	小倉勝雄
同	甲田豊	富田文司	同	原芳三郎	石塚重雄
同	武内重	中原徳彌	同	加瀬浦二	川口貴一
同	澤倫次	和田千太郎	同	高地良平	池田圭造
同	山口琴三	早田正太郎	同	八百七十七名	
同	原貫一	春原市次郎	同	八百十八名	
			同		

●千葉市郡 藥劑師名簿

千葉市

同	滑川町	柏木平七	同	竹田藤一郎	瑞澤村	若宮昌治	八生村	湯淺文之助
同	神崎町	青山慎次郎	同	矢野靜治	西畑村	星野貞	同	秋山榮吉
同	多古町	佐藤朝吉	同	鶴岡甚太郎	上野村	吉野佐五郎	安食町	桑原茂吉
同	澤田政次郎	高柳周治	同	山川俊三	●印旛郡薬業會	同	同	高久熊之助
同	澤田松三郎	澤田松三郎	同	芝野吾郎	佐倉町	岩淵剛	木下町	飯田健
同	平山富三郎	澤田政次郎	同	尾高致一	同	成田直之助	大森町	永井喜代松
同	三宅清次郎	澤田政次郎	同	尾高豊太郎	同	見尾二一	白井村	山口平吉
同	宮内謹治	澤田政次郎	同	穴倉寅藏	同	幸田和助	白井村	武藤幸治郎
同	滑川善之助	澤田政次郎	同	鋤柄順三	根郷村	清宮重治	白井村	長谷川善之助
同	内野律	澤田政次郎	同	原田長三	同	石渡義男	四街道町	須田慶造
同	高岡愛子	澤田政次郎	同	白石利助	八街町	篠崎俊	同	中島書資
同	吉沼藤作	澤田政次郎	同	植村要	同	筆内忠藏	同	花島留次郎
同	山口三郎	澤田政次郎	同	末吉信太郎	同	小倉彌三郎	布録村	齋藤林太郎
同	青柳長次郎	澤田政次郎	同	原延雄	同	若名己三夫	同	齋藤藤三郎
同	宮崎宮五郎	澤田政次郎	同	山下元輔	同	戸村徳次郎	木更津町	齋藤藤三郎
同	柳城文喜	澤田政次郎	同	岡村才治	遠山村	鈴木廣雄	同	服部平一郎
同	高橋清子	澤田政次郎	同	吉野要吉	成田町	大徳昌	同	長谷川新之助
同	太田數枝	澤田政次郎	同	伊藤源七	同	大徳桂二郎	同	安室清吉
同	●夷隅郡薬業會	澤田政次郎	同	鶴岡庫四郎	同	齋木己之助	同	古川勇
同	大原町	澤田政次郎	同	増田辰二	酒々井町	吉原進	同	三枝秀
同	吉田精一	澤田政次郎	同	宇田川平八	豊住村	飯岡角三郎	同	高橋智

同	同	藤浪文時	五井町	星野保	柏町	大部銀之助	同	杉崎徳太郎
同	久留里町	津田清	千種村	岡本良衛	松戸町	平野福七郎	同	中野武義
同	同	堀内文三	姉ヶ崎町	鈴木和四郎	同	菅野和太郎	同	渡邊東榮堂
同	同	天野立一	同	古川俊二	同	奥富慶治	同	岡田要之助
同	同	篠田松藏	同	齋藤榮次郎	葛飾町	畝本久吾	同	大久保忠次郎
同	同	小林一布	姉ヶ崎町	露崎りよ子	市川町	道口健介	同	岡田信義
同	同	小柴半治	八幡町	川上規矩	同	椎名秀	同	島崎操
同	同	内野貞三郎	同	加瀬誠四郎	同	大澤捨雄	同	山崎宇吉
同	同	堀落子	千種村	麻薙廣吉	行徳町	伊藤喜一郎	同	島山由太郎
同	同	岩崎健一	姉ヶ崎町	長田恒久	市川町	高尾英一	同	酒井定治
同	同	星野茂登	●東葛飾郡薬業會	同	同	浅岡竹松	同	江澤七藏
同	同	高橋直正	船橋町	川奈部新之助	同	椎名豊保	同	神山要
同	同	今木覺太郎	市川町	金子金兵衛	松戸町	渡邊好一郎	同	小沼清一郎
同	同	泉水眞	同	北澤甲吉	浦安町	鈴木三郎	同	大木隆
同	同	宮崎清	船橋町	大野祐通	同	蛭谷彌次郎	同	松田秀之助
同	同	井上美夫	野田町	茂木林藏	同	辻幸次郎	同	市川如益
同	同	河津つと子	市川町	伊奈義三	同	押賀孝作	同	久坂野茂治
同	同	星野ふさ子	船橋町	齋藤義直	同	右島己之松	同	矢部正二
同	同	藤山廣吉	同	市原芳雄	同	椎名治兵衛	同	鈴木かく
同	同	三橋たか子	同	中村昇	同	金子悌	同	谷本一郎
同	同	●市原郡北部薬業會	野田町	染谷孝一	同	奥富八郎	同	同
同	同	同	同	和田夏五郎	同	直井近藏	同	同

同 南郷村 石井 アイ 良文村
 佐原町 豊泉 タケ 同 府馬町
 佐原町 大川 せつ 八都村
 佐原町 大竹 美代 八都村
 佐原町 白井 ハツメ 八都村
 佐原町 久保木 いね 小見川町
 佐原町 浅野 はる 中和村
 佐原町 渡邊 彌生 笹川町
 佐原町 河北 さわ 同
 小御門村 畔蒜 ウメ 同
 小御門村 堀井 てる 良文村
 栗源町 齋木 しげ 常磐村
 栗源町 高橋 さだ 常磐村
 東大戸村 高柴 フデ 吉田村
 滑河町 酒井 ハツ 日吉村
 高岡村 高橋 ひで 東篠村
 佐原町 篠塚 きち 多古町
 神崎町 松岡 徳恵 多古町
 小見川町 人見 光 多古町

鈴木 はる 海上郡及銚子市
 椿本 芳 銚子市
 菅谷 和 同
 羽生 やす 椎柴村
 宇井 幾與 銚子市
 岩立 むつ 飯岡町
 鈴木 よし 銚子市
 鈴木 はな 嚶鳴村
 平澤 いゑ 銚子市
 平野 たか 旭町
 鈴木 とも 銚子市
 宮崎 はる 銚子市
 竹村登茂江 銚子市
 平野 せい 銚子市
 伊藤 きく 海上村
 八角 やい 銚子市
 高梨 みさ 銚子市
 萩原 きん 銚子市
 平山 コト 銚子市
 宇井 さた 銚子市
 渡邊 とく 同
 小貫 初枝 高神村

海上郡及銚子市
 大久保貞子 銚子市
 小川 むら 銚子市
 岩瀬 春 旭町
 堀 清 旭町
 田中 こと 嚶鳴村
 富岡 つる 舟木村
 服部 新 椎柴村
 笹本 なか 同
 森田 光 八日市場
 加瀬 徳子 野田村
 尾形 つる 南條村
 杉木 マサ 棒海村
 鈴木 ソノ 野田村
 宮内 よね 白濱村
 横田 久米 榮村
 生田目キクヨ 須賀村
 荻 うめ 榮村
 田原 しづ 共興村
 加瀬 よし 平和村
 加藤 うた 共和村
 石津 はな 豊榮村

宮内 琴
 溝口 しげ
 堀 すゑ
 伊藤 ゆき
 林 ます
 椎名 俊江
 宮内 こう
 伊藤 まつ江
 野口 ヤソ
 丸 なを
 眞田 さた
 石毛 つね
 林 ゑの
 伊藤 うた
 伊藤 フミ
 加瀬 たつ
 江波戸ゆき
 塚本 とみ
 川口 きら
 宮野 美代
 平山 とし

安食町 石井 キイ 東郷村
 同 卯之木基見子 土睦村
 大森町 富田 みつ 本納町
 木下町 山田 トシ 茂原町
 布録村 長澤 てい 二宮本郷村
 大森町 染谷田鶴子 高根本郷村
 佐倉町 山田 しん 東郷村
 安食町 伊藤 勉代 同
 本埜村 五十嵐シヅ 東浪見村
 遠山村 神崎 こう 南白龜村
 和田村 戸村 千代 一宮町
 志津村 宮本 はな 茂原町
 千代田村 吉野 ハナ 關村
 根郷村 齊藤 はつ 一宮町
 根郷村 渡邊 きさ 豊榮村
 佐倉町 宮代 なを 一宮町
 長生郡 南白龜村
 應南町 齊藤 節 本納町
 白濁村 緑川 ミキ 同
 茂原町 岩瀬 ヨシ 一宮
 茂原町 相 かね 一宮
 八積村 森 琴 關村

地引 さく 豊岡村
 市原 はる 豊岡村
 齋藤 きみ 白濁村
 大塚 喜よ 一松村
 河野 くま 太東村
 村杉 しげ 長柄村
 鈴木 きく 同
 長谷川満起 蓮沼村
 長島 徳子 緑海村
 佐藤 するよ 東金町
 大矢 こと 横芝町
 山田 重 大和村
 森田 喜さ 東金町
 志鎌 いは 横芝町
 大場 こと 丘山村
 田邊 ウタ 大平村
 山本 まさ 横芝町
 鶴澤 静江 松尾町
 關 キウ 太平村
 秋場 ちゑ 成東町
 五十嵐 さく 成東町

山武郡
 加藤 梅 東金町
 土屋 コト 正氣村
 岡村 好 正氣村
 大野 する 片貝町
 佐久間ヒサ 片貝町
 吉田 利ゑ 片貝町
 江波戸いし 公平村
 篠崎 ちよ 豊海村
 渡邊 タミ 豊海村
 林 やま 豊海村
 堀角 ハナ 大網町
 河野 みるゑ 増穂村
 銀 く に 増穂村
 大塚 イセ 白里村

末石 さく 成東町
 平野 貞子 成東町
 細谷 とわ 成東町
 細谷 とわ 成東町
 田邊 静 上塚村
 弓削 佐久 大平村
 宮澤 隆子 上塚村
 加藤 梅 大富村
 土屋 コト 正氣村
 岡村 好 正氣村
 大野 する 片貝町
 佐久間ヒサ 片貝町
 吉田 利ゑ 片貝町
 江波戸いし 公平村
 篠崎 ちよ 豊海村
 渡邊 タミ 豊海村
 林 やま 豊海村
 堀角 ハナ 大網町
 河野 みるゑ 増穂村
 銀 く に 増穂村
 大塚 イセ 白里村

眞行寺フク
 高山 そよ
 關 貴
 鈴木 たけ
 深山 そめ
 土屋 ヤエ
 藤平 みち
 中島 たか
 志津 はな
 池田 たか
 池田 てつ
 梅澤 たか
 飛田 春子
 小高 ヤス
 鈴木 けい
 篠崎 タカ
 齋藤 とく
 佐藤 たか
 神原 とめ
 小倉 まき
 中村 つね
 齋藤 たま

千葉署管内 山本 政次
 船橋 植草 佐吉
 市川 福地 新作
 松戸 成島 勇
 野田 茂木房五郎
 佐倉 辻 新一郎
 成田 桑原 幸助
 木下 岡田 泰助
 佐原 香取清次郎
 小見川 永島房次郎
 多古 大竹佐五郎
 銚子 石上 新藤
 旭町 飯島 重藏
 八日市場 石毛兵次郎
 東金 前島 榮治
 成東 今關 寛
 茂原 増田 義朗
 一宮 池澤 正一
 大多喜 田島隆太郎
 大原 中村 和
 勝浦 吉野力太郎
 八幡 今井 保三

鶴舞 高石 鶴見
 木更津 鳥飼 啓藏
 湊 宮 又兵衛
 久留里 藤平 金吾
 北條 小柴周治郎
 千倉 押元 才司
 鴨川 高梨 萬藏
 永島房次郎
 今關 寛

保安課 渡邊 良雄

千葉警察署管内 鈴木 要
 千葉市組頭 山本政次
 蘇我町 鴻崎 豊吉
 椎名村 高澤竹次郎
 檢見川 宮間誠之助
 白井村 淺川安次郎
 都賀村 竹下 基一
 更科村 猪野 周重
 生濱 山内 忠吉
 都村 日暮 權次

市川警察署管内 小笹伊之助
 市川町組頭 福地 新作
 國分 石橋勝之助
 行徳町 飯塚 米藏
 南行徳村 松原新之助

野田警察署管内 荒井 兼吉
 野田署長 荒井 兼吉
 梅郷村組頭 高梨
 新川村 柳澤 清春

市川町組頭 植草佐吉
 葛飾町 新山 武雄
 八榮村 伊藤美佐雄
 津田沼 中島 佐内
 二宮 森田 祐吉
 大和田 大木 良治
 睦村 白井清太郎
 豊富村 石井 英正
 塚田村 森田治郎吉
 法典村 高橋 恒治

船橋警察署管内 長田多一
 船橋町組頭 植草佐吉
 葛飾町 新山 武雄
 八榮村 伊藤美佐雄
 津田沼 中島 佐内
 二宮 森田 祐吉
 大和田 大木 良治
 睦村 白井清太郎
 豊富村 石井 英正
 塚田村 森田治郎吉
 法典村 高橋 恒治

松戸警察署管内 石塚龜次郎
 松戸町組頭 石塚龜次郎
 明村
 馬橋村 大川五郎兵衛
 小金町 綿貫 政吉
 柏町 中山諒太郎
 風早村 伊原 武
 流山町 佐久間龜藏
 八木村 鈴木歳太郎
 田中村 染谷義三郎
 我孫子町 山田 福松
 富勢村 成嶋 勇
 手賀村 江口 七
 湖北村 小池 喜一

譽田村 高橋 新
 幕張町 志村 祐次
 犢橋村 島璋之助
 千城村 田野 榮藏

浦安町 澁谷 司
 八幡町 平松元次郎
 中山町 中村勝五郎

旭村 勝田 慎咲
 七福村 西村 平次
 木間ヶ瀬 大和重郎
 二川村 上原 康平
 關宿町 杉本 峯藏
 福田村 小泉謙三郎
 川間村 山崎 藤藏
 野田町 茂木房五郎

佐倉署長 布施 光次
 佐倉町組頭 辻 新一郎
 根郷村 石田治郎兵衛
 彌富村 田中林太郎
 旭村 吉田 兼一
 志津村 松戸鐵太郎
 酒々井 荻 美三郎
 川上村 山本 吉平
 内郷村 大川 忠光
 千代田村 須藤 辰司
 和田村 高橋紋三郎
 白井町東部 志田 林二
 白井町西部 岡野 寵明

阿蘇村 櫻井 豊
 八街町 越川勝太郎
 四街道 村井徳太郎
 成田町組頭 小野寺 弘
 中郷村 吉岡七郎兵衛
 遠山村 須賀澤平作
 富里村 越川 進
 公津村 谷 清助
 豊住村 野平幸之助
 安食町 桑原 幸助
 八生村 小田 直吉
 久住村 石橋 茂夫

成田警察署管内 成田署長
 成田町組頭 小野寺 弘
 中郷村 吉岡七郎兵衛
 遠山村 須賀澤平作
 富里村 越川 進
 公津村 谷 清助
 豊住村 野平幸之助
 安食町 桑原 幸助
 八生村 小田 直吉
 久住村 石橋 茂夫

佐原警察署管内 佐原署長 佐久間菊雄
 佐原町組頭 坂本藤次郎
 津宮村 大川 淺司
 大倉村 香取清次郎
 新島村 窪木 辰雄
 北佐原 栗山 儀一
 栗源町 堀越 藤吉
 香西村 根本 源良
 大須賀村 宮野久治郎
 本大須賀 萩原 吉平
 東大戸 神崎 清一
 瑞穂村 一敏田 衷
 米澤村 後藤 市三
 神崎町 日東寺 俊
 高岡村 青野孝一郎
 滑河町 根本 寛司
 小御門 高橋 豊治
 香取町 香取 文平

小見川警察署管内 小見川署長
 小見川町組頭 内野 信
 豊浦村 篠塚 正樹
 神里村 日下部千太郎
 山倉村 永島房次郎
 八都村 青柳彌次兵衛
 府馬町 越川 保
 森山村 谷本 嘉三
 良文村 菅谷源兵衛
 笹川町 多田慶次郎
 橋村 飯田 暉一
 豊里村 内山喜平治
 東城村 鈴木 仙松
 神代村 宮内伊兵衛
 萬歳村 穴澤廉之助
 中和村 高木 文藏
 古城村 寶川 廣

多古警察署管内 多古署長
 多古町組頭 大竹佐五郎
 東條村 勝又 榮亮

日吉村 山崎 庄介
 吉田村 秋葉信次郎
 中村 平山成之助
 飯高村 菅澤 金藏
 豐和村 鎌形秀次郎
 常磐村 那須 太郎
 久賀村 菅澤太郎司

評議員 齋藤 喜一
 銚子町組頭 濱口 麟藏
 西銚子 中内 文造
 豐浦村 飯島幸次郎
 船木村 小鷲 金藏
 椎柴村 多部田菊之助
 海上村 越川松太郎
 高神村 湯淺清太郎
 本銚子 石上 新藤

旭町警察署管内
 旭町組頭 飯島 重藏
 三川村 島田 佐一
 豐岡村 平岡 顯二

八日市場署長
 八日市場組頭 中川 隆治
 匝瑳 佐藤 清
 豐榮 飯島 賢治
 東陽 大木 覺
 南條 岩澤治太郎
 白濱 椎名 弘
 榮 江波戶清彦
 共興 鶴澤德太郎
 椿海 大木 要司
 豊畑 大木 榮
 平和 石毛兵次郎
 共和 木村徳三郎
 野田 藤井 貞司

須賀 大木 政雄
 東金警察署管内
 評議員 東金署長 吉田 秀憲
 東金町組頭 前島 榮治
 鳴濱 作田 紋平
 白里 松島 洋司
 大和 高橋 操
 正氣 伊藤 隆司
 丘山 金坂 琢磨
 公平 稗田 豊
 増穂 星見四郎吉
 増穂 富塚 七郎
 福岡 宮 官司
 豊海 佐久間 守
 豊成 土屋 緑
 源 猪野 家郷
 片貝町 飯高 照
 山邊 葛岡 徳
 大網町 板倉幸進美
 大網町 島田 正邦
 土氣本郷町 野崎 好藏

成東警察署管内
 成東町組頭 今關 寛
 大富 太田 壽
 南富 高橋 嘉重
 緑海 若林 健一
 連沼 石橋竹次郎
 上堺 佐瀬 近次
 大平 渡邊惣二郎
 横芝町 吉岡 清
 大總 萩原 竹藏
 二川 佐久間 勇
 千代田 石井忠治郎
 松尾町 土屋 俊三
 評議員 茂原署長 布施 保
 應南町組頭 白鳥平一郎
 日吉 増田 義明
 新治 白取 壽正
 豊田 岩崎信次郎
 茂原町 丸 有章
 本納町 杉浦 邦司
 豊岡 中村 薫

二宮本郷 大塚喜四郎
 豊榮 今關 亘
 南白龜 長島 正夫
 西 桐谷 暉
 關 渡邊 主計
 白濁 今關 喜一

一宮警察署管内
 評議員 一宮署長
 東浪見組頭 秋葉 七郎
 一松 中村大三郎
 土睦 池澤 正一
 八積 高仲 昂
 太東 小林 護三
 一宮 竹久貞次郎

大多喜署同
 評議員
 大多喜署長 橋本 宗司
 大多喜町組頭 田島隆太郎
 上瀑 河野 弘一
 瑞穂 長谷 熊吉
 千町 秋葉 蔵
 國吉町 渡邊治郎兵衛

勝浦警察署管内
 評議員 勝浦署長 篠塚 博
 勝浦町組頭 吉野力太郎
 興津町 西川 貫一
 上野 渡邊 嘉助
 豊濱 吉田 豊作

八幡警察署管内
 評議員 八幡署長 渡邊 弘
 千種組頭 齊藤 亮

木更津警察署管内
 評議員 木更津署長
 八幡町 宮原 勝次
 養老 伊藤 誠一
 姉崎 海保 節義
 濕津 今井 保三
 市東 秋葉 義雄
 市西 三橋 泰治
 東海 藤田 昌邦
 海上 伊藤 祐之
 菊間 古地 信
 市原 岡本 耕治
 五井町 津根 三造

鶴舞警察署管内
 評議員 鶴舞署長 鈴木三之助
 牛久町組頭 三橋 昇
 内田 小出喜平治
 平三 竹下富四郎
 鶴舞町 高石 鶴見
 高瀧 征矢 賢一
 戸田 伊藤 貞藏
 富山 齊藏 泰
 里見 平野 馨

小糸村組頭 石川 光治
 周西 坂井 豊三
 金田町 佐久間 巖
 巖根 菅沼 良平
 貞元 小林音次郎
 昭和町 飯嶋 昇次
 長浦 花澤 清
 中川 吉田 岩司
 八重原 香取仁左衛門
 根形 宮崎 正司
 周南 松本小八郎
 青堀町 平野 林藏
 中郷 渡邊 兼吉
 飯野 相澤 廣治
 眞船 小磯敏三郎
 鎌足 平野 福藏
 平岡 石橋 利八
 中 安田善次郎
 木更津町 鳥飼 啓藏
 富津町 小林善次郎
 波岡 鶴岡 鐵藏

清川 栗原 政吉 評議員 北條署長 伊藤 勳
 評議員 湊署長 北條町組頭 鈴木榮次郎
 佐貫町組頭 三平 良 館山町 大内 寅吉
 湊町 黒坂 才助 西岬 鈴木健三郎
 大貫町 平野長太郎 富崎町 木高 治助
 吉野 平野 寅吉 長尾 八角六一郎
 竹岡 鈴木 義雄 船形町 民内 保
 金谷 能城 治七 富浦 鈴木文五郎
 天神山 鈴木 忠助 勝山町 渡邊順之助
 關豊 野水 喜廣 保田町 川崎 米吉
 環 福本清四郎 稻都 杉田 戸一
 評議員 久留里署長 齊藤東吉 國府 山口道太郎
 久留里組頭 藤平 金吾 那古町 小柴周次郎
 小櫃 高野 伴藏 岩井町 沼田清一郎
 馬來田 野村惠一郎 瀧田 庄司 傳平
 松丘 矢嶋源之助 評議員 千倉署長 山口貞之助
 龜山 鈴木 利平 千倉組頭 押元 才司
 富岡 鈴木 武二 健田 加藤 藤吉
 三嶋 川俣 義郎 千歳 佐久間竹松

支部長 岡田 文秀

：日本赤十字社支部：

鴨川警察署管内 鴨川町組頭 杉山 才治
 評議員 鴨川署長 大藤竹次郎
 南三原 笹子 調治 支部副長 藤田 治郎
 和田町 間宮 傳吉 主事 石塚徳三郎
 七浦 杉野淺次郎 主事補 大坪 金也
 白濱 高木 仙松
 丸 吉田 淵 千葉市 加納 金助
 北三原 笹子源之助 副 長 宮内 三郎
 鴨川警察署管内 銚子市 川村 秀次
 副 長 渡邊 章六
 富浦海濱學校 校長 椎名龜之助
 校 長 和田 正系
 校 醫 和 田 正系
 評議員 久留里署長 齊藤東吉 顧問 岡田 文秀
 久留里組頭 藤平 金吾 支部長 岡田 光子
 小櫃 高野 伴藏 副 長 藤田天以子
 馬來田 野村惠一郎 主事 小川徳太郎
 松丘 矢嶋源之助 書記 中島 健治
 龜山 鈴木 利平 同 安川 辰藏
 富岡 鈴木 武二 養老院長 二淨 經井

町村吏員一覽表

町村名 町村長 助 役 收入役

川上 日暮菊次郎 山本 敏三 飛田 戰
 彌富 岩井 定治 石渡清十郎 大野 滯
 旭村 大川和一郎 高橋幸太郎 大野 良
 千代田 眞野慶之助 清宮 貞造 眞野太四郎
 志津 中村市太郎 中村市太郎 榎澤源右衛門
 阿蘇 小林與之助 今井 守長 小名木 晉
 白井郷 伊賀 時藏 蒲原 清吉 志田小治郎
 内郷 田邊啓三郎 田邊金之助 杉山忠太郎
 佐倉町 宮下恒三郎 鈴木 一 遠藤三男人
 根郷 田中和三郎 中村 道三 穴倉 傳吾
 和井田 戸田 關 藤崎慶重郎 戸村 靜治
 酒々井町 助 義三郎 木村竹治郎 福田 常吉
 八街町 齊藤 博 生形 勝三 京増覺治郎
 富里 藤崎勝三郎 藤崎喜一郎 湯本多一郎
 公津 小川源一郎 葛生仁平次 土肥 多助
 宗像 渡邊 哲 欽 員 馬場幸治郎
 船穂 横尾 昇 香取仲治郎 清田 源藏
 白井 五十嵐晋太郎 宇賀義太郎 宇賀 清治

大森町 欽 員 鈴木倉次郎 推名 萬助
 永治 山崎 了二 三門眞之助 出浦 永吉
 木下町 稻村 一 小窪 清 糸川勝太郎
 本笠 篠原榮治郎 榎崎縫之助 岡田 長治
 布録 山口 助 勝田 啓治 大木信次郎
 安食町 石橋 實作 勝田 啓治 萩原銳之助
 豐住 成毛半十郎 鈴木慶治郎 萩原伊之助
 八生 神山 國松 湯淺新太郎 清宮 忠雄
 住久郷 佐瀬三郎治 岩館兼太郎 一畝田定吉
 中郷 加藤三郎治 宮崎 廣 小野寺 弘 大木忠三郎
 成田 宮崎 廣 岩澤孫三郎 小野寺 弘 神崎傳太郎
 遠山 岩澤孫三郎 小池信三郎 澤本 慶吉
 蘇我町 關谷 治作 鈴木 衛 大塚 玄蕃
 生濱町 野村謹之助 鈴木 正 小倉新太郎
 推名 高橋 新 岡田 久雄 高梨 親信
 譽田 高橋 信善 淺川安次郎 高橋 與一
 白井 太田 信重 高橋喜代松 平川榮次郎
 更科 猪野 周重 花澤喜兵衛 市原 道夫
 千城 田野 榮藏 足立幸吉良 小林 哲 市原 庄司
 都賀 笠原 正享 海寶 英二 池田宗七郎

町村名 町村長 助 役 收入役

萬代	神代	笹川	橋	東	東	豐	東	浪	東	太	一	土	一	八	高	東	關	白	南	豐	本	新	豐
高木雄之助	野口昭	五十嵐莊太郎	滑川保治郎	和伊四郎	成毛俊一郎	●長	石川清	青木東吉	齊藤來助	池澤正二	中村正治	市東嚴武	石川泰藏	河野民城	大多和雄太郎	石和田文彌	齊藤富作	川崎竹松	杉浦正夫	森健五郎	林嘉作		
寺島三次	高木甲平	岩井仙藏	欠員	鎌形勁	栗林定治		伊原平作	吉田彰	片岡仙藏	萩野政藏	河野與一郎	市東國作	古山寛司	今井磯吉	片岡藏之助	石和田平太郎	川戸學	佐久間忠三郎	白鳥壽正	池田庄次郎			
高木庄藏	高野廣	野口寛	青柳保藏	高橋正雄	大納泰次郎		小關一作	土橋嘉助	長谷川英之助	小高民治	中村大八	芝崎長次郎	島田貞三	御須英惣	大多和平作	綠川伸司	岩佐松太郎	田中榮作	槍田市重郎	關屋梅作	高澤源三		
二宮本郷	長柄	茂原町	日吉	水上	西	東	鶴	豐	五	應	館	西	神	富	長	豐	館	九	稻	那			
糸久允	木島義夫	鈴木才次	仲村玄造	槍田茂三郎	桐谷隆二	杉野藤太郎	千葉彌惣治	唐鎌源三郎	小出善内	鶴岡傳司	石崎常夫	山崎丈吉	小澤熊次郎	神田英吉	八角六一郎	鈴木朝次郎	渡邊巖	高橋文治	君塚文五郎	金木又市			
岩名地千代吉	林太一	白井利市	山越信司	平野穎敏	齊藤晋吉	石橋亘	石丸憲	城風浩三	森	金坂恒吉	吉井榮造	太田廣	早川六郎	宇津木修司	小川伍作	加藤城治郎	高橋建藏	眞田乙治郎	吉田登	飯沼利三郎			
林祐一	黒須正美	石原了一	加藤鴉夫	柴崎一郎	島理善一	田邊要三	丸島倉治	小山宇三郎	鶴岡確	古山四郎治	森田龜吉	赤尾祿治郎	吉野勝藏	黒高寅吉	増田幸之助	山岸俊太郎	出山貞藏	中村邑吉	廣中文治				

香取町	香	本	大	東	佐	新	瑞	米	神	高	小	滑	豐	睦	大	二	津	幕	檢	續	
額賀榮藏	岩澤鯉藏	葛生沼三郎	藤崎久藏	大竹吉壽	山野庄介	増田三平	小林東二	花嶋三治	郡司寅松	石川甫一	山本九助	根本太一	●香	藤代清七	金子清治郎	岩井吉治	缺員	吉野信	小川久元	篠田豊三郎	小澤傳重郎
椎名清	根本鐵之助	成也太門	宮野武治	齊藤隆治	齊藤良助	小倉芳衛	飯田由松	日改浩	郡司清衛	椎名四郎	吉田與一郎	石井英正	缺員	缺員	松戸政吉	小川長藏	伊藤照兵	缺員	極草明治	横山與	笠川太兵衛
藤崎利助	佐藤春治郎	藤田逸郎	高柳廣吉	飯田平八郎	平山菊之助	椎名清	伊藤米藏	久保田清治郎	遠藤省吾	山倉貞治郎	木内基治	缺員	缺員	富澤藏三	川城孝行	林隆則	伊藤虎之助	穴倉勤助	伊原茂平次	伊原茂平次	笠川太兵衛
中	古	豐	飯	中	吉	日	東	多	久	栗	常	山	府	良	森	八	神	小	豐	大	津
高木文藏	實川吉太郎	林謙二郎	澁谷武	平山成之助	大木健之助	群司正中	鈴木金一郎	大竹作五郎	齊藤治郎吉	石橋武右衛門	林敬司	木内好郎	保科幸太郎	菅谷浩平	石毛政太郎	岩立卯兵衛	小山田傳次郎	小堀晃三	篠塚正樹	成毛種吉	角田常次郎
小久保徳司	金杉利三郎	佐藤彦次郎	林藏之助	佐藤喜重	渡邊寛七郎	鈴木伊平	欠員	佐藤芳郎	菅澤文夫	齋藤賀市	平野友三郎	相馬林平	宇井太衛	高橋治司	谷本嘉一郎	圓藤重雄	日下部千太郎	増田稻雄	高岡久藏	畔蒜義亮	久保木太司
宮負佐一郎	實川廣	久古清藏	木下福海	押田源司	秋葉金作	宇井和市	長風卯八	高岡進	平山正	堀越誠	欽員	林正毅	越川保	向後金藏	菅井英三郎	平野助治	宮崎金一郎	高岡政五郎	大坂善八	神崎憲一郎	久保木諷

法塚大鎌中葛八船行南浦	白里平富高鶴内牛戸養	典田柏谷町飾榮町町德町	鳥見三山瀧町	葛邊玄蕃	鈴木半藏	中村規矩郎	箕輪恒爾	征矢賢一	角田幸吉	鶴岡省三	星野懿吉	伊賀貞藏	馬立利助
高橋恒治	森田治郎吉	板橋治一	皆川九兵衛	岡田耕平	加藤貞次	西村宏一	後藤秀四郎	中島勢一	近藤喜一	田中常平	田中平二	佐久間惣策	南雲農夫也
德田正雄	高橋清右衛門	植草奥藏	欽員	中山泰明	竹内芳太郎	齋藤春次	矢橋暈	田中稔	高橋初太郎	柳町瀧信	飯塚莊之助	橋本美之助	堀井國藏
中尾玄泰	缺員	杉田貞利	鈴木利	立石峰松	石井丑松	小澤恒	堀井國藏	飯塚莊之助	柳町瀧信	金子一雄	中村孝	佐増與吉	吉野信次
木間少瀬	川福	旭町	野田	福田	梅郷	新川	田中	八木	流山	馬橋	小金山	柏町	土高
岩本助次郎	山崎藤三	宮田金藏	勝田慎咲	茂木要右衛門	大久保源七	高梨箕	柳澤清春	窪田甚造	吉野誠	佐久間龜藏	横山定市	綿貫政吉	濱島秀保
木村利之助	野島佳太郎	吉野精一	藤井久右衛門	黒川勇太郎	小泉謙三郎	中川庄作	杉村勝太郎	石塚石五郎	鈴木萬太郎	渡邊資三郎	齋藤清	佐久間榮作	谷川磯吉
知久玄一	岩瀬清三郎	大瀧勇助	飯田武雄	新井熊雄	山路岩吉	山田信太郎	豊嶋明七	荒木貞吉	鑄木榮次郎	八木清	嶋野彦太郎	竹内親義	中山諒太郎

太江和南北丸豊千健千七白國瀧平佐保勝岩富八船	見田三三原村田歳田町浦濱府村群間町町町浦東町	川名謙一	欠員	戸田榮吉	伊豆萬治郎	吉野民造	青木平次	神崎吉藏	立川半平	小西鍋吉	栗原剛	早川敬治郎	山口道太郎	渡邊藤次郎	小澤佐助	三瓶儀之助	關口二郎	白熊三夜	椎津宗	戸田喜助	小柴金一郎	江澤賢治
大場喜平治	山内如川	庄吉松壽	近田房治郎	川上金治	青木嘉一	石井武	笹子至誠	田村政吉	大野萬治	齋藤萬藏	欠員	安藤長兵衛	白石初五郎	高梨庄平	重田彰	重田嘉一	小藤藤和	能重正員	欠員	地引勳	庄司彦太郎	森田敬藏
千原嘉市	山名龜博	劍持康司	水鳥卯三郎	黒川榮治	佐野良太郎	石崎小助	松本彦吉	高橋義一	宇山瀧藏	岡田隆太郎	渡邊平藏	御子神吉男	高梨正一郎	平島喜之助	田村孝敬	小野井健章	忍足定次	鳥山清吾	徳積虎吉	森田敬藏	會大	呂山
西原	坂卷和三郎	秋葉義雄	柳澤幹	大野岩吉	立野徳次郎	藤田昌邦	石渡申之	齋藤亮	池田睦三	市川石三	市原郡	小澤寅吉	武津爲世	戸坂清次	尾澤建一郎	榎本敏太郎	鈴木信道	川名博	早川貞藏	渡邊福治郎	吉田熊吉	佐藤福太郎
鈴木源一郎	中島庄五郎	林元一郎	川島鼎	谷口隆元	野村孫一	霜崎利三郎	鶴岡半藏	金子久義	池田睦三	森清馬	池田睦三	齋藤厚五郎	菊地仙吉	近藤清次	長谷川國太郎	川上半次	高梨萬藏	太田友太郎	佐久間勝治	細田直治郎	石井慶治	石井慶治
伊藤孝平	高澤清七	小出泰	高石琢郎	加藤清則	齋藤享次郎	佐々木慶一	伊藤春次郎	根本清	松田松次郎	鎗田猪三郎	長谷川邦治	吉野源松	高房常治	庄司薫	太田富藏	粕谷鶴松	松本吉太郎	川名嘉一郎	川崎良助	石井慶治	石井慶治	石井慶治

飯岡町	櫻田清藏	鈴木周藏	向後尙太郎	加藤正策	齋藤直吉	缺
豊岡町	宮内太重郎	常世田新治	加瀬孝太郎	佐藤虎吉	欠	缺
木更津町	石川善之助	齋藤繁治	藤浪清八	川俣常治郎	大曾根保	缺
清川根	時田忠藏	星野泰	鈴木仙藏	中山哲四郎	高橋米之助	永島才兵衛
金田	槍田喜十郎	大森昌三	矢野治	石井忠五郎	相澤廣治	川崎亘
長浦郷	遠山菊次郎	小出林藏	中村利雄	小泉吉五郎	平野周助	須藤又藏
中形郷	石井正之助	山田猪	分目巖夫	織本泰	多田藤平	平野勝濂
根岡	高橋光雄	山田猪	欽	鈴木一	八木下清太郎	山口城司
平岡	吉堀正雄	欽	石井正	平野浦次郎	金井勝次郎	上原治吉
馬來田	野村惠一郎	佐久間忠次郎	御幸尾喜作	山本桂太郎	松崎常太郎	欠
小櫃	高野伴藏	子安仁平	室親信	正司保	松崎常太郎	欠
久留里町	和田德太郎	松本柿之助	欽	小安嘉六	石井正太郎	明石茂七
松山	四宮保	欽	鶴田新太郎	三浦峰吉	高梨吉太郎	石原源之助
龜山	笈川林兵衛	鳥海周作	欠	島野廣治	白井謙治	島野綱五郎
中川	能星喜光	山口慶藏	欠	進藤京爾	鈴木顯次	進藤道太郎
富岡	大河原隆三	山田吉孝	伊藤重博	池田友一	松井茂八	飯田清太郎
録岡	平野福藏	池田政司	大鐘武司	安藤要太郎	石井千之助	飯田清太郎
波岡	鈴木勝次良	坂口儀兵衛	根本喜八	關健治	神頭淺次郎	欠
八重	齋藤万吉	香取仁左衛門	欠	關健治	神頭淺次郎	欠
周西	榎本政吉	岡崎彦次郎	小倉千太郎	關健治	神頭淺次郎	欠

二川	上原廉平	知久政藏	田中運次郎	齊藤國治	吉野貢	大竹庄三郎
關宿町	杉本峯藏	小島豐吉	小島豐吉	芝崎龜吉	江澤林次郎	藤平左京
布佐町	新堀良平	笠井三郎	新堀信平	渡邊義一	久我傳一	渡邊一司
糊北	中野傳治郎	豐島清一	阿會新之助	佐藤次介	鈴木定雄	君塚一衛
我孫子町	染谷正治	平賀平作	須藤傳右衛門	神定新吉	中村和	神定喜一
富勢	成島勇	川村喜三郎	後藤榮七	關谷藤一郎	山口祐三郎	松本勝夫
風早	森鎌太郎	酒卷金藏	染谷貞治	長島金夫	鶴岡重治	莊司登
手賀	橋本榮太郎	海老原文治	江口常藏	藍野祐之	森田文作	橋場喜久雄
上野	長田一也	渡邊光治	鈴木信夫	松崎嶋治	岡野繁治	渡邊喜三郎
興津	安西直一	大森文太郎	高梨正吉	中村源二	久保田信勝	内堀喜會司
勝浦町	岩瀬常三郎	月羅源四郎	伊藤重三	淺岡幸之助	尾形德三郎	吉本八太郎
豊濱	吉田豐作	佐藤三郎	鈴木謙吉	野中清次郎	越川松太郎	山口友治
總元	磯野巳之松	塚本正作	柴關源吾	澤井藤平	石毛清右衛門	大胡清之助
老川	渡邊平三郎	永島慶藏	渡邊八藏	多田菊之助	滑川昇	石毛惣助
西畑	君塚角之助	野口至誠	鈴木要人	穴澤松五郎	川名利助	飯岡幸四郎
大多喜町	伊島伊之助	村上久治郎	猿田順藏	鳴崎山太良右衛門	遠藤與平	安藤富次郎
上澤	篠田賀	鹽田七五郎	野呂文雄	中西圓治	諸持國英	江崎忠吉
瑞澤	篠田賀	永野喜祿	鈴木覺治	加瀬源右衛門	長谷庄太郎	新行内忠藏
千澤	金綱健治	高木八郎	粕谷儀平	江崎常七	平野丑太郎	林祐作
古澤	石野圭一	北根吉作	北根吉作	宮内初太郎	鈴木長次郎	小林鶴吉

△佐原中學校

池邊 光雄 教諭心得
宮内 隆親
茂住 定次
篠丸 頼彦 校長
松岡 銀六 教諭
小野寺篤一郎
渡邊 二三
中村猛三郎
豊原信一郎
佐々木一太郎
林 英夫
田中 虎助
榊 直
石井 篤
切替 彰
松島 重二
吉村 橋次
丸山 昇
井上 武夫
小川 芳文
白銀 隆

△成東中學校

沖 仁太郎
五十嵐 蹄
中山 音彌
深山 平治
與世里盛春
前嶋 成
佐藤 一男
佐藤 省二
金井 勝衛
井上平四郎
竹内 正敏
加藤 政義
鈴木 武彦
黒澤 隆信
山越 義夫
大木 壽夫
杉山 玉朔
長門 義保
木村 次郎
本山 守
横山 定雄

△大多喜中學校

清水浦次郎
渡邊 佐吉 教諭
鈴木 諒
草間國五郎
鶴岡 要藏
稻葉 隣作
安東 卓之
花澤禎三郎
關 英一
徳永 賢徳
尾崎 泉
寺崎彌三郎
川名 良雄
池田 醇
能勢馴二郎

△安房中學校

藤田 益行
繩田 神象
矢島 太郎
本庄 孝一
影山 誠一
山本喜衛門
景山 直治
住吉 匡
能重 利一
松浦榮次郎
鈴木 榮吉
中野八十二
永峰 進
山村 圓三
澤渡鏡太郎
藤田 要藏
鈴木 金平
唐鎌 純司
神作 隆貫
伊藤 千二
村崎 勇

△長生中學校

小川 清
倉橋 正一
宮本 弘道
山本 東一
藤尾恒九郎
妹尾 榮藏
岩下 資治
牧野 武夫
境野 善雄
鈴木 重男
丸島 茂
白戸 一郎
高木 一

△東葛飾中學校

東條 鳳平
池田 實
高橋陸奥雄
小林 藤作
川上 哲三
原 直一
服卷 信雄
佐々木數房
福田港三郎
清田紀七郎
板倉 彌作
梅原 壽充
井口 喜一
川副 國基
前田 松壽

△匝瑛中學校

五十嵐芳雄
原澤 貞
山崎 晨
岩波 長吉
山本 功一
河原塚福司
清水 良作
野口 正藏
吉田 彌六
平野 廣一
高宮 治一
本橋 亮
米田 柱三
齋藤 現吉

△千葉縣立市原中學校

高橋 登
石井 好男
氏家 次郎
緒方 西夫
高橋 靜雄
古澤 三郎
橋本 齊
鈴木傳三郎
鹽田 廣司
淺倉 義雄
飯田 三雄
山口 信一
小笠原吉治
田中 勝夫
齋藤 剛
加藤 文夫
鶴澤 浩
染野 利七
東郷 豊治
横島 三樹
石井 恒一

助教諭 勝呂 亮 佐久間義一 小川己代治

△成田高等女學校
校長 荒木 照定 顧問 笹川 種郎 校長 佐藤 國二 教諭 並木 颯太 太田 和彦 渡貫 幾久 山内 貞

△八日市場敬愛高等女學校
校長 長戸路政司 教頭 高橋淺治郎 教諭 森田 三郎 齋藤友治郎 藤本小太郎

△私立靜和高等女學校
校長 大島 武雄 新井 昭 間崎 周意 宮越 千隆 新井 シン 塚本 トキ 中西 ツナ 今井 浩 氏家 次郎 越川 清 椎名 政

△千葉淑徳高等女學校
校長 福中儀之助 教諭 鈴木安太郎 關田 貢 福原 徳 太田 とし 篠田きやう 篠崎萬壽夫 品田七太郎 豊田 こと 田中 榮忍 秋葉 高明 能勢 松枝 池田 とよ 築田 松次 古山 正枝

△國府臺學院高等女學校
校長 平田 華藏 栗屋 周祐 清水 亮作 萩尾淳之助 堀口 明子 渡邊 省三 木村 文江 大橋 眞澄 關 ヨシ 新井 忍い 石井 辰子 徳元 太郎 田川 八郎 山本ヒメコ 勝見 豊次 重田 ふみ 平田 蓮子 佐藤はつせ

△船橋高等女學校
校長 賀川 宣勝 教諭 栗野宗太郎 藤谷 眞淵

△銚子高等女學校
校長 小野 三郎 教諭 村井 彌六 増山 清三 渡部 良亮 松本 昌夫 椎熊 きぬ 肥田 爲雄 宮崎 才治 伊東 文 高野 みち 家田 彌江 星田千代恵 石田 かつ

△木更津高等女學校
校長教諭 塚田芳太郎 教諭 飯高 正聲 池田 祐治 今井嘉兵衛 鹿間 尙斌

△山武實科高等女學校
校長 須合久三郎 教諭 尾崎 直記 鎌田 謙吾

△大多喜高等女學校
校長 吉岡喜四郎 教諭 鈴木 徐人 永島仙之助 早野 清 田中マキエ 鬼島 俊郎 西村喜代子

△町立野田高等女學校
校長教諭 鈴木寅之助 教諭 伊藤伊之助 吉村 眞一 古藤 秋夫 川島 秀二 小笠原靜江 戸邊五十子 山田兼一郎

△大原高等女學校
校長 川島 爲作 教諭 角田 友彌 阪本 富也 花澤 靜江

△北條實科高等女學校
校長 小倉 太一 教諭 福田 定吉 鈴木恭太郎 近藤 鎮雄 竹下 もと 芝崎 謙平 行木 愛子

△御宿實科高等女學校
校長 元吉 亮 教諭 白井利喜男 座間 美津 松川とみ子 佐藤 誠

△成田實科高等女學校
校長 青木 倉吉 教諭 白井 てい 白鳥 千代

△大森高等女學校
校長 大森 芳江 教諭 長谷川 通 熱田 貞子 根岸 花 高橋 竹 加藤 千代 今村 純子

△大宮高等女學校
校長 宮坂 武吉 教諭 乘附 ムメ 大森 芳江 松本千代二 長谷川 通 熱田 貞子 根岸 花 高橋 竹 加藤 千代 今村 純子

△高浦高等女學校
校長 高浦 忍つ 教諭 田上 群一 小玉 榮子 淺野登美子 梅崎專太郎 大森 菊野 中村 清子 營本榮一郎

△北條實科高等女學校
校長 小倉 太一 教諭 福田 定吉 鈴木恭太郎 近藤 鎮雄 竹下 もと 芝崎 謙平 行木 愛子

渡邊 綾能 多古農
 高橋 コウ 君津農林
 石井 要 野田農
 大崎彌太郎 印旛實
 小川 久榮 八生農
 川崎 ハル 小御門農
 望陀農
 天羽農
 小見川農
 周准農
 大須賀農
 植岡農林
 八街農林
 銚子商
 千葉商
 一宮實
 東葛農
 關東商
 安房水
 東金女子
 長狹實女
 佐原淑徳

鳴原 篤一 △各種學校長
 杉田 進 明倫中
 眞田 實義 中山學林
 山崎常四郎 印西
 横山 茂男 旭敬愛
 永野 健 匠瑳普通
 大矢 敏範 修齊中
 伊藤 士平 大網中
 島山 廉 三省
 四ノ宮 喬 東洋
 柏 掃部 昭和
 藤 倫治 修養
 西村 繁 私立弘文
 久保田勝彌 姉崎農業
 藤原 力雄 南總
 志田 修一 市川
 山崎 修一 高松
 長戸路政司 私立印西
 菅沼 九一 公民
 高橋 あい 私立天邊
 横尾 とし 海上
 井上 はな 公學

山口 永隆 私立清泉
 日本三育
 アンドリユー、エン、ネルソン
 石渡 省吾
 庄司 徳誠
 山口 永隆
 讚岐 角二
 長戸路政司
 遠山 秀夫
 大和 たけ
 廣瀬 環
 浅川 いろ子
 竹下 よね
 土岐 きよ
 佐久間惣治郎
 川島 乙女
 市原 千代
 秋葉 はつ
 小川 たま
 國友 銚
 小柴 しげ

私立三枝裁縫 三枝彌太郎 松尾裁縫
 私立和田裁縫 和田 ひさ 片貝裁縫
 私立千脇裁縫 千脇 はく 靜修裁縫
 私立蕨裁縫 蕨 きぬ子 清水裁縫
 大木裁縫 大木 菊壽 私立藤井裁縫
 山澤裁縫 山澤 よし 野島裁縫
 私立大塚裁縫 大塚 とよ 小沼裁縫
 千葉縣五井家政 安田 格 二川裁縫
 秋立八幡裁縫 田中 はま 成東裁縫
 國府臺學院家政 平田 華藏 私立白里裁縫
 私立八街裁縫 原 けい 東金裁縫
 伊藤裁縫 伊藤傳四郎 私立板倉裁縫
 私立實踐裁縫 大谷 セン 長生裁縫
 私立佐倉裁縫 大石 登久 私立小倉裁縫
 佐原淑徳裁縫 井上 はな 松崎裁縫
 旭實科裁縫 金杉 律 安房 青木與四郎
 旭裁縫 青柳 とみ 私立加藤助産婦 加藤 義治
 仲田裁縫 仲田 きさ 指定十葉市醫師會附屬千葉看 田村六三郎
 庚戌裁縫 宮内當二郎 護婦學校 田村六三郎
 阿部 かう 補習學校
 高橋淺治郎 町立千葉縣東金公民
 武田裁縫 武田 とり 大橋 主城

石橋 かつ 鋸南實科 伊藤庄之助
 吉井 たけ 御宿實科 元吉 亮
 土屋 いう 長者實科 岡田鴻三郎
 清水 やす 中正學校 武田宗二郎
 藤井 千代 千葉縣農會立家政女學校 山崎時次郎
 野崎 いち 篠原 藏司
 小沼 登里 東金家政 篤塚 平内
 宇井 うめ 鍼線 高野吉太郎
 關 さと 共立モスリン中山女學校
 市東彌十郎
 高橋 あい 盲啞學校
 野老 せい 縣立盲 根岸 福彌
 永野 たけ 千葉縣立聾啞 根岸 福彌
 小倉 こう 私立成田清聚學院高津 親義
 松崎 ます 小學校
 青木與四郎 千葉市 千葉高等 學級政一七
 加藤 義治 鶴殿新太郎
 田村六三郎 戸田 政一 校 醫
 山崎 曠 齒 醫
 和田 英 千葉第一尋 學級數二四
 田中 源 長 中村 佐忠

佐藤榮之助 海實愛次郎 穴倉 勝 尾崎 喜一 時田 仙松 積田善一郎 小菅 しん 蒲田 千代 松本 康子 酒井はる子 那須 つる 長谷川久子 澁谷 一づ 永井 迪男 高宮平八郎 伊豆 三良 岡澤 一夫 篠崎彌壽子 伊藤 勝 楠原 房治 中臺 一 早瀬 八重

山越富美榮 板倉 純三 鈴木 しげ 市川 重平 大熊福次郎 武藤切次郎 學級數二六 永井村太郎 稻生 八郎 金籠 省三 外山 盈 鴛田 長司 小野 孝 貝塚 雄一 高木 みつ 篠崎 孝 水原 きく 君塚 常好 國松富美子 大塚 昇 林 てう 石毛喜與恵

飛田 うめ 根本 ウラ 佐野 ちよ 高宮 榮一 景山 貞子 服部 はな 眞下 武 魚地 俊 重田 まつ 積田 まき 布留川せつ 瀧原 義雄 川田 浩 金澤 靜枝 稻葉 つね 藤原 治郎 花岡 和夫 入野 憲三 學級數二四 尾形 猛男 柏熊 俊司 渡邊 重造

御國生 正 内藤 歩 佐藤 祐保 外川 はつ 田邊 その 白井 與郎 外山 たく 小高彦之丞 石渡 類 勝山 むね 大井きぬ江 長谷川のい 元吉 速雄 篠崎ふじほ 笹本 サク 穴倉 芳衛 田中 嘉穂 川口喜美恵 鈴木 貞子 勝呂 善吉 羽生 ヒサ 木村 和子

○千葉第二尋
○千葉第三尋

山下 一郎 代 准 看婦 椎名 トヨ 校醫 武本 爲訓 同 田村六三郎 同 眞木利兵衛 同 學級數一四 長 院內尋 片岡 幹 長 高石 義一 片岡 みよ 澁谷 敬敏 渡邊 榮吉 石渡 勇 浪川 マス 紅谷 總一 島田 孝 濱田 三郎 長谷川平太郎 元吉 政子 小島 輝子 圓城寺悦作 中田 こう 大和久春子

齊藤 武司 看婦 鹽谷 揆一 穴川分教場 鴻 海蔵 訓 松本清次郎 學級數一八 校醫 白井 辰次 同 川島 治一 同 小出 浩 同 竹内 柳 東尋高 立野 乾吉 長 加藤 文彦 立野 良弘 森川 清 伊藤 修次 足立 君枝 森 しげ 高澤 武雄 齊藤 信夫 吉川 みよ 高梨 つる 入見 富貴 志村 とく

鶴澤 はな 學級數二 橋本 修造 加藤 しげ 鹽谷 揆一 鴻 海蔵 佐瀬 菫 學級數六七 宮内寛之助 八木 武雄 須之内 憲 廣田篤志郎 宮澤常次郎 江澤 皐壽 木村 勝 伊藤平三郎 日色 章三 西村 修平 宮崎長左衛門 赤坂 光 中村 貞

芹澤 照子 高橋 幸 關野 文平 石井 晴藏 中村 敏郎 大木 信 宮崎 なを 篠原 つね 木内志都衛 宮内成之助 赤坂 けい 瀧田 立 池野 昇 伊藤 綠 關野 しづ 渡邊 文雄 那須 隆太 山木 馨 三浦友治郎 宮内 たみ 長谷川己之助 小川 喜作

野中かつ子 大木 ます 助心
 根本 若子 渡邊 公介 東青訓
 池野八重子 小野 房子 指
 齊藤 治身 鶴重 清吉 中央尋高
 西村 美家 岡野 竹 長
 小鷲徳治郎 渡邊 千代 訓
 林 喜久 宮内 榮子
 増田悌成郎 伊藤 壽美
 中村三七子 菰田 文了
 長谷川 實 代 准 兼訓
 山田 水哉 鈴木 甚三
 佐藤 靜雄 土山 爲治
 高知尾信雄 高橋傳次郎
 座古喜代子 郷 長一郎
 酒井 清 松本 賢治
 市田 昇平 熱田謙治郎
 梨本 信次 田山 豊重
 山口 くに 塙 鋭次郎
 榎貝 松江 飯沼實女
 渡邊 アイ 長 教
 石井 はつ 久貝 ノブ
 小倉 清満

瀧田 佐多
 千葉新三郎
 石毛千代松
 高間 正治
 遠藤幸之助
 鶴澤 貫一
 石波 仙藏
 伊藤 憲
 矢橋 武夫
 加瀬 孫三
 名雪 喜三
 成毛 卓爾
 伊藤 了
 金澤 明
 關 まつ 訓
 山本 司郎 准
 木村みどり 衛婦
 植田 東代 校醫
 石毛 晋 中央商補
 渡邊 フク 教

江澤 トヨ
 木内 重
 御園津 婁
 石毛 その
 梶山 勝治
 林 和夫
 植村 操
 石毛 隆治
 長谷川はつ
 土佐 信子
 塚本 いち
 佐瀬 中
 平山 雄
 岩瀬 よし
 藤石萬次郎
 高根 勝次
 宮内 武
 齋藤 よし
 井橋佐四郎
 關谷得四郎
 塚本 すみ

囁 江畑 雪
 校醫 井橋作四郎
 指 ○中央青訓
 吉野長太郎
 大野 豊
 石井 國司
 浪川 光至
 高隆竹次郎
 明石 篤示
 伊勢崎西次郎
 學級數一三
 長島丑三郎
 田中丈三郎
 高安 周一
 篠原 茂雄
 石井 四郎
 石橋 清祐
 齋藤 あさ
 林 婦美子
 廣崎喜美子
 森山美與子
 子安富治雄

岩瀬 吉
 鹿野 なつ
 代林 伸治
 小川彌治郎
 臼井勝之助
 宮内 衡平
 青山 醇次
 丸島 鐵男
 學級數一八
 渡邊福太郎
 糸井 進
 高野 とよ
 成毛 敏子
 檜田 壽
 石毛 すゑ
 穴倉 季磨
 飯島 健二
 松戸 武雄
 武井 孝壽
 山本 さく
 加瀬忠治郎

○西農商補習
 高橋ウメ子 技師
 渡邊 賢造
 渡邊 寛
 高橋ウメ子 技師
 渡邊 賢造
 渡邊 寛

△銚子郵便局(二)
 沼田徳次郎
 關村 紀繁
 渡邊 亮治
 伊藤 一郎
 野口毅一郎
 曾根 治
 佐藤彌壽衛
 多田恒太郎
 荒田 清二

△千葉郵便局(一)
 局長 通信事務官
 同書記
 矢野 正雄
 森田 鐵三
 坂口 雄吉
 加藤 正治
 廣田 榮吉
 山本義一郎 技手
 緑川孝三郎 三等郵便局長
 鍋木 三雄 △千葉市
 大塚金一郎 市場
 高橋惣七郎

千葉市民の味方
市政浄化の筆陣

日刊千葉

社長 沼田市太郎

小湊鐵道株式會社

創立明治四十年五月九日
資本金 六百萬圓也

本社 長岡市藏王町八百番地
出張所 東京市日本橋區本町一ノ十五
專務取締役 田村豊太郎
支配人 田村文吉

北越製紙株式會社

場工岡長
町王藏市岡長
噸千四萬一產年

場工潟新
町尻沼市潟新
度封百五千二產年

場工川市
町川市縣葉千
度封萬百八千一額年

資本金 四百萬圓
創立 昭和二年六月

中山工場
館林工場

共同モスリン株式會社

社 專務取締役 長 川西青司
取 締 役 高野吉太郎
同 同 寶來市 片岡敬吉
同 同 同 鎌田正明
同 同 同 同 同

顧 頭 問 取
安 田 善 次 郎
安 田 善 兵 衛

株式會社 第九十八銀行

千葉市通町 (電話九六三六)

支店出張所
津船八木北鴨勝一大茂廳成横八成大蘇長吉
田更市
沼橋幡津條川浦原宮原南東芝場田森我者尾

株式會社 東金銀行

東金町 (電話一六六番)

各支店
大網 (電二一)
成東 (電四八)
八日市場 (電四)
出張所
椎名村
八街
横芝

世界無比壯烈極まる爆彈三勇士
美味廉價保健經濟日本一の三勇士味噌

〔陸軍糧秣本廠内糧友會御推獎〕
〔水産講習所 深山教授御推獎〕

三勇士(完全)味噌

千葉縣販購聯委託工場
三勇士味噌釀造發賣元

鈴木福德味噌釀造工場

千葉市寒川大橋際
電話千葉七六二番

株式會社

帝國興信所

千葉支所

支所長

千葉市本町一丁目

高橋鐵五郎

東京電燈株式會社

千葉支社

千葉市寒川
電話 一〇〇五—一〇〇八

近代的

正丸正家具百貨店

月賦販賣

丸正の歴史

日本代表的月賦販賣を以て自認する丸正家具店は元租正岡喜平太氏が郷里愛媛縣今治市外富田村から上京、東京麻布に始めて業を営んだのが明治四十二年であつた。以來新規軸な營業方法と信用第一主義な營業方針に年々隆盛を見、二代目正岡頼重氏は三年前に歐米を視察して月賦販賣上に新規軸を加え今日に至つた。現在本店を東京市澁谷區に置き支店を蒲田、王子、千葉、池袋の四ヶ所に設け關東全圓に亘つて其の地盤を擴大しつゝある

本店 東京市澁谷區神宮通り
電 青山一四三二番
支店 東京豊島區池袋驛前
電 大塚一三五六番
支店 東京市蒲田區蒲田驛際
支店 東京市王子區榎町局際
支店 千葉市通町
電話 千葉一三三三番

昭和八年十二月十五日印刷
昭和八年十二月十八日發行

(定價 二圓)

昭和九年

房總年鑑

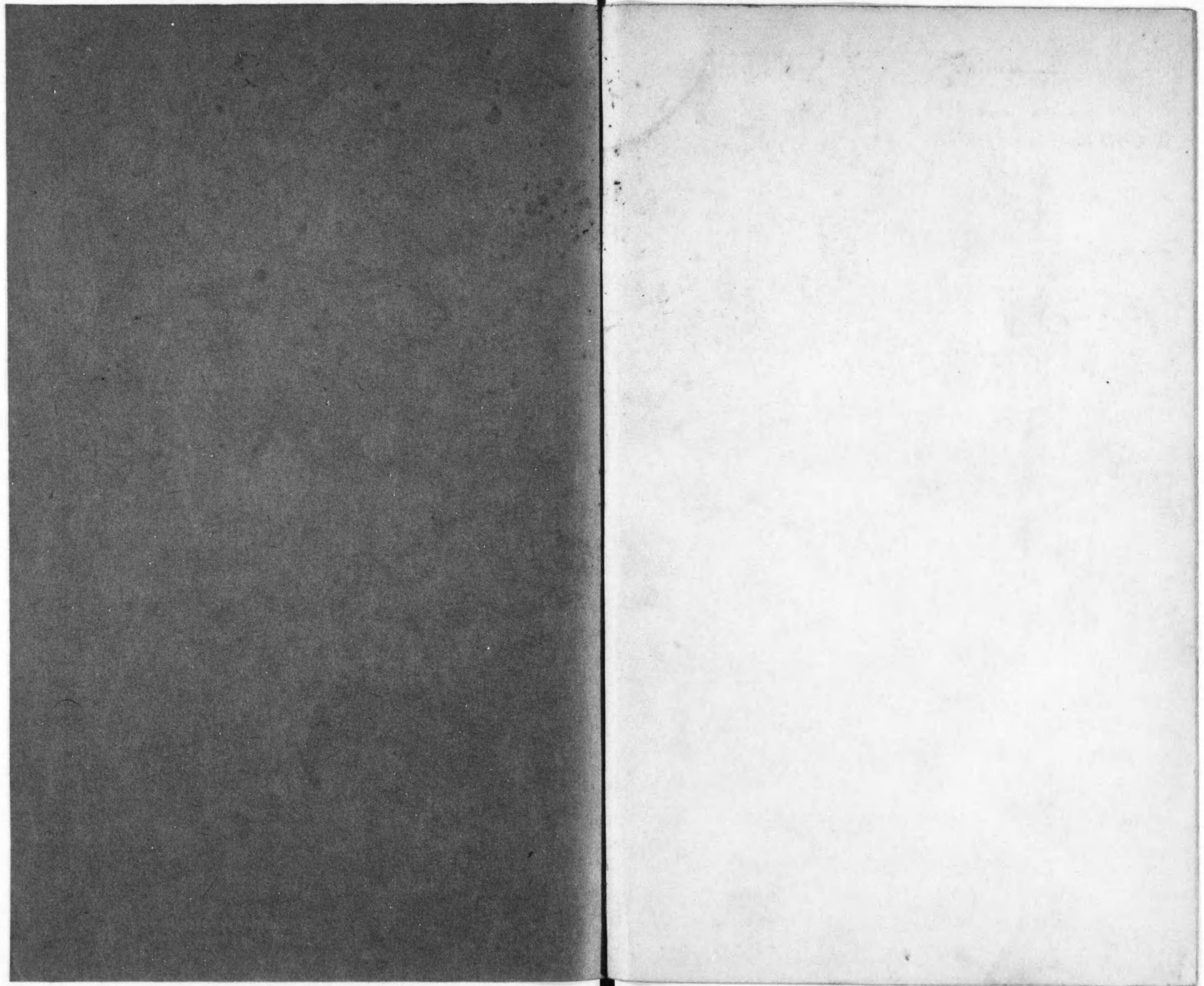
著者所有

編輯兼 發行 人 多 田 勇
千葉市北道場八八六
印刷 人 原 太 吉
千葉市北道場八八六
印刷 所 房總每日新聞社印刷部
千葉市北道場八八六

發行所

千葉市北道場八八六

房總每日新聞社



14.4
966

終